証券アナリストによる ディスクロージャー優良企業選定

(平成 26 年度)

公益社団法人 日本証券アナリスト協会 ディスクロージャー研究会

ディスクロージャー研究会委員

座 長 許斐 潤 野村證券

座長代理 伊藤 敏憲 伊藤リサーチ・アンド・アドバイザリー

岩田 直樹 野村アセットマネジメント

北山 信次 明治安田アセットマネジメント

夏子 哲也 みずほ銀行

津田 和徳 大和証券

森 清 岡三証券

渡辺 尚 明治安田生命保険

(五十音順)

ディスクロージャー研究会各専門部会長

建設・住宅・不動産 髙木 敦 モルガン・スタンレー MUFG 証券

食 品 山崎 徳司 大和証券

化学・繊維 金井孝男 シティグループ証券

医薬品 田中洋 みずほ証券

石油 · 鉱業 塩田 英俊 SMBC 日興証券

鉄鋼・非鉄金属 山口 敦 UBS 証券

機 械 齋藤 克史 野村證券

電気・精密機器 嶋田 幸彦 SMBC 日興証券

自動車・同部品・タイヤ 北山 信次 明治安田アセットマネジ・メント

電力・ガス 新家法昌 みずほ証券

運 輸 一柳 創 大和証券

通信・インターネット 忍足 大介 JP モルガン・アセット・マネジメント

商 社 成田 康浩 野村證券

小 売 業 正田 雅史 野村證券

銀 行 高井 晃 大和証券

コンピューターソフト 上野 真 大和証券

新 興 市 場 銘 柄 納 博司 いちよし経済研究所

個人投資家向け情報提供 竜沢 俊彦 野村證券

り

はし	じめに		• • • •		• • •			2 頁
ディ	ィスク	ロー	ジャ	· —{	憂良	企業	•••••	3
高л	火準の	ディ	スク	. п-	ージ	ヤー	を連続維持している企業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
ディ	ィスク	ロー	ジャ		の改	善が	著しい企業	4
概						括		5
各	専	門	部	会	報	告	•••••	7
		建	設・住	E宅·	·不重	加産		8
		食				品		14
		化	学	•	繊	維		20
		医		薬		品	•••••	26
		石	油	•	鉱	業		32
		鉄	鋼•	非	鉄金	属	••••••	38
		機				械	(評価再開) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	44
		電	気・	精	密機	器		50
		自重	動車・同	司部占	品・タイ	イヤ		60
		電	力	•	ガ	ス	(評価再開) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	66
		運				輸		72
		通信	・イ	ンタ	ーネ	ット		78
		商				社	***************************************	84
		小		売		業		89
		銀				行		95
		コン	/ピュ	ータ	ーソ	フト	(評価再開) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	101
		新	興「		景 銘	柄	•••••••••••••••••••••••••••••••••••••••	107
		個人	投資家	家向に	情報:	提供	•••••	113

はじめに

日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会は、企業情報開示の促進・向上を目的として、「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」制度を平成7年度からスタートさせましたが、このほど平成26年度(第20回)の選定結果がまとまりましたので、ここに発表します。

本制度における業種ごとの優良企業選定は、当初は7業種を評価対象としてスタート致 しましたが、その後対象は漸次増加し、これまでに評価対象とした業種は16となりました。

本年度は、建設・住宅・不動産、食品、化学・繊維、医薬品、石油・鉱業、鉄鋼・非鉄金属、 機械、電気・精密機器、自動車・同部品・タイヤ、電力・ガス、運輸、通信・インターネット、 商社、小売業、銀行、コンピューターソフトの全業種を評価対象としております。

また、平成 17 年度から、従来の業種別優良企業選定とは別に、新興市場銘柄および個人投資家向け情報提供における優良企業選定を開始し、本年度も継続しております。

当研究会は、今後もこの制度による優良企業の選定を通じて企業情報開示の促進・向上、充実に寄与して参りたいと存じますので、関係各方面のご理解とご支援をお願いする次第であります。

ディスクロージャー優良企業

建設・住宅・不動産	大 東 建	託((5回連続6回目)
食品	アサヒグループホールディング	^デ ス ((12 回連続)
化学・繊維	旭 化	成((11 回連続)
医 薬 品	ア ス テ ラ ス 製	薬((5 回連続)
石油・鉱業	JXホールディング	ス((2回連続4回目)
鉄鋼·非鉄金属	住 友 金 属 鉱	山 ((4 回連続)
機機械	小 松 製 作	所((6 回連続 10 回目)
電 気・精 密 機 器	日本電	產 ((5 回 目)
自動車・同部品・タイヤ	富士重工	業((新 規)
電力・ガス	東京瓦	斯((3回連続8回目)
運輸	東日本旅客鉄	道((3回連続7回目)
通信・インターネット	K D D	I ((3回連続9回目)
商 社	三 井 物	産((新 規)
小 売 業	ロ – ソ	ン((3回連続8回目)
銀 行	三菱UFJフィナンシャル・グルー	-プ ((3 回 目)
コンピューターソフト	s c s	K ((2 回 目)
新興市場銘柄	セリ	ア((新 規)
	メ ッ セ ー	ジ((3 回 目)
	イ リ ソ 電 子 エ	業((2 回連続)
個人投資家向け情報提供	JXホールディング	ス((2 回連続)
	シスメック	ス((3 回連続)
	日 本 電	産((2回連続8回目)

高水準のディスクロージャーを連続維持している企業

本優良企業選定制度において直近3回連続して上位(2位ないしは3位)の評価を受けた次の5社を高水準のディスクロージャーを維持している企業として称賛状を贈呈することと致しました。

化 学 ・ 繊 維 昭 和 雷 I 医 薬 品 シスメック ス 機 械 = 菱重 エ 業 電力・ガス 大 阪 瓦 斯 通信・インターネット カカク コ 厶

ディスクロージャーの改善が著しい企業

ディスクロージャーの改善が著しいとして評価された次の3社に称賛状を贈呈すること と致しました。

 食
 品
 明治ホールディングス

 石油・鉱業
 昭和シェル石油

 機
 械ア

ディスクロージャー研究会 座 長 許 斐 潤

本ディスクロージャー優良企業選定は本年度で20回目を迎えたが、その概要は次のとおりである。

1. 評価対象

- (1) 業種別については、原則として東証一部上場株式時価総額を基準として選定した、建設・住宅・不動産(16社)、 食品(23社)、化学・繊維(18社)、医薬品(18社)、石油・鉱業(7社)、鉄鋼・非鉄金属(14社)、機械(20社)、 電気・精密機器(23社)、自動車・同部品・タイヤ(20社)、電力・ガス(14社)、運輸(17社)、通信・インターネ ット(9社)、商社(7社)、小売業(18社)、銀行(14社)、コンピューターソフト(13社)の16業種合計251 社を対象とした。
- (2) 新興市場銘柄については、ジャスダック、マザーズ、セントレックス、Q-Board およびアンビシャスの五つの市場に上場している企業の中で、時価総額が上位であって、かつその企業を調査対象としているアナリストの数が一定以上の29社を対象とした。このうち15社は昨年度からの継続評価対象、4社は再対象、10社は新規である。
- (3) 個人投資家向け情報提供については、本年度のディスクロージャー優良企業選定対象である各業種(16 業種) および新興市場銘柄についての選定結果における上位 1割(小数点切上げ)のうち、平成 25 年 7 月から 26 年 6 月までの間において、「個人投資家向け会社説明会」を開催している企業の 23 社を対象とした。このうち、継続対象が 18 社、再対象が 2 社、新規が 3 社である。
- (4) 評価対象としたディスクロージャーの状況は、原則として、平成 25 事業年度に関する企業情報(平成 26 年 6 月の評価実施時点までに開示された情報を含む。)に係るものとした。

2. 評価方法等

(1) 業種別評価基準は、各業種共通項目として、「1. 経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス」、「2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示」、「3. フェアー・ディスクロージャー」、「4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」、「5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示」の五つの分野を取り上げることとした。各分野の配点は、一定の範囲内で各専門部会が決定し、また、各分野の具体的評価項目、配点も、それぞれの専門部会の判断に基づき設定した。

この業種別評価基準(スコアシート〈以下同〉)に基づき、証券アナリスト経験年数 3 年以上でかつ現在当該業種担当概ね 2 年以上のアナリスト、延 521 名が評価を行った。なお、各評価対象企業の評価に当たっては、各アナリストの自主申告により、過去 1 年間における当該企業への接触回数(4 回以上)の要件を満たしていることとしている。

- (2) 新興市場銘柄については、各評価対象企業の業種が一律でないことから、上記の5分野のうち、「各業種の状況に即した自主的な情報開示」を除く4分野に関して、10項目の具体的評価基準を設定した。この評価基準に基づき、新興市場銘柄をカバーしている(当該企業の情報開示に関しコンタクト実績がある)67名のアナリストが評価を行った。
- (3) 個人投資家向け情報提供については、「1. 個人投資家向け会社説明会の開催等」、「2. ホーム・ページにおける開示等」、「3. 事業報告書等の内容」の3分野について16項目の具体的評価基準を設定した。この評価基準のうち、5項目については、各評価対象企業にアンケート調査を実施しその回答結果を基に評点を付した。残りの11項目は、証券会社において、個人投資家向けの情報提供に携わっているアナリストから構成されている「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員が評点を付し、最終評価は両者の評点を合算して行った。

(4) 上記の評価結果を基に、経験豊富なアナリストで構成する各専門部会(18部会、計133名の委員)において 慎重に分析し、各部会としての報告書の取りまとめを行った。当研究会は、この報告書を基に各業種等の優良 企業の選定を行った。

3. 評価結果

評価結果の詳細は、後掲の各専門部会の報告に示すとおりであるが、その概要は次のとおりである。

(1) 業種別における評価平均点は、建設・住宅・不動産 70.6 点(昨年度 70.1 点、以下カッコ内は昨年度)、食品 60.2 点(60.8 点)、化学・繊維 73.2 点(73.0 点)、医薬品 73.3 点(73.2 点)、石油・鉱業 68.8 点(71.5 点)、鉄 鋼・非鉄金属 73.7 点(73.3 点)、機械 67.6 点(休止)、電気・精密機器 73.5 点(72.0 点)、自動車・同部品・タイヤ 65.1 点(64.2 点)、電力・ガス 65.4 点(休止)、運輸 70.8 点(65.8 点)、通信・インターネット 68.5 点(69.4 点)、商社 75.4 点(74.3 点)、小売業 74.2 点(72.5 点)、銀行 77.8 点(76.8 点)、コンピューターソフト 63.7 点(休止)であった。

業種別における業種間の評価平均点の違いは、具体的評価項目の内容および配点に業種間の相違があることも 反映している。また、昨年度の評価平均点との比較に関しては、具体的評価項目の増減や内容の修正、配点の見直し、対象企業の増減といった点等を考慮する必要がある。従って、一概に数値の増減だけでディスクロージャーの水準について昨年度と厳密に比較することは難しいものの、各業種別専門部会における評価結果の取りまと め審議や、評価を行ったアナリストの意見等を総合的に勘案すると、企業のディスクロージャーは概ね向上傾向にあると評価することができる。ちなみに、本年度は、改善が著しい企業として3社が挙げられた。

なお、「有益な、工場見学会、事業部説明会、技術説明会、店舗(施設)見学会等の積極的な開催」については、多くの業種において、総じて評価の水準が低く、今後の改善が望まれる。

(2) 新興市場銘柄の評価平均点は 63.4 点 (昨年度 63.6 点) であった。

本年度は評価対象企業 29 社中、再対象 4 社と新規対象 10 社が含まれていることを勘案すると、数値上からディスクロージャーの水準について昨年度と比較することは難しい。しかしながら、評価実施アナリストの意見を見ると、多くの企業で、経営陣自ら IR を行っていること等その取組姿勢や、IR 部門の対応等その機能について、評価することができるとの声が多かった。

(3) 資本市場の活性化を図るためには個人投資家の株式市場への一層の参入が不可欠であるとの認識が高まるとともに、近年多くの企業において、IR 活動の対象として個人投資家を重視する傾向が高まっていること等を考慮し、本制度の対象として継続して個人投資家向け情報提供を取り挙げた。

本年度の評価対象企業の評価平均点は73.1点であった。

評価結果を見ると、本年度も多くの評価対象企業が、個人投資家に対する情報提供を充実するための努力を行っている様子がうかがえた。例えば、具体的評価項目とした「個人投資家向け会社説明会の開催」については、過去1年間の平均開催回数9.9回(昨年度9.5回)と昨年度を若干上回っている。また、全対象企業の23社中、17社が同説明会の内容をホーム・ページに掲載しており、そのうち11社(65%[昨年度同率])は、動画または音声配信をしている。その充実度や分かりやすさについての評価結果も昨年度を若干上回った。また、ホーム・ページに個人投資家向けコーナーを設けている企業は、全社中22社(96%、同95%)あり、画面構成や分かりやすさ等に工夫が見られるほか、事業報告書等の内容について、写真、グラフ、図表を適度に用いて、個人投資家が知りたいことを分かりやすく、かつ簡潔に説明するといった努力がうかがえる企業が多く見られた。

最後に、本年度の作業には、各専門部会委員およびスコアシート記入者として多数の経験豊富なアナリストが参加されたが、いずれも多忙を極める中で、企業ディスクロージャーの促進・向上、充実を目指し、真摯な姿勢で精力的な作業に当たっていただいたことに対し、ここに深甚なる感謝の意を表したい。

【各専門部会報告】

18 部会

社名は登記社名に統一し、平成26年10月6日現在である。

[評価実施アナリストの所属会社名は原則として評価実施時点(6月)で統一]

建設:住宅:不動産

大成建設、大林組、清水建設、長谷エコーポレーション、鹿島建設、大東建託、大和ハウス工業、 積水ハウス、東急不動産ホールディングス、TOTO、LIXIL グループ、リンナイ、三井不動産、 三菱地所、東京建物、住友不動産 (計 16 社・コード順)

1. 評価方法等

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基 本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	9	36
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	5	17
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	12
# <u></u>		24	100

⁽注) 具体的な評価項目および配点は 12 頁参照

(2) 評価実施(スコアシート記入)アナリストは30社の37名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 11 頁参照)。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、1項目の内容の一部を変更して評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は70.6点(ちなみに昨年度は70.1点)となった。また、対象企業の総合評価点の標準偏差は6.6点(昨年度7.9点)であった。

評価項目の 5 分野について平均得点率 (評価対象企業の平均点/配点 (以下省略)) を見ると、**経営陣の IR** 姿勢等が 72% (昨年度 70%)、説明会等が 72% (同 73%)、フェアー・ディスクロージャーが 74% (同 75%)、コーポレート・ガバナンス関連が 63% (同 63%)、自主的情報開示が 64% (同 63%) となり、昨年度と同水準の評価となった。

具体的評価項目を見ると、全 24 項目のうち、2 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に次の項目は多くの企業において 80%台以上の高い得点率(評価点/配点〈以下省略〉)の評価となった。

・ 部門別の利益率の実績と見通しが十分に開示されている (平均得点率 80%、[得点率 90%台:2 社、80%台:11 社])

一方、次の 3 項目は、多数の企業で低い得点率にとどまった。特に①は、前回の得点率を下回った企業が 10 社あることから、今後の改善が強く望まれる。

- ① 現在採用しているガバナンス体制について十分な説明がされている(同 60%、〔同 60%未満:4 社、前回より悪化:全社中10社〕)
- ② 説明会または電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで迅速かつ十分な期間の視聴等が可能(同 60%、[同 60%未満:7社])

 たが、建設が他の2業態と大きな格差がある状況は変わっていない。

(2) 上位個別企業の評価概要

大東建託 (ディスクロージャー優良企業 [5回連続6回目]、総合評価点:85.1点、第1位)

同社は、5 分野全てにおいて第 1 位となり、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率〈以下省略〉89%)、説明会等(86%)、フェアー・ディスクロージャー(84%)、コーポレート・ガバナンス関連(84%)、自主的情報開示(79%)であった。

各分野について具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、経営陣が説明会に出席し、現況を伝えようとする前向きな姿勢や投資家との対話を経営に活かしていること等、経営陣の IR 姿勢が高く評価された。また、IR 部門に十分情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができること等、同部門の機能が充実している点が極めて高い評価を受けた。 さらに、低収益事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していることも高く評価された。

説明会等においては、短信および説明会資料等の数値や、文言の理解を深めるような十分な説明を行っている 点等、説明会、インタビューにおける開示について高い評価を受けた。また、説明資料に部門別の受注または売 上見通しが記載され、かつ部門分けが業態に即していること等、説明資料の開示が詳細で充実している点が高く 評価された。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示していることも高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について総じて高い評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、具体的な株主還元策の数値目標を明示していることが他社と格差のある極めて高い評価を受けたほか、中長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策を十分に説明している点も評価された。

自主的情報開示においては、平均得点率が最も低水準であった3項目の一つである、期中の定量的データの開示に関し、月次情報等を十分に開示していることが高い評価となったほか、CSR報告書・環境報告書の内容が充実している点も評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

長谷エコーポレーション (総合評価点:77.2点、第2位←2位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (85%) および説明会等 (80%) が第 2 位、フェアー・ディスクロージャー (78%) およびコーポレート・ガバナンス関連 (70%) が第 4 位、自主的情報開示 (58%) が第 13 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、経営陣が積極的に説明会および取材に対応しているほか、現況を伝えようとする前向きな姿勢であること等、経営陣の IR 姿勢が高く評価された。また、IR 部門に十分情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができることに加えて、部門別取材対応や定期的なマンション市場説明会の実施等、IR 部門の機能が充実している点も高い評価を受けた。

説明会等においては、短信および説明会資料等の数値や、文言の理解を深めるような十分な説明を行っている 点に加え、質疑応答が満足できること等、説明会、インタビューにおける開示について評価された。また、説明 資料に部門別の利益率の実績と見通しが十分に開示されているほか、部門別の受注および売上見通しが記載され、 かつ部門分けが業態に即している点も高い評価となった。さらに、四半期ごとの説明会資料が分かりやすく、決 算発表当日の電話会議も有益であることが高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等について総じて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策を十分に説明していることが評価された。

自主的情報開示においては、CSR 報告書・環境報告書の内容が充実している点が評価された。

LIXIL グループ (総合評価点: 76.8 点、第 3 位←3 位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (80%) が第 4 位、**説明会等** (74%) が第 5 位、フェアー・ディスクロージャー (82%) およびコーポレート・ガバナンス関連 (76%) が第 2 位、自主的情報開示 (71%) が第 3 位

となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が四半期や重要な意思決定時に率先して説明する姿勢に加えて、投資家と積極的に話し合う機会を設けていること等、経営陣の IR 姿勢が高く評価された。

説明会等においては、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示している点が高い評価を受けた。 フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について総じて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、現在採用しているガバナンス体制について説明していることが高い評価を受けたほか、資本政策、株主還元策を客観的かつ合理的に説明している点も評価された。

自主的情報開示においては、期中の定量的データの開示に関し、月次情報等を開示していることが評価されたことに加え、CSR報告書・環境報告書の内容が充実している点も評価された。

三菱地所 (総合評価点:74.5 点、第 4 位←4 位、分野別では、説明会等(78%) 第 3 位、フェアー・ディスクロージャー(79%) 第 3 位、自主的情報開示(68%) 2 社同得点第 5 位)

同社は、説明資料に部門別の利益率の実績と見通しを十分に開示していることや、四半期ごとに開催する業績動向に関する説明会および電話会議において、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示している点が高い評価を受けた。また、短信および説明資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っていることや、質疑応答において誠実に回答している点が評価された。さらに、説明会または電話会議のリプレイが迅速かつ十分な期間の視聴等が可能である点が極めて高い評価を受けた。加えて、英文による情報提供がタイムリーで内容も充実していることや、CSR報告書・環境報告書の内容が充実している点も評価された。

大和ハウス工業 (総合評価点: 73.7 点、第 5 位←5 位、分野別では、経営陣の IR 姿勢等 (77%) 第 5 位、フェアー・ディスクロージャー (77%) 2 社同得点第 5 位、自主的情報開示 (68%) 2 社同得点第 5 位)

同社は、経営陣が積極的な対話姿勢であり、各部門に亘って詳細な情報開示が行われているほか、決算説明会等の質疑応答において誠実に回答している点について評価を受けた。また、**自主的情報開示**においては、期中の定量的データの開示に関し、月次受注を開示していることが評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

上記企業のほか、**清水建設(総合評価点**: 69.2 点 [前回比+9.4 点]、第 10 位←15 位)は、前回と同一内容の 23 の具体的評価項目中、19 項目で得点率が改善したほか、他の 1 社と共に 5 分野全ての得点率も前回を上回る結果となり、総合評価点と順位の双方の最大アップにつながった。具体的には、説明会や電話会議での質疑応答の対応が評価されたほか、特に、海外を含めた見学会等が充実していることが高い評価を受けた。また、CSR 報告書・環境報告書の内容が充実している点も評価された。

以 上

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (建設・住宅・不動産)

												(単位: 点)	:点)
	弊価項目		 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、 J の基本スタンス 		 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 	7ビュー、 1おける	3. 7 H 7 L · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	ディスク	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	・ガバナ る情報	5. 各業種の状況に即 自主的な情報開示	記に即した B開示	
順	/	総合評価											福回
角		(100点)	(ALL	評価項目4	tjuix	評価項目9	1000	評価項目5	ffib.	評価項目3	70.00	評価項目3	原 包
	評価対象企業] []	(配点 25点)	極)	(配点 36点)) X	(配点 17点)	强)	(配点 10点)	屋)	(配点 12点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
-	(1878) 大東建託	85.1	22.2	1	30.8	1	14.2	1	8.4	1	9.5	1	1
2	(1808) 長谷エコーポレーション	77.2	21.3	2	28.7	2	13.3	4	7.0	4	6.9	13	2
3	(5938) LIXILゲループ	76.8	20.0	4	26.8	5	13.9	2	9.7	2	8.5	3	3
4	(8802) 三菱地所	74.5	18.9	9	27.9	က	13.4	8	6.1	10	8.2	5	4
5	(1925) 大和ハウス工業	73.7	19.2	5	26.5	9	13.1	ıc	6.7	9	8.2	2	5
9	(8801) 三井不動産	73.1	18.6	7	27.3	4	13.1	5	6.3	8	7.8	6	9
2	(5947) リンナイ	72.8	20.4	က	26.3	2	11.8	12	7.2	က	7.1	12	∞
∞	(5332) TOTO	71.1	18.6	7	23.9	14	12.9	<i>L</i>	6.9	5	8.8	2	6
6	(1928) 積水ハウス	70.1	17.1	12	25.8	8	12.7	∞	6.5	7	8.0	7	7
10	(1803) 清水建設	69.2	17.3	11	25.8	∞	12.3	6	5.5	13	8.3	4	15
11	(1801) 大成建設	67.2	16.9	13	24.8	11	12.1	10	5.5	13	7.9	∞	10
12	(1802) 大林組	66.5	15.5	15	25.8	8	12.0	11	5.4	15	7.8	6	12
13	(8830) 住友不動産	66.2	17.5	6	24.6	12	11.5	13	6.2	6	6.4	15	13
14	(8804) 東京建物	64.4	16.8	14	24.0	13	11.3	16	5.6	12	6.7	14	14
15	(3289) 東急不動産ホールディングス	63.9	17.5	6	23.1	16	11.4	15	6.0	111	5.9	16	11
16	(1812) 鹿島建設	56.6	10.2	16	23.3	15	11.5	13	4.3	16	7.3	11	16
	評価対象企業評価平均点	70.6	18.0		26.0		12.6		6.3		7.7		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.6点、昨年度は7.9点であった。

26年度評価項目および配点(建設・住宅・不動産)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点
(1) 経営陣のIR姿勢	(25点)
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。	10
② 社長は説明会またはミーティングに出席し、実質的な計議に参加していますか。	5
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	5
(3) IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、 ・今後の改善の展望を示していますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点
(1) 説明会、インタビューにおける開示	(36点)
① 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	5
② 質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。	5
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
① 部門別(注1)の受注または売上見通し(注2)が記載され、かつ部門分けは各々の業態に即したものですか。	5
② 部門別(注1)の利益率の実績と見通しは十分に開示されていますか。	3
③ 連結セグメント情報の分け方は企業分析にとって十分満足できるものですか。	4
④ 企業分析に必要な連結子会社・関係会社・SPC等の資産・負債・収益の状況が十分に説明されていますか。	5
⑤ キャッシュフロー計算書の実績と見通しは分かりやすく説明されていますか。	3
(3) 四半期情報開示	
四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか。 ① [四半期ごと開催:2点、3回開催:1点、その他:0点]	2
② 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報(単体の業績動向等を含む)が十分に開示されていますか。	4
3. フェアー・ディスクロージャー	配点
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	(17点)
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	4
② 投資家にとって重要と判断される事項(注3)の開示は迅速に行われていますか。	4
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ 決算説明会資料や期中のデータがタイムリーに入手が可能ですか。	5
(3) 説明会または電話会議のリプレイ	
説明会または電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで迅速かつ十分な期間の視聴等が可能ですか。 [1点、0.5点、0点の評価とする]	1
(4) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供はタイムリーで、内容も充実していますか。	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10 点)
(1) 資本政策、株主還元策	(10/11/)
・ 資本政策、株主還元策が客観的かつ合理的に説明されていますか。	3
(2) 目標とする経営指標等	<u> </u>
・ 中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策が十分説明されていますか。	4
(3) ガバナンス体制について	
・ 現在採用しているガバナンス体制について十分な説明がされていますか。	3
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (12 点)
① 期中の定量的データは開示され、それについて的確な説明が付加されていますか。	5
生産・施工現場、研究開発施設および展示場、開発プロジェクトの見学会等を積極的に実施していますか。 [過去1年間を目安に評価]	5

(注1)「部門別」については、業態により・・

ゼネコン:国内・海外および官・民・土・建・その他、住宅:戸建て・アパート・一般建築・分譲・賃貸・その他、不動産:分譲・賃貸・建設・委託業務・その他住宅設備:製品別・その他・・と読み替えて下さい

(注2)「受注または売上げ見通し」については、業態により・・

建設・住宅については受注・売上げの見通し、不動産・住宅設備については売上げの見通し ・・と読み替えて下さい

(注3)投資家にとって重要と判断される事項は、東証のTDネットへの登録を含む下記のような事項です。

例えば・・受注動向、指名停止、訴訟、労災、災害、環境汚染、取引先の倒産、海外市場での変動、大型プロジェクトの事業費概算、資産の取得・売却、 新技術・新商品開発、雇用政策の変更、バランスシートおよび債務保証における大きな変動等である。

建設·住宅·不動産専門部会委員

部 会 長 髙木 敦

モルカ゛ン・スタンレー MUFG 証券

部会長代理

大谷 洋司

ドイツ証券

伊藤 昌哉

みずほ投信投資顧問

沖野 登史彦

UBS 証券

川嶋 宏樹

SMBC 日興証券

竹川 克彦

三井住友信託銀行

水谷 敏也

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券

評価実施アナリスト (37名)

浅川	直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	角田	成宏	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
穴井	宏和	JP モルガン証券	寺岡	秀明	大和証券
石井	宏	国際投信投資顧問	寺田	修輔	シティグループ証券
伊藤	昌哉	みずほ投信投資顧問	富田	展昭	極東証券経済研究所
入沢	健	立花証券	錦織	正明	シュロータ゛ー・インヘ゛ストメント・マネシ゛メント
大谷	洋司	ドイツ証券	橋本	浩	富国生命投資顧問
大室	友良	モルガン・スタンレー MUFG 証券	引地	真二	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
沖野	登史彦	UBS 証券	福島	大輔	野村證券
小澤	公樹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	細貝	広孝	QBR
尾原	香代子	アライアンス・ハ゛ーンスタイン	堀部	吉胤	ティー・アイ・タ゛ウ゛リュ
川嶋	宏樹	SMBC 日興証券	前川	健太郎	野村證券
木村	勝	岩井コスモ証券	松川	正子	農林中金全共連アセットマネジメント
佐藤	啓吾	ニッセイ アセット マネシ゛メント	水谷	敏也	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
嶋田	利佳	JP モルカ゛ン・アセット・マネシ゛ メント	水野	年章	農林中金全共連アセットマネジメント
下川	寿幸	立花証券	村端	誠	野村アセットマネジメント
新川	淳之介	三井住友アセットマネジメント	望月	政広	クレディ・スイス証券
髙木	敦	モルガン・スタンレー MUFG 証券	安田	圭介	みずほ信託銀行
宝田	めぐみ	東洋証券	八掛	達格	三井住友アセットマネジメント
竹川	克彦	三井住友信託銀行			

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

食品

日本水産、日清製粉グループ本社、山崎製パン、カルビー、ヤクルト本社、明治ホールディングス、雪印メグミルク、日本ハム、サッポロホールディングス、アサヒグループホールディングス、キリンホールディングス、コカ・コーラウエスト、サントリー食品インターナショナル、伊藤園、不二製油、キッコーマン、味の素、キユーピー、ハウス食品グループ本社、ニチレイ、東洋水産、日清食品ホールディングス、日本たばこ産業 (計 23 社・コード順)

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として、新たに**サントリー食品インターナショナル**を加え、計 23 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基 本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	6	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	9	30
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	5	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報 の開示	コーポレート・ガバナンス関連	5	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	4	8
計		29	100

- (注) 具体的な評価項目および配点は 18 頁参照
- (2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 21 社の 22 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 17 頁参照)。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、説明会等の分野で2項目を削除、1項目を新設したほか、自主的情報開示の分野でも1項目を新設すると共に、一部の項目の内容と配点を変更して評価を実施したことに加え、新規対象企業もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は60.2点(ちなみに昨年度は60.8点)となった。また、総合評価点の標準偏差は12.0点(昨年度13.6点)であった。

評価項目の 5 分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 62% (昨年度 63%)、説明会等が 64% (同 62%)、フェアー・ディスクロージャーが 77% (同 74%)、コーポレート・ガバナンス関連が 51% (同 54%)、自主的情報開示が 43% (同 49%) となり、昨年度と同様、コーポレート・ガバナンス関連および自主的情報開示の水準は低く他との格差も大きい。

具体的評価項目について見ると、全 29 の評価項目のうち、4 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に次の①②は、全社の得点率(評価点/配点〈以下省略〉)が満点を含む 80%以上、③は 17 社が満点評価となった。

- ① 投資家にとって重要と判断される事項について遅滞なく開示しかつ十分に説明(平均得点率 90%、〔満点: 7 社、90%:16 社〕)
- ② 経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている(同 90%、 〔満点:5 社、90%:16 社、80%:2 社〕)
- ③ ホーム・ページで「決算短信、決算説明会資料」の英文情報を開示(同 85%、〔満点:17 社〕)

一方、分野別の中で平均得点率が最も低水準(50%以下)である次の5項目(分野順、④⑤同分野)は、相対的に低水準の得点率にとどまっている各企業において、今後一層の改善が強く望まれる。特に、コーポレート・

ガバナンス関連および自主的情報開示については、全ての項目が低水準の評価であった。

- ① IR 部門が積極的に各事業部のトップや事業部門全般について語れる人へのインタビュー等をアレンジ(平均得点率 50% 〔得点率 50%台以下: 18 社〕)
- ② キャッシュフロー計算書の実績と見通しを分かりやすく説明 (同 40%、〔50%台以下: 20 社〕)
- ③ 外部の声を十分に考慮した経営ができている(同48%、[50%台以下:18社])
- ④ 有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等の開催(同30%、[50%台以下:20社、最高70%])
- ⑤ アニュアルレポートまたは統合報告書を和文・英文で作成《新設》(同 30%、〔満点:7社、0点:16社〕)

(2) 上位個別企業の評価概要

アサヒグループホールディングス(ディスクロージャー優良企業〔12 回連続 12 回目〕、総合評価点: 85.3 点、 第 1 位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率〈以下省略〉85%) および**説明会等**(86%) が第1位、フェアー·ディスクロージャー(98%) が7社同得点第7位、コーポレート·ガバナンス関連(88%) が2社同得点第1位、自主的情報開示(60%) が第6位となった。

同社は、昨年度発表した中期経営計画で、企業価値経営を掲げ、資本政策や経営効率化を着実に実行していることが高い評価につながった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップが 決算説明会に出席し、投資家の注目する指標を盛り込んで明確かつキレの良い説明をしていることのほか、投資 家の目線でディスカッションができることや、IR 部門への権限委譲ができている点等、経営陣の IR への積極的 な取組姿勢が高い評価を受けた。また、IR 担当者が経営の方向性について良く理解し適切な情報開示を行ってい ること等、同部門が十分に機能している点も高く評価された。加えて、経営分析に必要な情報開示の継続性に配 慮をしている点等、IR の基本スタンスも高い評価を受けた。

説明会等においては、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要な理解しやすい補足資料がホーム・ページで入手できることが高く評価された。また、説明資料に、主な連結対象会社の売上、営業利益を十分に記載している点等のほか、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を開示していること、および業界情報に関する開示が充実していることも高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、この分野全ての項目について高い評価を受けた。

自主的情報開示では、工場見学会や海外事業説明会の開催が評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められる ので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

日本ハム(総合評価点:81.6 点〔昨年度比+3.8 点《上昇幅第 3 位》〕、第 2 位←5 位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (83%) および**説明会等** (78%) が第 2 位、フェアー・ディスクロージャー (69%) が第 16 位、コーポレート・ガバナンス関連 (88%) が 2 社同得点第 1 位、自主的情報開示 (89%) が第 1 位となった。

同社は、ここ数年、食品業界で経営陣のIR スタンスと資本効率への追求が最も明確になったとの評価もあり、5分野全ての得点率が昨年度を上回る改善が見られ(同様の改善は他に1社)、上記のような総合評価点等のアップにつながった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が **ROE** 等投資家目線の指標を重視し、対話のしやすい経営姿勢である点のほか、社長にアナリストや投資家の意見を聞こうとする姿勢があること等、経営陣の IR への積極的な取組姿勢が高い評価を受けた。また、IR 担当者が経営 陣の代弁者として投資家の意図を汲んだ議論ができる点等、同部門が十分に機能していることも高く評価された。さらに、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮をしている点が高い評価を受けた。

説明会等においては、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要な補足資料がホーム・ページで入手できることが高く評価された。また、説明資料に、実績および見通しの利益増減要因を、分析に有用な形で分かりやすく記載している点等が高い評価を受けた。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報の開示が非常に分かりやすい点も高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策に対する考え方や重視する経営指標とその目標、それを

採用する理由等を説明していること等、全ての項目で高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、有益な月次情報の積極的な開示や、携わっている業界の基礎情報を分かりやすく、かつ積極的に開示している点が極めて高い評価となった。

味の素 (総合評価点:77.2点、第3位←2位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (78%) および**説明会等** (74%) が第 4 位、フェアー・ディスクロージャー (99%) が 5 社同得点第 2 位、コーポレート・ガバナンス関連 (84%) が第 4 位、自主的情報開示 (43%) が第 11 位となった。

同社の脱コモディティへのゆるぎない姿勢を評価し、その早期実現を期待するとの声もあった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップが 定期的なミーティングで、アナリスト・投資家の意見を聞こうとする姿勢があるほか、IR 部門への権限委譲がで きている点等、経営陣の IR への積極的な取組姿勢が高く評価された。また、IR 担当者が経営陣の代弁者として 経営の方向性を良く理解し同部門が十分に機能している点も高い評価を受けた。さらに、低採算事業の積極的な 開示や対応が評価された。

説明会等においては、説明資料で、実績の利益増減要因を分析に有用な形で分かりやすく記載している点等が評価された。また、業界情報に関する開示が充実していることも評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策に対する考え方を十分に説明していること等、全ての項目で総じて高い評価を受けた。

日本たばこ産業(総合評価点:75.4点、第4位←3位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**(65%)が 3 社同得点第 6 位、**説明会等**(73%)が第 5 位、フェアー・ディスクロージャー(99%)が 5 社同得点第 2 位、コーポレート・ガバナンス関連(86%)が第 3 位、自主的情報開示(71%)が第 2 位となった。

同社に対しては、経営トップとの議論の場が少ない点は課題であるとの声もあるが、グローバル日用消費財メーカーの水準を意識した配当性向を掲げる等、株主還元策に対する考え方を十分に説明していることが高く評価された。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、説明会等においては、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要な補足資料がホーム・ページで入手できることが高く評価された。また、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を開示している点も高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、全項目共高い得点率の評価となった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

明治ホールディングス

(ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点:61.1点[昨年度比+12.4点]、第9位←16位)

同社は、他の 1 社と共に 5 分野全ての得点率が昨年度を上回り、昨年度と同一内容の 26 の具体的評価項目でも、連続満点を除く 24 項目中 21 の得点率が昨年度を上回る改善となり、総合評価点と順位の双方の最大アップにつながった。

同社は、以上のように多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

日本水産

(総合評価点:50.5点[昨年度比+9.9点《上昇幅第2位》])

同社は、他の 2 社と共に 5 分野中 4 分野の得点率が昨年度を上回り、昨年度と同一内容の 26 の具体的評価項目でも、連続満点を除く 25 項目中 18 の得点率が昨年度を上回る改善となり上記のような総合評価点のアップにつながった。

以 上

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (食品)

												(単位:点)	: 点)
	財価項目		 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、I の基本スタンス 	R	 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 	が こおける	3. フェアー・ブロージャー	ディスク	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	・・ガバナ - る情報	 各業種の状況に即 自主的な情報開示 	に即した 開示	
——	/	総合評価											海回!
拉	致	(100点)		評価項目6	ılıız	評価項目9	iling	評価項目5	ffilb	評価項目5	[評価項目4	順位
	米井冷水車上		ן. ני	(配点 32点)) ¥aī	(配点 30点)	<u> </u>	(配点 10点)	强)	(配点 20点)	(配)	(配点 8点)	
			評価点	順位	葬価点	順位		順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(2502) アサヒグループホールディングス	85.3	27.2	1	25.9	1	8.6	7	17.6	1	4.8	9	П
2	(2282) 日本ハム	81.6	26.6	2	23.4	2	6.9	16	17.6	1	7.1	1	5
က	(2802) 味の素	77.2	24.9	4	22.2	4	6.6	2	16.8	4	3.4	11	2
4	(2914) 日本たばご産業	75.4	20.7	9	22.0	5	6.6	2	17.1	3	5.7	2	3
22	(2503) キリンホールディングス	71.6	20.7	9	23.2	3	9.8	7	13.6	5	4.3	8	3
9	(2229) カルビー	70.0	25.3	3	19.8	6	9.6	7	13.0	9	2.1	20	9
7	(2801) キッコーマン	64.6	20.3	10	20.3	8	8.6	7	12.3	7	1.9	21	2
∞	(2587) サンドリー食品インターナショナル	63.8	20.6	6	19.7	10	10.0	1	10.6	8	2.9	12	未実施
6	(2269) 明治ホールディングス	61.1	18.6	14	19.3	11	6.6	2	8.4	13	4.9	2	16
10	(2810) ハウス食品グループ本社	60.2	18.2	15	18.4	15	6.6	2	8.5	12	5.2	3	13
=	(2809) キユーピー	59.0	17.1	17	19.1	12	6.6	2	10.1	6	2.8	13	6
12	(2897) 日清食品ホールディングス	57.4	16.5	19	19.1	12	8.6	7	8.2	15	3.8	6	12
13	(2579) コガ・コーラウエスト	57.1	20.7	9	17.8	16	8.9	17	8.0	16	3.8	6	11
14	(2871) ニチレイ	56.5	19.7	11	20.6	7	3.9	18	10.0	10	2.3	18	10
15	(2501) サッポロホールディングス	55.7	15.4	21	20.8	9	9.8	2	7.2	18	2.5	15	未実施
16	(2267) ヤクルト本社	54.4	16.4	20	19.0	14	8.7	15	7.8	17	2.5	15	14
17	(2593) 伊藤園	54.2	20.8	5	15.0	22	3.8	19	9.4	11	5.2	3	∞
18	(1332) 日本水産	50.5	17.5	16	16.2	19	8.6	7	5.7	21	1.3	23	21
19	(2607) 不二製油	49.4	19.6	12	17.0	18	2.8	22	8.4	13	1.6	22	15
20	(2270) 雪印メグミルク	47.7	15.0	22	15.5	21	8.8	14	5.8	20	2.6	14	16
21	(2002) 日清製粉グループ本社	47.2	18.8	13	16.2	19	3.0	20	7.0	19	2.2	19	19
22	(2212) 山崎製パン	46.7	16.6	18	17.5	17	2.9	21	5.3	23	4.4	7	20
23	(2875) 東洋水産	38.7	13.6	23	14.3	23	2.7	23	5.7	21	2.4	17	18
	評価対象企業評価平均点	60.2	19.7		19.2		7.7		10.2		3.4		
								-					

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は12.0点、昨年度は13.6点であった。

26年度評価項目および配点(食品)

. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (22点)
1) 経営陣のIR姿勢	(32点)
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。 (情報集積の支援、IR部門への権限委譲等)	
② 社長は説明会またはアナリストミーティングに出席し、投資家の関心事等について有意義なディスカッションができますか。	8 8
② 社会は武功会またはノブライドーティングに山流し、投資家の関心争等について有息義なティスのツンヨンができますが。 2) IR部門の機能	8
	T 0
① IR担当者が経営陣の代弁者として十分に機能していますか。	6
② IR部門が各事業部のトップや事業部門全般について語れる人へのインタビュー等を、積極的にアレンジしてくれますか。 3) IRの基本スタンス	2
① 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	1 4
① 経営力がに必要がう重要な情報所示の継続性に配慮がなされていますが。 ② 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の	4
② 民望を示していますか。	4
. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (30点)
1) 決算発表日の開示	
・ 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が、ホーム・ページ等で入手できますか。	6
2) 説明資料等における開示	
① 実績および見通しの利益増減要因は、分析に有用な形で分かりやすく、かつ十分に記載されていますか。	4
② 次期の連結業績予想にかかわる営業外収支、特別損益のみならず、法人税等、少数株主損益の見通し、ならびに予想の 主な根拠が十分に記載されていますか。	4
③ キャッシュフロー計算書の実績のみならず、見通しについても分りやすく説明されていますか。	4
④ カテゴリー別、チャンネル別、容器別、家庭用・業務用別等の各社の実情に応じた売上区分が明示されていますか。	2
特殊要因(のれんや年金数理差異の償却、会計制度変更の影響等)を除いた、実質的な利益の実績と予想が十分に記載されていますか。 [重要な特殊要因がない場合には満点評価とする]	2
⑥ 主な連結対象会社または詳細なセグメント別の売上、営業利益、経常利益等が十分に記載されていますか。	2
⑦ BSの主要項目に大きな変動がある場合の増減理由は十分に記載されていますか。	2
3) 四半期情報開示	
四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が、決算短信および同補足説明資料(同時に、TDネットまたはホーム・ページ 掲載ベース)の中で、十分に開示されていますか。	4
. フェアー・ディスクロージャー	配点
1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	(10点)
経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	Τ .
① [1点、0.5点、0点の評価とする]	1
投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績変動、合併・提携、事故・災害、リスク情報等)の開示は、遅滞なくかつ② 十分に説明されていますか。 [当該事項の発生がなかったと思う場合には満点評価とする] [1点、0.5点、0点の評価とする]	1
2) ホーム・ページにおける情報提供	
→ 決算説明会等での会社側の説明内容が分かるようになっていますか。 「動画またはテキストまたは音声いずれか:3点、いずれもなし:0点]	3
「製画またはテイクトまたは自用V・9 4しか・3点、V・9 4しむなじ・0点」 ② 決算説明会等での質疑応答の内容が分かるようになっていますか。	
3) 英文による情報提供	3
・ ホーム・ページ上で「決算短信、決算説明会資料」の英文情報が開示されていますか。 [各1点]	
	2 配点
. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	(20点)
① 資本政策に対する考え方が十分に説明されていますか。	4
② 株主還元策に対する考え方が十分に説明されていますか。	4
③ 重視する経営指標とその目標、それを採用する理由等が十分に説明されていますか。	4
● 重成する性質指標とての自体、C402体用する性由等が「力に成めされていますが。	4
④ 経営の効率性に対する経営陣の執着度は十分評価できるものですか。	4
	4
④ 経営の効率性に対する経営陣の執着度は十分評価できるものですか。	配点
④ 経営の効率性に対する経営陣の執着度は十分評価できるものですか。⑤ 外部の声を十分に考慮した経営ができていると思いますか。	
④ 経営の効率性に対する経営陣の執着度は十分評価できるものですか。⑤ 外部の声を十分に考慮した経営ができていると思いますか。. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (8点)
 ④ 経営の効率性に対する経営陣の執着度は十分評価できるものですか。 ⑤ 外部の声を十分に考慮した経営ができていると思いますか。 . 各業種の状況に即した自主的な情報開示 ① 有益な月次情報がタイムリー、かつ積極的に開示されていますか。(E·mail、FAX、ホーム・ページ等で) 	配点 (8点) 2

食品専門部会委員

部 会 長 山崎 徳司 大和証券

部会長代理 下田 曜弘 三井住友信託銀行

沖平 吉康 SMBC 日興証券

佐治 広 みずほ証券

マイケル ジェイコブ、ス T. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド東京支店

 矢野
 節子
 みずほ信託銀行

 山口
 慶子
 ゴールト マン・サックス証券

評価実施アナリスト (22名)

三井住友アセットマネジメント 肥土 恵子 マイケル ジェイコフ、ス T. ロウ・プ。ライス・インターナショナル・リミテット、東京支店 池野 智彦 下田 曜弘 エース経済研究所 三井住友信託銀行 沖平 吉康 SMBC 日興証券 田村 真一 極東証券経済研究所 尾原 香代子 アライアンス・バーンスタイン 角田 律子 JP モルガン証券 加賀 章弘 アライアンス・ハ゛ーンスタイン 東海東京調査センター 角山 智信 金森 淳一 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券 バークレイズ証券 早野 貴之 英詞 野村アセットマネジメント 高 藤田 潤 大和住銀投信投資顧問 坂田 喜彦 立花証券 三浦 信義 シティク゛ループ。証券 笹本 和彦 ニッセイ アセット マネシ゛メント 皆川 良造 野村證券 佐治 広 みずほ証券 矢野 節子 みずほ信託銀行 佐藤 円香 シュロータ゛ー・インヘ゛ストメント・マネシ゛メント 山崎 徳司 大和証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

化学·繊維

帝人、東レ、クラレ、旭化成、昭和電工、住友化学、東ソー、信越化学工業、エア・ウォーター、大陽日酸、カネカ、三井化学、JSR、三菱ケミカルホールディングス、ダイセル、積水化学工業、宇部興産、 日立化成 (計 18 社・コード順)

1. 評価方法等

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基 本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	35
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	4	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	10
計		20	100

- (注) 具体的な評価項目および配点は24頁参照
- (2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 31 社の 35 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 23 頁参照)。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち1項目を削除し、1項目の内容を若干修正すると共に、5項目の配点を変更して評価を実施した。このため、昨年度とは同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は73.2点(ちなみに昨年度は73.0点)であった。なお、総合評価点の標準偏差は5.2点(昨年度は5.0点)となった。評価項目の5分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、経営陣のIR姿勢等が74%(昨年度76%)、説明会等が75%(同73%)、フェアー・ディスクロージャーが81%(同79%)、コーポレート・ガバナンス関連が64%(同68%)、自主的情報開示が61%(同59%)で、各分野共昨年度と大きな変動はないが、コーポレート・ガバナンス関連と自主的情報開示が他の分野の水準と比べて格差が大きいことに変わりはない。

具体的評価項目について見ると、全 20 項目のうち 5 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に次の 3 項目の、①は全社の得点率(評価点/配点〈以下省略〉)が 80%以上、②、③は満点あるいは 80%以上の得点率の企業が多数見られた。

- ① ホーム・ページを利用した有用な情報提供(決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等)(平均得点率87% [得点率80%以上:全社〈90%台:8社〉])
- ② 四半期ごとの業績動向に関する説明会(電話会議を含む)の開催(同90% [満点:17社])
- ③ 経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている(同 82% [90%:1 社、80%台:15 社])
- 一方、次の項目は、平均得点率が最も低く、ほぼ全社において今後一層の改善が望まれる。
- ・ 工場見学、事業部説明会、技術説明会等(アナリスト主催を含む)を実施し内容が充実(平均得点率 53% [得点率 50%未満:8社〈上位6社:70%台が1社、60%台が5社〉])

なお、評価実施アナリストの意見を見ると、大半の企業で経営トップがミーティングに出席し、自社の状況、

今後の方針を語っている姿勢を評価する声が多かった。

(2) 上位個別企業の評価概要

旭化成(ディスクロージャー優良企業 [11 回連続 11 回目]、総合評価点:82.5 点、第1位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率〈以下省略〉82%)が 2 社同得点第 1 位、**説明会等**(85%) およびフェアー・ディスクロージャー(91%)が第 1 位、コーポレート・ガバナンス関連(73%)が 2 社同得点第 2 位、自主的情報開示(74%)が第 2 位であった。

各分野について具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、経営陣が IR の重要性を認識し積極的な情報 発信に努めていると共に、IR 部門への十分な人員配置、同部門への権限移譲を行っていること等、経営陣の IR への取組姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積されており、担当者と有益なディスカッションができる等、同部門の対応がスムーズな点が高く評価された。

説明会等においては、四半期決算説明会の席上で各事業会社の経営企画担当者と議論ができる等、同説明会における十分な説明や、インタビューにおける十分な補足説明が高い評価を受けた。また、決算短信・添付資料と同時に、分析に必要かつ十分な補足資料が、TD ネット経由で入手できること等、説明資料等に関しても高く評価された。

フェアー·ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等や説明会のリプレイ、質疑応答まで含めた説明会の議事録の情報提供等、この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中長期的な目標と関連する定性・定量情報の開示が充実している 点が高く評価された。

自主的情報開示においては、E-mail を利用した有用な情報提供が評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められる ので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

昭和電工(高水準のディスクロージャーを連続維持している企業【3回連続第2位】、総合評価点:79.6点)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**(80%)が第3位、説明会等(83%)が第2位、フェアー·ディスクロージャー(85%)が第4位、コーポレート·ガバナンス関連(69%)が3社同得点第5位、自主的情報開示(68%)が第5位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、経営陣がIRの重要性を認識しており、IR部門に適切な人員配置を行っていること等、全体として経営陣のIRへの取組姿勢が評価を受けた。また、IR部門に十分かつ正確な情報がタイムリーに集積されており、担当者の積極的な情報開示と豊富な知識に基づく解説が行われ、理解が促進される等、同部門の機能が充実している点が高く評価された。加えて、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮していること等、IRの基本スタンスも高い評価となった。

説明会等においては、インタビューにおける対応や補足説明が充実していること等、説明会、インタビューにおける開示に関して高い評価を受けた。また、説明会資料等において投資家が求める情報が十分に開示されていること等、説明資料等に関しても高く評価された。

フェアー·ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等、この分野全体について高い評価を受けた。 自主的情報開示においては、E-mail を利用した有用な情報提供が高く評価された。

以上の結果、同社は3回連続して上位の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャーを連続 して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

三井化学 (総合評価点:79.3点 [昨年度比+4.6点《第2位》]、第3位←7位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (82%) が 2 社同得点第 1 位、**説明会等** (80%) が 3 社同得点第 3 位、フェアー・ディスクロージャー (85%) が第 3 位、コーポレート・ガバナンス関連 (69%) が 3 社同得点第 5 位、自主的情報開示 (71%) が 2 社同得点第 3 位となった。

同社は、5 分野全ての得点率が昨年度を上回り、昨年度と同一内容の 19 の具体的評価項目でも、連続満点項目を除く 18 項目中 16 の得点率が昨年度を上回る改善となり、上記のような総合評価点や順位のアップにつなが

った。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が IR の 重要性を認識して、積極的な情報発信に努めているほか、トップミーティングなどで今後の経営方針等を積極的 にディスカッションしていること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、会社にとって都合の悪い情 報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示している点 等、IR の基本スタンスについても高い評価となった。

説明会等においては、インタビューにおける補足説明が充実している点が高い評価を受けた。

フェアー·ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等や説明会および電話会議のリプレイ、質疑応答、議事録まで含めた説明会の情報提供等、この分野全体について高い評価を受けた。

積水化学工業 (総合評価点: 78.5 点、第4位←5位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (80%) が第 4 位、**説明会等** (80%) が 3 社同得点第 3 位、フェアー・ディスクロージャー(89%)が第 2 位、コーポレート・ガバナンス関連(75%)が第 1 位、自主的情報開示(57%)が 2 社同得点第 12 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、社長に加え、主要部門の担当役員が説明会での対応を行っており、今後の経営方針等について有意義なディスカッションができることが評価された。また、IR 部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができる点が評価を受けた。加えて、会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること等、IR の基本スタンスも、高い評価となった。

説明会等においては、説明会資料等に投資家が求める情報が十分に開示されていること等が高く評価された。 フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢や説明会のリプレイ、質疑応答、議事録まで含めた 説明会の情報提供等、この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策が説明されていることに加え、中期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されている点が高く評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

東ソー (総合評価点:68.8 点 [昨年度比+6.2 点]、第 14 位←18 位)

同社は、5 分野のうち 4 分野の得点率が昨年度を上回り、昨年度と同一内容の具体的評価項目でも、19 項目中 14 の得点率が昨年度を上回る改善となり、総合評価点が最大アップ、順位も他の 1 社と共に最大アップにつながった。

以 上

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (化学・繊維)

1. 経営権の1 R 姿勢、													(WI: TIH)	. 7007
施合酵価 (100点) (配点 30点) (3.2.2 (3.3.2.2 (3.3.2.2.2 (3.3.2.2.2 (3.3.2.2.2 (3.3.2.2.2 (3.3.2.2.2 (3.3.2.2.2 (3.3.2.2.2.2 (3.3.2.2.2.2 (3.3.2.2.2.2 (3.3.2.2.2.2 (3.3.2.2.2.2 (3.3.2.2.2.2.2 (3.3.2.2.2.2 (3.3.		計學機能		•			ダビュー、 こおける	3. フェアー・デ ロージャー	ディスク	4. コーポレート・ ンスに関連する の開示	、・ガバナ-5情報	5. 各業種の状況に即 自主的な情報開示	に即した 開示	
(BD点 30k) (FDの点) (FDの点) (FD点 30k) (FD 20k) (F			合精											海回盟
配んで 面化成 解価点 順位 評価点 個化成 82.5 24.5 1 29.7 昭和電工 79.6 24.0 3 29.2 三井化学 79.3 24.5 1 29.7 積水化学工業 78.5 23.9 4 28.0 中部興産 77.4 23.6 5 28.0 宇部興産 77.4 23.6 5 28.0 東レ 7 22.8 7 26.4 日立化成 73.3 22.2 10 26.4 育を大力ルホールディングス 72.0 22.8 7 26.0 東ノー 68.8 20.3 16 25.4 エア・ウォーター 68.8 20.3 16 25.4 大陽日酸 67.1 20.6 15 24.5 カラレ 65.7 19.1 18 22.4 カラレ 65.7 19.1 17 23.6 コース・ウェー 66.7 19.1 17 22.4 カラレ		對佈社鄉心業	(100点)	福	4価項目5	临	評価項目6	而	評価項目4	finb	評価項目2	ffib.	評価項目3	版位
地化成 解価点 順位 個化成 82.5 24.5 1 昭和電工 79.6 24.0 3 三井化学 79.3 24.5 1 積水化学工業 78.3 23.9 4 年女化学 77.4 23.6 5 宇部興産 77.4 23.6 5 自並化学工業 77.7 20.9 12 有セル 77.7 20.9 12 有水小 70.2 22.8 7 東ノー 68.8 20.3 16 東ノー 68.8 20.9 12 オプ・カーター 68.8 20.9 12 クラレ 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.1 18				6	点 30点)	强	(配点 35点)	强	(配点 15点)	過	(配点 10点)	(配)	(配点 10点)	
旭化成 82.5 24.5 1 昭和電工 79.6 24.0 3 三井化学 79.3 24.5 1 積水化学工業 78.3 23.9 4 住友化学 78.3 23.9 4 中女化学 77.4 23.6 5 中女化学 77.4 23.6 5 東レ 73.3 22.2 10 日立化成 73.0 21.9 11 女々レル 72.7 20.9 12 東ノー 68.8 20.3 16 東ノー 68.8 20.3 16 エア・ウォーター 68.2 20.9 12 大陽日酸 67.1 20.6 15 カラレ 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.3 17				評価点	順位	評価点	順位	對興學	順位	評価点	順位	評価点	順位	
昭和電工 79.6 24.0 3 三井化学 79.3 24.5 1 積水化学工業 78.5 23.9 4 積水化学工業 78.3 23.2 6 中海東産 77.4 23.6 5 東レ 77.4 22.2 10 三菱ケミルホールディングス 72.0 22.8 7 青極化学工業 72.0 22.8 7 南人 70.2 20.9 12 南人 68.8 20.3 16 エア・ウォーター 68.8 20.3 16 大陽日酸 67.1 20.6 15 カラレ 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.3 17			82.5	24.5	1	29.7	1	13.6	1	7.3	2	7.4	2	1
(本) 79.3 24.5 1 (本) 78.5 23.9 4 (本) 78.3 23.2 6 (本) 77.4 23.6 5 中部興産 77.4 23.6 5 東レ 73.3 22.2 10 日立化成 73.0 21.9 11 日並化成 72.7 20.9 12 有極化学工業 72.7 20.9 12 南人 70.2 22.8 7 東ノー 68.8 20.3 16 エア・ウォーター 68.8 20.3 16 大陽日酸 67.1 20.6 15 カラレ 65.7 19.1 18 カネカ 16.3 17		(4004) 昭和電工	79.6	24.0	က	29.2	2	12.7	4	6.9	5	6.8	5	2
積水化学工業 78.5 23.9 4 住友化学 78.3 23.2 6 宇部興産 77.4 23.6 5 宇部興産 75.9 22.8 7 日立化成 73.3 22.2 10 日立化成 73.0 21.9 11 信極化学工業 72.7 20.9 12 ダイセル 71.3 22.8 7 南人 68.8 20.3 16 エア・ウォーター 68.8 20.9 12 大陽日酸 67.1 20.6 15 カラレ 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.3 17	 		79.3	24.5	1	28.0	3	12.8	3	6.9	5	7.1	3	7
住友化学 78.3 23.2 6 JSR 77.4 23.6 5 宇部興産 75.9 22.8 7 東レ 73.3 22.2 10 日立化成 73.0 21.9 11 日立化成 72.0 20.9 12 「種化や工業 7.2 20.9 7 南人 70.2 20.7 14 東ノー 68.8 20.3 16 本ア・ウォーター 68.2 20.9 12 大陽日酸 67.1 20.6 15 カラレ 65.7 19.3 17			78.5	23.9	4	28.0	က	13.4	2	7.5	-	5.7	12	5
JSR 77.4 23.6 5 宇部興産 75.9 22.8 7 東レ 73.3 22.2 10 日立化成 73.0 21.9 11 三菱ケジルホールディングス 72.7 20.9 12 信越化学工業 7 22.8 7 育人 70.2 22.8 7 南人 70.2 20.7 14 東ノー 68.8 20.3 16 大場日酸 67.1 20.6 15 カラレ 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.3 17			78.3	23.2	9	27.9	9	12.5	9	7.0	4	7.7	1	9
宇前興産 75.9 22.8 7 東レ 73.3 22.2 10 日立化成 73.0 21.9 11 三菱ケミカルホールディングス 72.0 22.8 7 信極化学工業 7.0 22.8 7 オイセル 71.3 22.8 7 南人 70.2 20.7 14 東ノー 68.8 20.3 16 エア・ウォーター 68.2 20.9 12 大陽日酸 67.1 20.6 15 カラレ 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.3 17		(4185) JSR	77.4	23.6	5	28.0	3	12.1	6	7.3	2	6.4	9	က
東レ 73.3 22.2 10 日立化成 73.0 21.9 11 三菱グベカルホールディングス 72.7 20.9 12 信越化学工業 72.0 22.8 7 労イセル 71.3 22.8 7 帝人 70.2 20.7 14 東ンー 68.8 20.3 16 大場日酸 67.1 20.6 15 カラレ 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.3 17		(4208) 宇部興産	75.9	22.8	7	27.8	7	12.6	5	9.9	6	6.1	10	4
日立化成 73.0 21.9 11 三菱クミカルホールディングス 72.7 20.9 12 信越化学工業 72.0 22.8 7 ダイセル 71.3 22.8 7 南人 70.2 20.7 14 東ノー 68.8 20.3 16 エア・ウォーター 68.2 20.9 12 大陽日酸 67.1 20.6 15 カラレ 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.3 17	-		73.3	22.2	10	26.4	10	12.3	8	6.8	8	5.6	14	∞
三菱グラカルホールディングス 72.7 20.9 12 信越化学工業 72.0 22.8 7 ダイセル 71.3 22.8 7 帝人 70.2 20.7 14 東ンー 68.8 20.3 16 エア・ウォーター 68.2 20.9 12 大陽日酸 67.1 20.6 15 カラレ 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.3 17			73.0	21.9	11	26.5	∞	11.7	111	6.5	11	6.4	9	11
信越化学工業 72.0 22.8 7 ダイセル 71.3 22.8 7 帝人 70.2 20.7 14 東ノー 68.8 20.3 16 エア・ウォーター 68.2 20.9 12 大陽日酸 67.1 20.6 15 カネル 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.3 17			72.7	20.9	12	26.5	&	12.5	9	6.5	11	6.3	8	13
ダイセル 71.3 22.8 7 帝人 70.2 20.7 14 東ノー 68.8 20.3 16 エア・ウォーター 68.2 20.9 12 大陽日酸 67.1 20.6 15 クラレ 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.3 17			72.0	22.8	7	26.0	11	11.3	14	4.8	18	7.1	3	6
帝人 70.2 20.7 14 東ノー 68.8 20.3 16 エア・ウォーター 68.2 20.9 12 大陽日酸 67.1 20.6 15 カラレ 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.3 17			71.3	22.8	7	25.7	13	11.1	18	6.9	5	4.8	16	12
東ノー 68.8 20.3 16 エア・ウォーター 68.2 20.9 12 大陽日酸 67.1 20.6 15 クラレ 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.3 17			70.2	20.7	14	26.0	111	11.7	11	6.1	14	5.7	12	14
エア・ウォーター 68.2 20.9 12 大陽日酸 67.1 20.6 15 クラレ 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.3 17			8.89	20.3	16	25.4	14	11.8	10	5.1	17	6.2	6	18
大陽日酸 67.1 20.6 15 クラレ 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.3 17			68.2	20.9	12	25.0	15	11.3	14	6.3	13	4.7	18	10
カラレ 65.7 19.1 18 カネカ 65.0 19.3 17			67.1	20.6	15	24.5	16	11.2	16	6.0	15	4.8	16	17
カネカ 65.0 19.3 17		(3405) クラレ	65.7	19.1	18	22.4	18	11.5	13	9.9	6	6.1	10	16
		(4118) カネカ	65.0	19.3	17	23.6	17	11.2	16	5.5	16	5.4	15	15
評価対象企業評価平均点 73.2 22.2 26.4		評価対象企業評価平均点	73.2	22.2		26.4		12.1		6.4		6.1		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.2点、昨年度は5.0点であった。

26年度評価項目および配点(化学・繊維)

1.	経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (30点)
(1)	経営陣のIR姿勢	(元(元)
	全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。 (IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限	8
	① 委譲、情報集積の支援等)	•
	② 経営トップが説明会またはアナリストミーティングに出席し、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていますか。	8
(2)	IR部門の機能	<u></u>
	・ IR部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	8
(3)	IRの基本スタンス	
	① 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	3
	② 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
2.	説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点(35点)
(1)	説明会、インタビューにおける開示	
	① 決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	. 8
	② インタビューにおける補足説明は十分ですか。	8
(2)	説明資料等(短信・添付資料および補足資料を含む)における開示	
	① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が、TDネット経由で入手できますか。	7
	② 説明会資料等において投資家が求める情報が十分に開示されていますか。	8
(3)	四半期情報開示	.
	① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
	② 四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議を含む)を開催していますか。 [開催あり:1点 開催なし:0点]	1
3.	フェアー・ディスクロージャー	配点 (15点)
(1)	フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
	① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	5
	② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等)の開示は、遅滞なく行われていますか。	5
(2)	ホーム・ページにおける情報提供	
	・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供(決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等)を行っていますか。	3
(3)	その他	
	・ 説明会または電話会議のリプレイ(質疑応答、議事録を含む)は、速やかに電話やウェブキャストで視聴等ができますか。	2
4.	コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10点)
(1)	資本政策、株主還元策の開示	
	・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(2)	目標とする経営指標等	
	・中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	5
5.	各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (10 点)
	① 工場見学、事業部説明会、技術説明会等(アナリスト主催を含む)を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	4
	② ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書等の内容は充実していますか。	3
	③ E·mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。	3

化学·繊維専門部会委員

部 会 長金井 孝男シティグループ証券部会長代理澤砥 正美クレディ・スイス証券

渋谷 宗男 大和住銀投信投資顧問

竹内忍SMBC 日興証券山田幹也バークレイズ証券

渡部 貴人 モルカ ン・スタンレー MUFG 証券

評価実施アナリスト (35名)

五十届	嵐 貴宏	富国生命投資顧問	竹内	忍	SMBC 日興証券
石井	宏	国際投信投資顧問	角田	成宏	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
井谷	昌展	JP モルカ゛ン・アセット・マネシ゛メント	仲田	育弘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
伊藤	健悟	QBR	夏目	宏之	東京海上アセットマネジメント
今津	拓洋	みずほ信託銀行	野口	英彦	DIAM アセットマネシ゛メント
梅林	秀光	大和証券	花城	輝樹	りそな銀行
榎本	尚志	メリルリンチ日本証券	福島	大輔	野村證券
大谷	洋司	ドイツ証券	福永	幸彦	立花証券
岡田	真一	三菱 UFJ 信託銀行	松川	正子	農林中金全共連アセットマネジメント
尾脇	庸仁	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	村端	誠	野村アセットマネジメント
金井	孝男	シティグループ証券	望陀	謙智	明治安田アセットマネジメント
桑原	明貴子	メリルリンチ日本証券	八掛	達格	三井住友アセットマネジメント
佐藤	和佳子	みずほ証券	山田	幹也	バークレイズ証券
澤砥	正美	クレディ・スイス証券	吉田	篤	みずほ証券
渋谷	宗男	大和住銀投信投資顧問	吉田	正夫	CLSA 証券
嶋田	利佳	JP モルカ゛ン・アセット・マネシ゛メント	渡辺	一茂	日 興アセットマネシ゛メント
清宮	啓嗣	ニッセイ アセット マネシ゛メント	渡部	貴人	モルカ゛ン・スタンレー MUFG 証券
高橋	豊	極東証券経済研究所			

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

医薬品

協和発酵キリン、武田薬品工業、アステラス製薬、大日本住友製薬、塩野義製薬、田辺三菱製薬、中外製薬、エーザイ、小野薬品工業、久光製薬、参天製薬、ツムラ、テルモ、沢井製薬、第一三共、大塚ホールディングス、大正製薬ホールディングス、シスメックス (計 18 社・コード順)

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として、新たに沢井製薬を加え、計18社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準(スコアシート)の構成および配点

- 7 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7	7/10		
評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基 本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	6	28
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	34
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	4	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	16
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	10
計		21	100

⁽注) 具体的な評価項目および配点は30頁参照

(2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 32 社の 36 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は **29** 頁参照)。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち 1 項目を新設、2 項目について内容を若干修正し、6 項目の配点を変更して評価を実施したことに加え、新規対象企業もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、73.3 点(ちなみに昨年度は 73.2 点)となった。また、総合評価点の標準偏差は 6.8 点(昨年度 6.3 点)であった。

評価項目の5分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が73%(昨年度74%)、**説明会等**が76%(同75%)、フェアー・ディスクロージャーが85%(同84%)、コーポレート・ガバナンス関連が68%(同67%)、自主的情報開示が62%(同65%)となり、昨年度に比べ5分野共同レベルであった。

具体的評価項目について見ると、全 21 項目のうち、7 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に、次の①は全社で、②から⑤は一部を除く多くの企業で、高い水準の得点率(評価点/配点〈以下省略〉)の評価となった。

- ① 経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている(平均得点率88%、〔得点率90%台:5社、80%台:13社→全社〕)
- ② 投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、新薬開発・審査状況、新技術、合併・提携等)の開示を、 遅滞なく十分に、かつ公平に実施(同85%[90%台:2社、80%台:15社⇒17社])
- ③ 四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議を含む)を開催し、内容が有益(同 90% [満点: 2 社、90% 台: 10 社、80%台: 4 社⇒16 社])
- ④ ホーム・ページを利用した有用な情報提供(同85% [90%台:7社、80%台:9社⇒16社])
- ⑤ 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮(同 90% 〔満点:1 社、90%台:11 社、80%台:3 社⇒ 15 社〕)

- 一方、次の項目は、依然として平均得点率が最も低く、一部の企業にあってはさらなる努力が望まれる。
- ・ 会社主催の注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設け、その内容の有益性(平均得点率 57% 《昨年度 60%》、〔得点率 50%未満:6 社 《昨年度 3 社》〕)

(2) 上位個別企業の評価概要

アステラス製薬(ディスクロージャー優良企業 [5回連続5回目]、総合評価点:85.4点、第1位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (得点率〈以下省略〉90%)および**説明会等** (85%)が第 1 位、フェアー・ディスクロージャー (92%) が 2 社同得点第 1 位、コーポレート・ガバナンス関連 (85%) が第 1 位、自主的情報開示 (66%) が第 7 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が、IR 活動に常時参加し経営方針を明確に説明していることや、市場との対話姿勢を重視している点等、経営陣の IR への取組姿勢が高い評価を受けた。また、IR 担当者の情報集積度と説明力の高さ等、IR 部門の機能が充実していることも極めて高く評価された。さらに、会社にとってネガティブな情報についても開示を行い、今後の改善の展望を示していること等、IR の基本スタンスも極めて高い評価となった。

説明会等においては、決算説明会での説明ならびにインタビューでの国内外における期中の状況等に関する補足説明が十分であることが高い評価を受けた。また、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されている点や、説明会資料等において、決算短信と同時に入手できる補足資料の内容が充実しており、有益であることも高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等、この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策についての明確な方針を出していることや、 中期経営計画の数値を公表し進捗状況等のフォローをしている点が高く評価された。

以上のほか、**自主的情報開示**に関して、アニュアルレポート、ファクトブック、数字に見る「医療と医薬品」 の内容が充実し有益である点も高い評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

シスメックス (高水準のディスクロージャーを連続維持している企業【3回連続第2位】、総合評価点:82.7点) 同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等 (85%) が2社同得点第2位、説明会等 (84%) が第2位、フェアー・ディスクロージャー (88%) が3社同得点第4位、コーポレート・ガバナンス関連 (72%) が第5位、自主的情報開示 (82%) が第1位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が IR を極めて高く位置づけ、IR への関与度も高いことに加え、社長が説明会やアナリストミーティング等で経営戦略を積極的に説明するなど有意義なディスカッションができる点が高く評価された。さらに、経営陣の市場との対話に関して投資家の期待を十分に理解していること等が高い評価を受けた。

説明会等においては、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることが高い評価を受けた。また、決算説明会における説明ならびにインタビューでの補足説明が十分であると共に、決算短信と同時に入手できる補足資料の内容が充実しており、有益である点も高い評価となった。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等、この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画を公表し、達成のための具体的方策を説明していることが評価された。

自主的情報開示においては、会社主催の注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会の設定に関し、 欧州リサーチ・ツアーおよび技術説明会の内容が有益である点に加え、ファクトブック等の内容が充実している ことも評価を受けた。

以上の結果、同社は3回連続して上位の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャーを連続 して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

塩野義製薬 (総合評価点:81.1点、第3位←3位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (85%) が 2 社同得点第 2 位、**説明会等** (79%) が第 5 位、フェアー・ディスクロージャー(87%)が第 9 位、コーポレート・ガバナンス関連(78%)が第 3 位、自主的情報開示(78%)が 2 社同得点第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、社長が定期的に 説明会に出席し、経営方針等を明確に説明していることや、市場との対話を重要視している姿勢に加え、IR 部門 への適正な人員配置等、全体として経営陣の IR 姿勢が高く評価された。さらに、IR 部門へのアクセスが良いこ とのほか、会社にとってネガティブな情報についても積極的な開示を行う姿勢等、IR の基本スタンスについても 高い評価となった。

説明会等においては、決算説明会における説明ならびにインタビューにおける補足説明が十分であった点が高い評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策について十分に説明していることや、中・ 長期経営計画を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策を十分に説明している点が高く評価された。

自主的情報開示においては、会社主催のR&Dミーティングを定期的に実施し、有益であったことが高く評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

大日本住友製薬 (総合評価点:79.9点、第4位←5位)

同社は、社長が説明会に出席し、有意義なディスカッションをしていることが評価を受けた。また、会社にとってネガティブな情報についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していることで、IRの基本スタンスも高い評価となった。

さらに、決算短信と同時に入手できる補足資料の内容が充実しており、有益であることのほか、セグメント情報の開示レベルが高い点等、説明資料等における開示が高く評価された。また、決算説明会での説明も同様の評価となった。加えて、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されている点も高い評価を受けた。また、会社主催のR&D技術説明会を実施し、有益であったことが相対的に高く評価された。

協和発酵キリン (総合評価点:77.0点、第5位←7位)

同社は、IR部門が質・量(イベント数、人員)共に着実にレベルアップし、ディスカッションの有益性が向上する等、同部門の機能の改善が見られることが高く評価された。また、会社にとってネガティブな情報についても積極的な開示を行う姿勢等、IRの基本スタンスも高い評価となった。

さらに、説明会資料やインタビューでの開示が質的に充実している点が高く評価された。

以 上

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (医薬品)

野畑項目												
		 経営陣の1R姿勢、 1R部門の機能、1 の基本スタンス 	3姿勢、 機能、IR /ス	 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 	ボュー、 おける	3. フェアー・デロージャー	イメカ	4. コーポレート・ ンスに関連する の開示	・ガバナ - 5情報	 各業種の状況に即 自主的な情報開示 	に即した 開示	
	総合評価											海回!
	(100点)	THIE.	評価項目6	ffile	評価項目6	THE .	評価項目4	ffile	評価項目3	析	評価項目2	 配 位
_			(配点 28点)		(配点 34点)] (20	配点 12点)		(配点 16点)		(配点 10点)	
/		評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
	85.4	25.3	1	28.9	1	11.0	1	13.6	1	9.9	2	1
	82.7	23.8	2	28.6	2	10.6	4	11.5	5	8.2	1	2
	81.1	23.8	2	26.7	2	10.4	6	12.4	3	7.8	2	က
大日本住友製薬	6.62	22.7	5	28.3	3	10.3	10	10.8	6	7.8	2	5
協和発酵キリン	77.0	21.6	9	27.2	4	10.5	2	10.3	13	7.4	5	7
	7.97	21.1	8	26.5	9	11.0		11.3	9	6.8	9	2
	9.92	20.5	6	25.9	6	10.9	3	12.9	2	6.4	∞	4
	75.9	22.9	4	26.4	7	6.6	14	11.0	7	5.7	12	未実施
大塚ホールディングス	74.1	20.5	6	26.0	8	10.5	7	10.8	6	6.3	6	9
	73.8	21.2	7	25.8	10	10.0	13	11.7	4	5.1	14	11
	72.5	19.3	12	24.5	12	10.6	4	10.5	11	7.6	4	7
	70.3	18.8	14	25.1	111	10.2	11	6.6	14	6.3	6	12
	69.7	20.1	11	23.8	16	9.4	16	10.5	11	5.9	11	10
田辺三菱製薬	8.99	17.4	16	24.3	13	10.6	4	6.6	14	4.6	16	14
小野薬品工業	65.5	19.3	12	24.1	14	8.9	17	8.5	17	4.7	15	15
武田薬品工業	65.4	17.5	15	21.6	18	10.1	12	10.9	8	5.3	13	13
	63.3	16.9	17	23.7	17	8.5	18	9.7	16	4.5	17	17
大正製薬ホールディングス	63.0	16.4	18	24.0	15	8.6	15	8.3	18	4.5	17	16
評価対象企業評価平均点	73.3	20.4		25.7		10.2		10.8		6.2		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.8点、昨年度は6.3点であった。

26年度評価項目および配点(医薬品)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (28点)
(1) 経営陣のIR姿勢	(20/15)
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。(十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等)	6
② 経営陣がアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスにおいて、今後の経営方針等について、投資家にとって 有意義なメッセージを発信していますか。	6
経営陣の市場との対話姿勢をどう評価しますか。 投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	6
(2) IR部門の機能	
・ IR部門が十分に機能していますか。(アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報の集積度等)	5
(3) IRの基本スタンス	
① 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点等ネガティブなことについても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	3
② 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	2
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (34点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	7
② インタビューにおける補足説明は十分ですか。	7
(2) 説明資料等(短信・添付資料および補足資料を含む)における開示	
① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料(地域別損益や重要な子会社の業績を含む)が 入手できますか。	7
② 説明会資料等において投資家が求める情報 (M&A、為替変動、会計処理方法の変更等による業績変動等)が、 十分に開示されていますか。	7 .
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報(四半期報告書を含む)が十分に開示されていますか。	4
② 四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議を含む)を開催し、内容は有益でしたか。 [開催なし:0点]	2
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (12点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	4
② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績変動、新薬開発・審査状況、新技術、合併・提携等)の開示が、 遅滞なく十分に、かつ公平に行われていますか。	4
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
ホーム・ページを利用して有用な情報提供(決算説明会の資料および内容、質疑応答の状況、その他対外公表資料等)を行っていますか。	2
(3) その他	
・ 説明会または電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで迅速かつ十分な期間の視聴等が可能ですか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (16点)
(1) ガバナンス体制について	
・ 現在採用しているガバナンス体制について十分に説明されていますか。	6
(2) 資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	6
(3) 目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明 されていますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (10点)
会社主催の注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設けており、それは有益でしたか。 [過去1年間を目安に評価]	7
	-

医薬品専門部会委員

部 会 長田中 洋みずほ証券部会長代理中沢 安弘SMBC 日興記

部会長代理 中沢 安弘 SMBC 日興証券 稲垣 善之 野村アセットマネジメント

久保山浩之みずほ信託銀行酒井文義クレディ・スイス証券

水野 要 東京海上アセットマネジメント

山口 秀丸 シティク・ループ 証券

評価実施アナリスト (36名)

赤羽 高	東海東京調査センター	高橋 豊	極東証券経済研究所
池野 智彦	エース経済研究所	田中 洋	みずほ証券
石橋 剛	三井住友アセットマネジメント	田村 真一	極東証券経済研究所
稲垣 善之	野村アセットマネジメント	長﨑 真介	みずほ投信投資顧問
岩朝 亮忠	DIAM アセットマネシ゛メント	中沢 安弘	SMBC 日興証券
上野 由貴	大和証券投資信託委託	日比野 敏之	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
小野塚 昌之	JP モルガン証券	兵庫 真一郎	三菱 UFJ 信託銀行
尾原 香代子	アライアンス・ハ゛ーンスタイン	広住 勝朗	大和証券
久保山 浩之	みずほ信託銀行	藤田 潤	大和住銀投信投資顧問
熊谷 直美	ジェフリーズ証券	藤原 重良	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
小池 幸弘	モルカ゛ン・スタンレー MUFG 証券	真下 弘司	QBR
高口 伸一	三井住友信託銀行	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
酒井 文義	クレディ・スイス証券	水野 要	東京海上アセットマネジメント
佐藤 円香	シュロータ゛ー・インヘ゛ストメント・マネシ゛メント	村岡 真一郎	モルガン・スタンレー MUFG 証券
澤田 信明	JP モルカ゛ン・アセット・マネシ゛ メント	八並 純子	ニッセイ アセット マネシ゛メント
嶋津 正明	農林中金全共連アセットマネジメント	山口 秀丸	シティク゛ループ。証券
瀬川 義明	三井住友信託銀行	渡辺 一茂	日 興アセットマネシ゛メント
関 篤史	バークレイズ証券	渡辺 律夫	メリルリンチ日本証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

石油·鉱業

国際石油開発帝石、石油資源開発、昭和シェル石油、コスモ石油、東燃ゼネラル石油、出光興産、 JXホールディングス (計7社・コード順)

1. 評価方法等

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	6	33
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	30
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	3	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	12
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	5	13
計		22	100

- (注) 具体的な評価項目および配点は36頁参照
- (2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 20 社の 20 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 35 頁参照)。

本年度は、昨年度の具体的評価項目について、**経営陣の IR 姿勢等**の分野で 1 項目を削除し、その内容の一部を他の項目と併合したほか、**自主的情報開示**の分野で 1 項目を新設すると共に、一部の項目の内容や配点を変更して評価を実施した。このため、昨年度とは同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 68.8 点(ちなみに昨年度は 71.5 点)となった。また、総合評価点の標準偏差は 4.0 点(昨年度 5.0 点)であった。

業態別の平均点は、石油 5 社が 69.9 点 (昨年度 71.2 点)、鉱業 2 社が 67.8 点 (同 72.0 点) となり、双方の格差は 2.1 点 (昨年度 0.8 点) となり、やや拡大した。

評価項目の5分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、**経営陣のIR姿 勢等**が69%(昨年度73%)、説明会等が70%(同71%)、フェアー・ディスクロージャーが85%(同81%)、コーポレート・ガバナンス関連が58%(同64%)、自主的情報開示が61%(同63%)となり、フェアー・ディスクロージャーを除く4分野はいずれも昨年度を下回った。

具体的評価項目について見ると、全 22 の評価項目のうち 7 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に次の 3 項目は、全社が 80%台以上の高い得点率 (評価点/配点〈以下省略〉)の評価となった。

- ① ホーム・ページで有用な情報(決算説明会・カンファレンス等の資料、質疑応答の状況等)を遅滞なく提供 (平均得点率 93%、[全社 93%])
- ② 決算発表と同日にホーム・ページに開示された資料が決算の理解に有益(同 90%、〔90%台:5 社、85%: 2 社〕)
- ③ 英文による情報提供の充実度(同87%、[90%:1社、80%台:6社])
 - 一方、**自主的情報開示**の分野における次の事項に係る**2**項目は、ほぼ全社において低水準の得点率にとどまっており、今後の改善が望まれる。
 - ・事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会の開催
- ① 十分な頻度で開催(平均得点率 47%、[50%台以下:5社])

② その際の説明資料等が充実しかつ十分な開示(同43%、[50%台以下:6社])

(2) 上位個別企業の評価概要

JXホールディングス(ディスクロージャー優良企業〔2回連続4回目〕総合評価点:76.0点、第1位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率〈以下省略〉75%)が第 2 位、説明会等(79%)が第 1 位、フェアー・ディスクロージャー(84%)が第 5 位、コーポレート・ガバナンス関連(63%)が第 2 位、自主的情報開示(76%)が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、**IR** 部門に十分な経営情報が集積されているほか、担当者とは業界全体の見方も含めて有益なディスカッションができること等、同部門の機能が高い評価を受けた。また、経営分析を行う上で、重要な情報の開示の継続性に配慮している点等、**IR** の基本スタンスも評価された。

なお、経営トップとの有意義なディスカッションが深まればより高い評価につながるとのアナリストの声があった。

説明会等においては、説明会資料等に、主要諸元の感応度など関心度の高い数値を適切に記載していることのほか、収益および財務分析に必要な情報を数値の継続性に留意しつつ、投資家の関心に即して記載している点が高い評価を受けた。さらに、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような説明をしていることについても評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況を説明していることが評価を受けた。

自主的情報開示においては、E-mail や RSS を利用して有用な情報提供を行っていることが高い評価となった ほか、内外の同業他社との比較が可能な情報を開示している点も評価された。さらに、対象企業の平均得点率が 最も低水準であった、事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会の開催に関し、事業説 明会や施設見学会を複数回開催したことで、他社と格差のあるトップの評価となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

国際石油開発帝石

(総合評価点:70.7 点、第 2 位←4 位、分野別では、経営陣の IR 姿勢等(71%)第 3 位、フェアー·ディスクロージャー(86%)2 社同得点第 3 位、自主的情報開示(69%)第 2 位)

同社は、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が説明会に定期的に出席し、自社の置かれている状況や今後の 方針を丁寧に理解しやすく説明していることや、率直な意見交換ができる点等、経営陣の IR 姿勢が評価された。 また、IR 部門に十分かつ正確な情報が集積されていることや、経営分析を行う上で、重要な情報の開示の継続 性に配慮している点が高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

自主的情報開示においては、ファクトブック、アニュアルレポート等の内容が充実していることや、E-mail や RSS を利用して有用な情報提供を行っている点に加え、海外企業との比較を意識した資料の開示を行っていることも高く評価された。

以上のほか、説明会資料等に、収益および財務分析に必要な情報を数値の継続性に留意しつつ、投資家の関心に即して記載していることが高い評価となった。

昭和シェル石油

(ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点:70.0点[昨年度比+5.7点(昨年度対前年比+8.5点)]、 2 社同得点第3位←7位←7位〈一昨年度〉)

同社は、昨年度と同一内容の 16 の具体的評価項目中、全項目の得点率が改善したほか、全社で唯一 5 分野全ての得点率も昨年度を上回る結果となり、総合評価点と順位の双方の最大アップにつながった。特に、総合評価点は昨年度と合わせて 2 年間で+14.2 点の大幅な改善になっている。具体的には、CEO が、決算説明会に加えトップセミナーも開催するなどして、自ら経営方針を説明していること等、経営陣の IR 姿勢が評価された。加えて、IR 部門の担当者と業界の見方等も含めて有益な議論ができる点が高い評価になった。なお、他社よ

りも具体的な数字の開示範囲が狭いので、数字で議論することが難しいとのアナリストの声があった。また、 経営分析を行う上で、重要な情報の開示の継続性に配慮していることは高い評価を受けた。

さらに、フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

同社は、以上のように多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

コスモ石油 (総合評価点:70.0点、2社同得点第3位←2位)

同社は、経営陣がIRを重要視している姿勢や、IR部門の担当者が誠実に議論をしようとする積極的な姿勢が評価された。

また、フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

さらに、中期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況を説明していることが評価されたほか、ファクトブック、アニュアルレポート等の内容が充実している点に加え、E-mail や RSS を利用して有用な情報提供を行っていることが高い評価となった。

なお、利益増減分析において要因分解の整理に分かりにくさが見受けられるなど、決算数値の開示に努力を求めるアナリストの声もあった。

以 上

(出代)中(日)

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (石油・鉱業)

	海回 聖				1	4	7	2	2	9	3	
紀に即した 報開示		評価項目5	(配点 13点)	順位	1	2	4	3	2	9	7	
 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 		[1,112	麗)	評価点	6.6	9.0	8.1	8.6	8.0	6.9	5.9	7.9
ガバナる情報		評価項目2	(配点 12点)	順位	2	5	_	4	က	9	7	
4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		file	理)	幹価点	2.7	6.9	7.9	7.1	7.4	6.8	5.5	7.0
* 1 X J		評価項目3	(配点 12点)	順位	2	3	1	3	2	9	7	
3. フェアー・ディスク ロージャー		iffitz.	國)	評価点	10.1	10.3	10.6	10.3	10.4	10.0	6.6	10.2
だュー、おける		評価項目6	(配点 30点)	順位	1	4	9	5	7	2	3	
 説明会、インダビュー、 説明資料等における 開示 		ffilbs.	'''	對興建	23.8	21.0	18.6	20.8	18.0	22.4	21.2	20.9
数勢、 語、IR ス		評価項目6	(配点 33点)	順位	2	3	1	4	2	2	9	
1. 経営陣の1R姿勢、 IR部門の機能、I の基本スタンス		line line	理)	計一部	24.7	23.5	24.8	23.2	22.9	19.8	21.4	22.8
	総合評価	(100点)			76.0	7.07	70.0	70.0	2.99	62.9	63.9	68.8
評価項目	/	/	*#\(\tau\)		ディングス	胃発帝石	石油		ル石油		開発	評価対象企業評価平均点
	/		評価対象企業		(5020) JXホールディングス	(1605) 国際石油開発帝石	(5002) 昭和シェル石油	(5007) コスモ石油	(5012) 東燃ゼネラル石油	(5019) 出光興産	(1662) 石油資源開発	評価対象。
/	三	每				2	8	33	5	9	7	l

(注1)総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。(注2)評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は4.0点、昨年度は5.0点であった。

26年度評価項目および配点(石油・鉱業)

	配点
I. 粧呂陣のIN安务、IR印筒の機能、IRの基本へクンへ	(33点)
(1) 経営陣のIR姿勢	····
① 会社主催の説明会(スモールミーティングを除き、電話会議を含む)に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営 方針や株主還元策等について有意義なディスカッションをしていますか。	10
② 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。(IR部門への権限移譲、決算説明会以外の有益なミーティングの場の設定等)	6
(2) IR部門の機能	
① IR部門に十分かつ正確な情報が集積されているか、あるいはIR部門以外へのインタビュー等は容易ですか。	4
② IR担当者等と有益なディスカッションができますか。	4
(3) IRの基本スタンス	
① 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の 展望を示していますか。	6
② 経営分析を行う上で、必要かつ重要な情報の開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (30点)
(1) 説明資料等における開示	
① 決算短信および添付資料(TDネット掲載ベース)	
・ 主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値が決算短信あるいは添付資料に適切に記載されていますか。	4
② 決算説明資料	
・ 決算発表と同日にホーム・ページに開示された資料は決算の理解に有益ですか。	2
③ 説明会資料等における実績の開示	
・収益および財務分析に必要な情報(製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資、部門別あるいは 主要子会社別等の実績データ等)は、数値の継続性に留意しつつ、投資家の関心に即して十分に記載されていますか。	4
④ 説明会資料等における見通しの開示	
A 見通しの分析に必要な情報(製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資、部門別あるいは主要 子会社別等の収益見通し等)が、数値の継続性に留意しつつ、分かりやすく、かつ十分に記載されていますか。	6
B 次期の利益予想の論拠が明確に示されていますか。	6
(2) 説明会、インタビューにおける開示	
・ 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	8
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (12点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等)の開示は 迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	6
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページで有用な情報提供(決算説明会・カンファレンス等の資料、質疑応答の状況等)が遅滞なく行われていますか	· 3
(3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は充実していますか。	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (12点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	(12/111)
・ 今後の資本政策、株主還元策を開示し、分かりやすくかつ十分に説明されていますか。	6
(2) 目標とする経営指標等	
中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、説明会資料等 ・ において十分説明されていますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (13点)
① 内外の同業他社との比較が可能な情報開示(埋蔵資源量、生産・販売量、在庫影響等)がなされていますか。	3
② 事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会の開催 [過去1年間を目安に評価]	+
A 十分な頻度で開催していますか。	3
B その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。	3
③ ファクトブック、アニュアルレポート等の内容は充実していますか。	$\frac{3}{2}$
④ E-mailやRSSを利用して有用な情報提供を行っていますか。	2

石油·鉱業専門部会委員

部 会 長 塩田 英俊 SMBC 日興証券

松本 繁季

部会長代理 荻野 零児 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券

大畠彰雄野村アセットマネジメント

北尾 征久 三井住友アセットマネジメント

野村證券

宮﨑高志シティグループ証券

評価実施アナリスト(20名)

大畠	彰雄	野村アセットマネジメント	中	英明	三井住友信託銀行
荻野	零児	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	夏目	宏之	東京海上アセットマネジメント
狩野	泰宏	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	花城	輝樹	りそな銀行
北尾	征久	三井住友アセットマネジメント	平野	太郎	アライアンス・ハ゛ーンスタイン
佐久	間 聰	QBR	松本	繁季	野村證券
佐々	木 裕一	DIAM アセットマネシ゛メント	宮﨑	高志	シティグループ証券
塩田	英俊	SMBC 日興証券	望陀	謙智	明治安田アセットマネジメント
新家	法昌	みずほ証券	森	貴宏	メリルリンチ日本証券
清宮	啓嗣	ニッセイ アセット マネシ゛メント	八木	啓行	富国生命投資顧問
高橋	輝晃	MU 投資顧問	山崎	慎一	岡三証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

鉄鋼·非鉄金属

新日鐵住金、神戸製鋼所、ジェイ エフ イー ホールディングス、日新製鋼、丸一鋼管、大同特殊鋼、 日立金属、三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWA ホールディングス、古河電気工業、 住友電気工業、フジクラ (計 14 社・コード順)

1. 評価方法等

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

	•		
評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基 本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	33
②説明会、インタビュー、説明資料等における 開示	説明会等	7	35
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	3	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の 開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	12
計		20	100

- (注) 具体的な評価項目および配点は42頁参照
- (2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 25 社の 26 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は **41** 頁参照)。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、経営陣の IR 姿勢について新たな内容の 1 項目を追加したほか、併せて一部の項目の配点も見直して評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 73.7 点(ちなみに昨年度は 73.3 点)であった。また、総合評価点の標準偏差は 6.3 点(昨年度 6.2 点)となった。

業態別の総合評価平均点を見ると、鉄鋼 (7社) は73.8点 (昨年度72.1点)、非鉄金属 (7社) は72.7点 (同74.1点)となり、本年度は鉄鋼が非鉄金属を上回ったが、その格差は僅少である。

評価項目の5分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が75%、説明会等が75%、フェアー・ディスクロージャーが81%、コーポレート・ガバナンス関連が74%、自主的情報開示が60%で、自主的情報開示の分野が他の分野に比べて低水準の評価となり、この傾向は例年と変化はない。

具体的評価項目について見ると、全 20 項目中 6 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に、次の 2 項目は、1 社を除き満点あるいは全社が 80%を上回る高い得点率(評価点/配点〈以下省略〉)の評価となった。

- ① 四半期ごとの業績動向に関するアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスの開催(平均 得点率 95%、1 社を除き満点)
- ② ホーム・ページを利用した有用な情報提供(同88%、〔得点率90%台:2社、80%台:12社〕)

一方、新たに設けた、経営陣の市場との対話姿勢について、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えているかに関し、平均得点率は71%の評価にとどまり、アナリストが重要視している経営陣のIR姿勢について多くの企業で改善が求められる。

また、平均得点率が低水準 (51%) である、工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容 は充実しているかについては、引き続き改善が強く望まれる。(得点率 50%未満:5 社〔鉄鋼 2 社、非鉄金属 3

(2) 上位個別企業の評価概要

住友金属鉱山 (ディスクロージャー優良企業 [4回連続4回目]、総合評価点:85.1点、第1位)

同社は、**自主的情報開示**を除く、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率 (以下省略) 88%)、**説明会等**(89%)、フェアー・ディスクロージャー(87%)、コーポレート・ガバナンス関連(88%)の4分野において第1位となり、自主的情報開示(64%)が2社同得点第6位であった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、経営陣が IR の 重要性を理解し、IR 部門への十分な人員配置や説明会等における経営戦略の説明が丁寧で明確である点に加え、 投資家の期待や懸念に対して真摯に対応していること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門 に十分な情報が集積され有用な情報提供が行われている点のほか、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性 に配慮をしていること等、IR の基本スタンスについても高く評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明が詳細で分かりやすいこと等、説明会、インタビューにおける開示が高い評価を受けた。また、収益および財務分析に必要な情報や投資家の関心に即した部門別および主要関連会社等の実績および見通しのデータの記載が十分であること等、決算説明資料が充実している点が高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、公表した経営方針の進捗状況を十分に説明していることや、資本 政策、株主還元策の説明が高い評価を受けた。

以上のほか、アニュアルレポート、環境報告書および CSR 報告書の内容が充実していることが高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められる ので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

DOWA ホールディングス (総合評価点:82.2 点、第 2 位←2 位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (87%)、説明会等 (84%) およびフェアー・ディスクロージャー (85%) が第 2 位、コーポレート・ガバナンス関連 (74%) が第 6 位、自主的情報開示 (68%) が第 3 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、経営陣が投資家との情報交換の場を設け、自らの言葉で会社の事業環境や見通し等について明確で分かりやすく説明している点等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門の情報収集が積極的で十分な情報が蓄積されており、担当者が投資家に向けて伝わりやすく情報提供していること等、同部門の機能が充実している点が高く評価された。さらに、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮をしていること等、IR の基本スタンスについても高い評価を受けた。

説明会等においては、決算説明会での説明が十分であることに加え、インタビューにおいて説明会資料等の理解を深めるような十分な説明を行っている点等、説明会、インタビューにおける開示が高く評価された。また、説明資料等における収益および財務分析に必要な情報の開示等も高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

日立金属(総合評価点:80.7点、第3位←7位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (82%) が第 4 位、説明会等 (80%) が 2 社同得点第 3 位、フェアー・ディスクロージャー (83%) およびコーポレート・ガバナンス関連 (79%) が第 3 位、自主的情報開示 (78%) が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、経営陣が IR 部門の活動に対する支援姿勢を明確にしており、また同部門とのコミュニケーションが良く取れていることが高く評価された。 さらに、IR 部門に情報が十分に集積されており、必要な情報提供が確実に行われている点に加え、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮をしている点等、IR の基本スタンスについても高い評価を受けた。

説明会等においては、インタビューにおいて説明会資料等の理解を深めるような十分な説明を行っている点等、 説明会、インタビューでの開示や、説明資料等における収益および財務分析に必要な情報の開示等も評価された。 **コーポレート・ガバナンス関連**においては、中期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その進捗状況・達成のための具体的な方策を十分に説明している点が高く評価された。

自主的情報開示においては、安来工場見学会が大変有益であったことに加え、アニュアルレポート等の内容が 充実している点や E-mail を利用して有用な情報提供を行っていることが高い評価を受け、この分野の 3 項目共 トップとなり、総合評価点が昨年度比+8.6 点と最大の上げ幅につながった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

丸一鋼管

(総合評価点: 77.3 点、第 4 位←3 位、分野別では、経営陣の IR 姿勢等 (85%) 第 3 位、コーポレート·ガバナンス関連 (85%) 第 2 位)

同社は、経営トップが定期的に投資家訪問を行うなど直接対話に積極的であることや、経営方針をしっかり発信している点が高い評価を受けた。また、IR 部門に十分な情報が集積されていることのほか、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮をしていること等、IR の基本スタンスについても高く評価された。

さらに、株主還元策等の重要な方針が十分説明されている点が高い評価を受けた。

以上のほか、説明会、インタビューにおける開示や投資家の関心に即した主要関連会社等の実績および見通しのデータの記載が十分であることについて高い評価を受けた。

以 上

(単位:点)

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (鉄鋼・非鉄金属)

												(単位:点)	· 语)
	野価項目		 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、」 の基本スタンス 	·姿勢、 然能、IR /ス	 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 	ダビュー、 こおける	3. フェアー・デロージャー	* 177	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	・ガバナ -る情報	 各業種の状況に即 自主的な情報開示 	c 即 した 親示	
		総合評価											海回雪
—— 嵙		(100点)	ille E	評価項目5	TIPILEX	評価項目7	Iffile	評価項目3	ffulz	評価項目2	雄	評価項目3	有
	評価対象企業		(A)	(配点 33点)	(國)	(配点 35点)	通)	(配点 10点)	强)	(配点 10点)	(配	(配点 12点)	
			評価点	順位	幹価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
	(5713) 住友金属鉱山	85.1	28.9	1	31.0	I	8.7	1	8.8	1	7.7	9	1
2	(5714) DOWAホールディングス	82.2	28.7	. 2	29.4	2	8.5	2	7.4	9	8.2	3	2
က	(5486) 日立金属	80.7	27.0	4	28.1	8	8.3	3	7.9	3	9.4	1	7
4	(5463) 丸一鋼管	77.3	27.9	က	25.4	∞	7.8	6	8.5	2	7.7	9	3
5	(5711) 三菱マテリアル	75.8	25.0	5	28.1	က	8.2	4	7.2	7	7.3	9	4
9	(5471) 大同特殊鋼	74.0	24.3	8	25.9	9	8.2	4	7.1	8	8.5	2	9
7	(5401) 新日鐵住金	72.6	24.6	7	24.8	111	7.7	11	7.5	5	8.0	4	111
∞	(5413) 日新製鋼	71.3	24.8	9	25.8	7	7.8	6	7.1	8	5.8	11	10
6	(5406) 神戸製鋼所	71.1	23.5	10	26.3	2	6.7	8	7.1	8	6.3	10	12
10	(5411) ジェイエフィーホールディングス	70.4	23.8	6	24.3	12	7.5	14	6.8	12	8.0	4	2
11	(5803) フジクラ	68.7	23.2	12	25.4	8	7.7	11	7.8	4	4.6	14	13
12	(5802) 住友電気工業	68.5	23.4	11	25.1	10	8.0	9	6.9	11	5.1	13	6
13	(5801) 古河電気工業	66.3	22.3	13	24.3	12	8.0	9	6.3	13	5.4	12	∞
14	(5706) 三井金属鉱業	63.1	19.9	14	21.9	14	7.7	11	6.2	14	7.4	8	13
	評価対象企業評価平均点	73.7	24.9		26.1		8.1		7.4		7.2		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.3点、昨年度は6.2点であった。

26年度評価項目および配点(鉄鋼・非鉄金属)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点
(1) 経営陣のIR姿勢	(33点)
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。(十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等)	8
② 経営陣がアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスにおいて、今後の経営方針等について、投資家にとって 有意義なメッセージを発信していますか。	8
③ 経営陣の市場との対話姿勢をどう評価しますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	8
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供していますか。	6
(3) IRの基本スタンス	
・ 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (35点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	8
② インタビューにおいて説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	5
(2) 説明資料等(短信・添付資料および補足資料を含む)における開示	
① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料(詳細なファクトブックを含む)が、TDネット経由 またはホーム・ページで入手できますか。	5
② 説明会資料等における実績および見通しの開示	
A 収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。	5
B 部門別あるいは主要子会社別等の実績および見通しのデータが、投資家の関心に即して十分に記載されていますか。	5
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	5
② 四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスを開催していますか。 [開催あり:2点 開催なし:0点]	2
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (10点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	/= - \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
投資家にとって重要と判断される事項(例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、 ・ 合併・提携、リスク情報等)の開示は、遅滞なく行われていますか。	5
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供(決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等)を行っていますか。	4
(3) その他	
説明会または電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで視聴等が可能であり、有用な情報提供となっていますか。 [1点、0.5点、0点の評価とする]	1.
1. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点(10点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	(10/11/)
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
2) 目標とする経営指標等	***************************************
中・長期の経営計画(目標とする経営指標等)またはビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、 十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点
① 工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	(12点)
① 工場見字、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。 「適去1年間を目安に評価」 ② ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書等の内容は充実していますか。	7
② ファットフック、アーユアルレホード、原現報告書寺の内谷は九美していますか。 ③ E-mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。	$\frac{2}{3}$

鉄鋼·非鉄金属専門部会委員

部 会 長 山口 敦 UBS証券

部会長代理 小枝 善則 アムンディ・ジャパン

小野 まな実 岡三証券

五老 晴信 モルカ ン・スタンレー MUFG 証券

竹元宏和みずほ信託銀行原田一裕SMBC 日興証券

松本 裕司 野村證券

評価実施アナリスト(26名)

荒木	廉太郎	三井住友信託銀行	添谷	昌生	りそな銀行
五百旗	旗頭 治郎	大和証券	高野	芳行	東海東京調査センター
石井	宏	国際投信投資顧問	竹元	宏和	みずほ信託銀行
石賀	健	アライアンス・ハ゛ーンスタイン	富田	展昭	極東証券経済研究所
入沢	健	立花証券	中	英明	三井住友信託銀行
榎本	尚志	メリルリンチ日本証券	中村	宏司	QBR
小野	まな実	岡三証券	原田	一裕	SMBC 日興証券
梶山	健	日 興アセットマネシ゛メント	平井	克典	東京海上アセットマネジメント
鐘江	健一	DIAM アセットマネシ゛メント	松本	裕司	野村證券
椛島	裕介	大和証券投資信託委託	牟田	知倫	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
北尾	征久	三井住友アセットマネジメント	八木	啓行	富国生命投資顧問
小枝	善則	アムンテ゛ィ・シ゛ャハ゜ン	山山	敦	UBS 証券
五老	晴信	モルガン・スタンレー MUFG 証券	田山	真也	クレディ・スイス証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

機械

アマダ、ナブテスコ、SMC、小松製作所、住友重機械工業、日立建機、クボタ、荏原製作所、 ダイキン工業、栗田工業、日本精工、NTN、ジェイテクト、THK、安川電機、マキタ、ファナック、 三菱重工業、川崎重工業、IHI (計 20 社・コード順)

1. 評価方法等

当業種は、昨年度は優良企業選定の評価を一時休止していたが、本年度は、評価対象企業として、新たにナブテスコ、ジェイテクト、安川電機の3社を加えて再開し、計20社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基 本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における 開示	説明会等	5	30
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	5	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の 開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	10
計		20	100

- (注) 具体的な評価項目および配点は 48 頁参照
- (2) 評価実施(スコアシート記入)アナリストは 26 社の 39 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 47 頁参照)。

本年度は、前回の具体的評価項目のうち、5 項目を削除しその内容を他の項目に併合すると共に、一部の項目の内容や配点の修正をして評価を行ったことに加え、新規対象企業もある。このため、前回と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、67.6 点(ちなみに前回は 65.2 点)となった。また、総合評価点の標準偏差は 14.0 点(前回 17.3 点)であった。

評価項目の 5 分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 70%(前回 72%)、説明会等が 69%(同 65%)、フェアー・ディスクロージャーが 63%(同 61%)、コーポレート・ガバナンス関連が 73%(同 65%)、自主的情報開示が 57%(同 50%)となり、経営陣の IR 姿勢等以外は前回よりアップしたが、自主的情報開示は他の分野に比べ依然として低い水準にある。

具体的評価項目について見ると、全 20 項目のうち、次のフェアー・ディスクロージャーへの取組み姿勢の 2 項目が平均得点率で 87%以上となり、1 社を除く企業において満点あるいは 80%台以上の高い得点率(評価点/配点〈以下省略〉)の評価となった。

- ① 投資家にとって重要と判断される事項の開示は遅滞なく行われ、かつ $P/L \cdot BS$ に与える影響を可能な範囲で開示(平均得点率 93%、〔満点 1 社、90%台:18 社〕)
- ② 経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている(同 87%、 [90%台:10 社、80%台:9 社])
- 一方、次の2項目は、前回と同様、0点評価の企業が多く、これらの企業における今後の改善が強く望まれる。
- ① 決算説明会等での質疑応答の内容がホーム・ページで分かる (平均得点率 27%、〔0 点評価 15 社〕)
- ② 決算説明会等の内容はホーム・ページで動画または音声で視聴できる(同40%、[同12社])

(2) 上位個別企業の評価概要

小松製作所(ディスクロージャー優良企業 [6回連続 10回目]、総合評価点:86.0点、第1位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率〈以下省略〉84%)、説明会等(86%)、フェアー·ディスクロージャー(97%)、自主的情報開示(80%)の4分野が第1位、コーポレート·ガバナンス関連(85%)が2 社同得点第2位となった。

各分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が投資家の関心を把握し、周辺情報とあわせて説明している点や、事業戦略説明が非常に分かりやすいこと等、経営陣の IR 姿勢が高く評価された。加えて、IR 部門の情報開示のバランスが良い点のほか、開示の継続性にも配慮していること等、IR の基本スタンスも高い評価を受けた。

説明会等においては、会社を取り巻く業界動向や中期経営戦略について十分に説明をしていること等、説明資料に投資家が求める必要な情報が網羅されている点が高く評価された。また、決算説明会における説明や、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報の十分な開示も高い評価となった。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について極めて高い評価を受けた。 コーポレート・ガバナンス関連においては、株主還元策(配当政策等)や、目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取組み等について十分説明していること等が高く評価された。

自主的情報開示においては、E-mail を利用して有用な情報提供を行っていることも高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められる ので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

ダイキン工業 (総合評価点:81.1 点、第2位←4位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (82%) が第 3 位、**説明会等** (85%) が 2 社同得点第 2 位、フェアー・ディスクロージャー (77%) が 3 社同得点第 3 位、コーポレート・ガバナンス関連 (85%) が 2 社同得点第 2 位、自主的情報開示 (69%) が第 9 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、会社主催の説明会に社長が出席し、企業戦略の成果や今後の課題を詳細に説明していることが高い評価を受けた。また、IR 部門の各担当者に情報が行き亘っており、経営戦略を中心とした高いレベルのディスカッションができることに加え、東京・大阪両方で IR 対応が可能であること等、同部門の機能が充実している点が高く評価された。さらに、情報開示の継続性にも配慮していることも高い評価となった。

説明会等においては、決算説明会やインタビューにおける説明が充実している点が高く評価された。また、説明資料における中期経営戦略の説明内容が十分であることも高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取組み等について十分説明していることが高く評価された。

三菱重工業

(高水準のディスクロージャーを連続維持している企業【本年度第3位、前回、前々回第2位】、総合評価点:78.5点、分野別では、説明会等(81%)第4位、コーポレート・ガバナンス関連(78%)2社同得点第5位、自主的情報開示(78%)第2位)

同社は、会社主催の説明会で社長が資料に基づき丁寧に説明していることのほか、事業環境の認識や戦略等広範な説明を行っている点が評価された。また、決算説明会における説明が十分であることに加え、説明資料の内容が充実してきた点や、説明資料において投資家が求める中期の経営戦略等の情報開示をしていることが評価された。さらに、キャッシュフローを含む資本政策に関する説明や、目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取組み等について十分説明していることが高く評価された。加えて、E-mail を利用して有用な情報提供を行っていることも高い評価となった。

以上の結果、同社は、直近3回連続して上位の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャー を連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

アマダ

(ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点:75.9 点〔前回比+10.6 点〕、第4位←12位)

同社は、前回と同一内容の 15 の具体的評価項目中、11 項目で得点率が改善したほか、他の 3 社と共に 5 分野全ての得点率も前回を上回る結果となり、総合評価点のアップ幅で第 2 位、順位は最大のランクアップにつながった。特に、コーポレート・ガバナンス関連においては、ROE 目標を新たに設定する等、積極的な資本効率向上策の開示が極めて高く評価され、当該分野の得点率が前回を 28 ポイント上回る最大幅の改善が見られトップの評価となった。また、情報開示の継続性にも配慮していること等、IR の基本スタンスが高い評価を受けたほか、決算説明会やインタビューにおける説明が充実している点も高く評価された。

同社は、以上のように多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

ナブテスコ

(総合評価点:74.9 点、第 5 位〔新規〕、分野別では、経営陣の IR 姿勢等(79%) 第 5 位、フェアー·ディスクロージャー(78%) 第 2 位、コーポレート·ガバナンス関連(78%) 2 社同得点第 5 位、自主的情報開示(75%) 第 5 位)

同社は、本年度新規対象企業として総合評価点で第5位の評価を受けた。具体的には、IR部門における情報開示が積極的で常に改善が見られることや、業績に対する説明が分かりやすい点のほか、開示の継続性にも配慮していること等、IRの基本スタンスも評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢について極めて高い評価を受けた。また、決算説明会等での質疑応答の内容がホーム・ページで分かるようになっていることで、他の4社と共に満点評価となった。 さらに、目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取組み等について十分説明していることも高く評価された。

以 上

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (機械)

												(単位:点)	(当::
}	野価項目		1. 経営陣の I R 姿勢、 I R 部門の機能、 J の基本スタンス		 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 	ビュー、 おける	3. フェアー・デ ロージャー	177	4. コーポレート・ ンスに関連する の開示	・ガバナ - 5情報	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	に即した 親示	
———		総合評価											海回盟
———		(100点)	ffilz	評価項目4	临上	評価項目5	ffile	評価項目5	福	評価項目3	[評価項目3	版位
	評価対象企業		一	(配点 35点)	强)	(配点 30点)	型)	(配点 15点)	强)	(配点 10点)	(配)	(配点 10点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
-	(6301) 小松製作所	86.0	29.3	1	25.7	1	14.5	1	8.5	2	8.0	1	1
2	(6367) ダイキン工業	81.1	28.6	က	25.6	2	11.5	3	8.5	2	6.9	6	4
က	(7011) 三菱重工業	78.5	27.1	9	24.4	4	11.4	9	7.8	2	7.8	2	2
4	(6113) アマダ	75.9	26.9	7	25.6	2	8.8	10	9.2	1	5.4	14	12
5	(6268) ナブチスコ	74.9	27.5	2	20.4	12	11.7	2	7.8	5	7.5	5	未実施
9	(6471) 日本精工	74.2	28.8	2	21.2	111	9.8	111	7.9	4	7.7	3	6
2	(6302) 住友重機械工業	73.7	24.8	13	22.6	7	11.4	9	7.5	7	7.4	9	5
∞	(6481) THK	72.4	27.6	4	20.2	13	11.5	3	7.5	7	5.6	13	8
6	(7012) 川崎重工業	72.1	23.6	16	22.0	6	11.3	8	7.5	L	7.7	3	7
10	(6305) 日立建機	70.9	23.5	17	22.1	∞	11.5	8	7.3	13	6.5	11	3
11	(6506) 安川電機	70.8	26.8	∞	24.2	5	5.5	17	7.2	14	7.1	7	未実施
12	(6326) 夕ボタ	67.4	26.3	6	19.5	14	8.2	15	7.5	7	5.9	12	11
13	(6472) NTN	9.99	24.4	14	22.9	9	5.5	17	2.9	17	7.1	7	10
14	(6361) 荏原製作所	65.7	25.2	11	18.2	17	8.3	14	7.4	11	9.9	10	15
14	(6370) 栗田工業	65.7	25.2	11	18.7	15	11.2	6	7.2	14	3.4	16	9
16	(6586) マキタ	64.9	24.2	15	21.9	10	8.5	12	7.0	16	3.3	17	13
17	(7013) IHI	8.09	25.7	10	18.7	15	5.4	19	7.4	11	3.6	15	14
18	(6273) SMC	54.7	21.2	19	16.3	19	8.5	12	6.4	18	2.3	20	16
19	(6473) ジェイテクト	52.5	21.9	18	16.6	18	5.3	20	6.1	19	2.6	19	未実施
20	(6954) ファナック	18.8	2.5	20	3.7	20	7.0	16	2.9	20	2.7	18	17
	評価対象企業評価平均点	67.6	24.6		20.6		6.4		7.3		5.7		

(注1) 総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は、14.0点、前回は17.3点であった。

26年度評価項目および配点(機械)

	配点
	(35点)
(1) 経営陣のIR姿勢	T 22
・ 会社主催の説明会に社長または会長が出席し、その内容は充実していますか。	15
(2) IR部門の機能	
・ IR部門が十分に機能していますか。(アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報の集積度等)	10
(3) IRの基本スタンス	
金社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の 改善の展望を示していますか。	5
② 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (30点)
(1) 説明資料等(短信およびその付属資料・説明会資料)における開示	
投資家が求める情報(業界動向、事業別損益、中期の経営戦略、為替等会社計画の前提)が十分に開示されていますか。	10
(2) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明(質疑応答を含む)は十分ですか。	6
② インタビューにおける会社側の説明(質疑応答を含む)は十分ですか。	6
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	4
② 四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議を含む)を開催していますか。 [開催あり:4点 開催なし:0点]	4
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (15点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	(20711)
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	3
② 投資家にとって重要な事項(業績変動、合併・提携、リスク情報等)の開示は遅滞なく行われ、かつP/L・BSに与える 影響を可能な範囲で開示していますか。 [当該事項の発生がなかった場合には満点評価とする]	3
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
① 決算説明会等の内容はホーム・ページで動画または音声で視聴できますか。	3
② 決算説明会等での質疑応答の内容がホーム・ページでも分かるようになっていますか。	3
③ 決算説明会資料の英語版は説明会当日にホーム・ページでも入手が可能ですか。	3
	配点
4. 4 かん	(10点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
① 資本政策(資金調達、グループ持合政策、金庫株等)に関し十分に説明していますか。	3
② 株主還元策(配当政策や自社株取得等)に関し十分に説明していますか。	3
(2) 目標とする経営指標等	
目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取り組み等について十分に説明していますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点
会社主催の工場見学、事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会等を実施し、かつその内容が充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	(10点) 6
② 日本語のアニュアルレポートまたは統合報告書を作成していますか。(ホーム・ページ可)「作成あり:2点 なし:0点]	2
③ E-mailを利用してホーム・ページの更新情報等の有用な情報提供を行っていますか。	$\frac{2}{2}$

機械専門部会委員

 部 会 長
 齋藤 克史
 野村證券

 部会長代理
 星野 英彦
 UBS 証券

田井 宏介

井原 芳直 モルカ・ン・スタンレー MUFG 証券

大和証券

大内卓SMBC 日興証券黒田真路クレディ・スイス証券

水野 英之 メリルリンチ日本証券

評価実施アナリスト (39名)

石飛	益徳	エース経済研究所	谷林	正行	QBR
井原	芳直	モルカ゛ン・スタンレー MUFG 証券	田村	真一	極東証券経済研究所
大内	卓	SMBC 日興証券	張	乾	SMBC 日興証券
大平	光行	東海東京調査センター	野口	昌泰	野村證券
大牧	実慶	立花証券	柊	宏二	QBR
河野	裕紀	みずほ信託銀行	引地	真二	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
北浦	岳志	ドイツ証券	平川	教嗣	岡三証券
熊谷	侑大	ジェフリーズ証券	平野	太郎	アライアンス・ハ゛ーンスタイン
黒田	真路	クレディ・スイス証券	星野	英彦	UBS 証券
小枝	善則	アムンテ゛ィ・シ゛ャハ゜ン	堀井	章	ニッセイ アセット マネシ゛メント
小山	誠	富国生命投資顧問	グレーム	マクト゛ナルト゛	シティク゛ループ。証券
齋藤	克史	野村證券	又吉	由香	モルガン・スタンレー MUFG 証券
坂井	ゆかり	三菱 UFJ 信託銀行	水野	英之	メリルリンチ日本証券
桜田	順司	みずほ証券	宮城	大和	大和証券
佐藤	俊郎	極東証券経済研究所	村形	真樹子	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
鈴木	俊一	みずほ信託銀行	森	貴宏	メリルリンチ日本証券
田井	宏介	大和証券	劉	芸琪	シティク゛ループ。証券
高橋	輝晃	MU 投資顧問	若栄	正宣	みずほ証券
高山	周作	岡三証券	渡辺	洋一郎	水戸証券
田崎	僚	野村證券			

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

雷気·精密機器

【産業・民生エレクトロニクス部門】

日立製作所、東芝、三菱電機、オムロン、日本電気、富士通、パナソニック、 シャープ、ソニー

【電子部品部門】 日本電産、TDK、ローム、京セラ、村田製作所、日東電工

【精密機器部門】 富士フイルムホールディングス、コニカミノルタ、セイコーエプソン、

ニコン、HOYA、キヤノン、リコー、東京エレクトロン

(計23社・コード順)

1. 評価方法等

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	34
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	35
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	2	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報 の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	13
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	8
11 H		18	100

(注) 具体的な評価項目および配点は58頁参照

(2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 36 社の 69 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」〈部門別を含む〉は $54\sim57$ 頁参照)。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、新たに経営機構に関する項目を1項目設けたほか、併せて一部の項目の内容や新設項目分の配点修正を行い評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の電気・精密機器全体(以下〈全体〉と省略)の総合評価平均点は73.5点(ちなみに昨年度は72.0点)となった。また、総合評価点の標準偏差は6.1点(昨年度5.9点)であった。

評価項目の 5 分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、**経営陣の IR** 姿勢等が 75%、説明会等が 76%、フェアー・ディスクロージャーが 80%、コーポレート・ガバナンス関連が 69% となり、自主的情報開示は 56%と他の分野と比べて低水準の評価結果で、この傾向は例年と変化はない。

また、評価対象企業を3部門に分けて評価結果を比較すると、評価平均点の高い順に、産業・民生エレクトロニクス(9社)が75.9点(昨年度2位)、電子部品(6社)が72.3点(同3位)、精密機器(8社)が71.9点(同1位)となり、これまで1位を維持していた精密機器が後退した。

具体的評価項目について見ると、全 18 項目中 6 項目が 80%以上の平均得点率で、特に、次の 2 項目の①は 2 社を除き高い水準の得点率(評価点/配点〈以下省略〉)となり、②は昨年度比 4 社が改善した。

- ① IR の専門部署があり取材が容易 (平均得点率 88%、〔得点率 90%台:15 社、80%台:6 社〕)
- ② 社長または会長が会社主催の説明会に年2回以上出席(満点:19社〔昨年度15社〕)
- 一方、依然として平均得点率が最も低い次の項目については、多くの企業で引き続き今後の改善が強く望まれる。

・ 工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会を実施し内容が有益(平均得点率:56%、 〔得点率50%未満:9社、50%台:3社〕)

(2) 全体の上位個別企業の評価概要

日本電産(ディスクロージャー優良企業 [5回目]、総合評価点:83.9点、第1位←2位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率〈以下省略〉90%)および**説明会等**(85%)が第 1 位、フェアー・ディスクロージャー(83%)が 3 社同得点第 5 位、コーポレート・ガバナンス関連(82%)が第 1 位、自主的情報開示(55%)が第 13 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、社長が四半期ごとの決算説明会で自ら経営方針や中期計画の進捗状況を分かりやすく説明する姿勢を明確にしていること等、経営陣の IR 姿勢が極めて高い評価を受けた。また、IR 担当者の情報収集能力が際立っており、事業環境や経営成績等の情報提供に加え、質疑応答も的確で有益なディスカッションができる点等、同部門の機能が充実していることも高く評価された。

説明会等においては、決算説明会における説明および質疑応答が十分に満足できることが高い評価を受けた。 また、決算説明会のプレゼンテーション資料が充実しておりかつ簡潔に要約されている点のほか、インタビュー において、主要商品の販売動向が、数量・販売金額・構成比・成長率をもって、十分に説明されていることも高く 評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期計画が具体的でそこに至る過程も明確であることや、経営機構について十分に説明している点も高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

オムロン(総合評価点:83.7点、第2位←1位、産業・民生エレクトロニクス部門:2回連続第1位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (89%) および説明会等 (83%) が第 2 位、フェアー・ディスクロージャー (87%) が 2 社同得点第 1 位、コーポレート・ガバナンス関連 (82%) が 2 社同得点第 2 位、自主的情報 開示 (64%) が第 10 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、社長が先頭に立って IR 活動を推進しているほか、会社主催の説明会において自ら分かりやすく説明していること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に十分な情報が集積され、担当者と有益なディスカッションができる点等、同部門の機能が充実していることが高く評価された。加えて、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮していることも高い評価となった。

説明会等においては、決算説明会における説明および質疑応答が十分に満足できることが高く評価された。また、決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実しておりかつ簡潔に要約されていることや、説明資料に主要セグメントの売上高および営業利益が十分かつ継続的に記載されている点が評価を受けた。

フェアー·ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢やホーム・ページでの有用な情報提供(質疑応答を含めた決算説明会の状況の配信等)が高く評価された。

以上の結果、同社は、産業・民生エレクトロニクス部門において、昨年度に引続き第1位の評価を受けた。これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために当部門の他の企業の模範となると認められる。

ニコン

(総合評価点:79.0点、2回連続第3位、精密機器部門:3回連続第1位、分野別では、経営陣のIR姿勢等(80%) 2社同得点第5位、説明会等(83%)第3位)

同社は、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮していること等、IR の基本スタンスについて高い評価を受けた。

また、説明会等においては、決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実しており、かつ簡潔に要約されている点や、説明資料に主要セグメントの市場動向、売上高、営業利益等の情報が十分に記載されていること

が高く評価された。さらに、インタビューにおいて、主要商品の販売動向が、数量・販売金額・構成比をもって、 十分に説明されている点も高い評価を受けた。

以上のほか、中期経営計画説明会における経営戦略、事業計画、株主還元策の説明も評価された。

以上の結果、同社は、精密機器部門において、長年にわたり上位の評価を受けた。これら同社の努力と姿勢は、 ディスクロージャーのさらなる進展のために当部門の他の企業の模範となると認められる。

富士通

(総合評価点: 78.9 点、第 4 位←7 位、産業・民生エレクトロニクス部門第 2 位←3 位、分野別では、経営陣の IR 姿勢等 (82%) 第 4 位、フェアー·ディスクロージャー (84%) 2 社同得点第 3 位、自主的情報開示 (74%) 3 社同得点第 4 位)

同社は、IR 部門の対応者をセグメント別に配置しており、事業ごとの詳細な動向について丁寧な説明がされているほか、担当者数も多くまた情報収集も熱心である等、同部門の機能が充実していることが高く評価された。

フェアー·ディスクロージャーに関して、その取組姿勢やホーム・ページでの有用な情報提供(決算説明会の要旨の配信等) が高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、研究開発説明会、工場見学会等を実施し、その内容が有益であったことが相対的 に高い評価につながった。

以上のほか、決算短信等に主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されていることも高く評価された。

日立製作所

(総合評価点: 78.8 点、2 社同得点第 5 位←4 位、産業・民生エレクトロニクス部門第 3 位←2 位、分野別では、説明会等(81%)第 5 位、フェアー・ディスクロージャー(83%)3 社同得点第 5 位、コーポレート・ガバナンス関連(82%)2 社同得点第 2 位、自主的情報開示(84%)第 1 位)

同社は、説明会等においては、決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実しており、かつ簡潔に要約されている点や、説明資料に主要セグメントの売上高、営業利益、EBITが十分に記載されていることが高く評価された。さらに、中期経営計画に関する進捗状況の丁寧な説明や、経営機構について十分に説明している点も高く評価された。また、毎年開催される日立IRDayや中央研究所見学会等を実施し、その内容が有益であったことが自主的情報開示でトップの評価につながった。

以上のほか、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮している点が高く評価された。

東芝

(総合評価点:78.8 点、2 社同得点第 5 位←14 位、産業・民生エレクトロニクス部門第 3 位←5 位、分野別では、経営陣の IR 姿勢等(82%)第 3 位、コーポレート・ガバナンス関連(75%)第 4 位、自主的情報開示(79%)第 2 位)

同社は、社長が会社主催の説明会に年 2 回出席する改善(他に 3 社)が見られたことや、半導体工場見学会等を実施し、その内容が有益であったことで、自主的情報開示の得点率が最大の改善(+31 ポイント)となり、総合評価点の大幅アップ(+7.4 点・上昇幅第 1 位)につながった。

以上のほか、IR 部門に情報が集積され、担当者と有益なディスカッションができる点等、同部門の機能が充実していることが高く評価された。

(3) 部門別(平均評価点上位順)の上位個別企業の評価概要

【産業・民生エレクトロニクス部門、平均評価点:75.9点】

オムロン (総合評価点:83.7点、当部門:2回連続第1位、全体:第2位←1位) 同社の具体的評価概要は、上記(2)に記載のとおりである。

【電子部品部門、同:72.3点】

日本電産 (総合評価点:83.9点、当部門:10回連続第1位、全体:第1位←2位) 同社の具体的評価概要は、上記(2)に記載のとおりである。

【精密機器部門、同:71.9点】

ニコン(総合評価点:79.0点、当部門:3回連続第1位、全体:2回連続第3位)

同社の具体的評価概要は、上記(2)に記載のとおりである。

以 上

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (電気・精密機器:全体)

	4												
	評価項目		 経営陣のIR姿勢、 IR新門の機能、I の基本スタンス 	R 姿勢、 機能、 I R ンス	 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 	ダビュー、 における	3. フェアー・デロージャー	ェイスク	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	・ガバナ - る情報	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	記に即した 3開示	
<u></u>	/	総合評価											海回
——		(100点)		評価項目5		評価項目7	THOSE STATES	評価項目2	iffite.	評価項目3	ffiltz	評価項目1	原 在
			- 1	(配点 34点)	¥	(配点 35点)	題)	(配点 10点)	强)	(配点 13点)	强)	(配点 8点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
-	(6594) 日本電産	83.9	30.6	П	29.9	1	8.3	2	10.7	-	4.4	13	2
23	(6645) オムロン	83.7	30.1	2	29.2	2	8.7	1	10.6	2	5.1	10	1
က	(7731) ==>>	79.0	27.1	2	29.0	3	7.9	13	9.5	9	5.5	7	3
4	(6702) 富士通	78.9	27.8	4	27.5	7	8.4	33	9.3	6	5.9	4	7
2	(6501) 日立製作所	78.8	24.9	16	28.3	5	8.3	2	10.6	2	6.7	I	4
2	(6502) 東芝	78.8	28.0	3	26.9	10	7.9	13	9.7	4	6.3	2	14
7	(6701) 日本電気	78.2	26.5	6	27.5	7	8.7	1	9.6	5	5.9	4	6
∞	(6724) セイコーエプソン	7.77	27.1	2	27.7	9	7.9	13	9.1	11	5.9	4	9
6	(8035) 東京エレクトロン	75.4	26.9	8	26.9	10	8.1	6	0.6	12	4.5	12	7
10	(6752) パナソニック	74.6	26.1	10	24.8	19	8.3	2	9.4	∞	0.9	က	15
11	(4902) コニカミノルタ	74.0	25.8	12	26.8	12	8.1	6	9.5	9	3.8	16	12
12	(6762) TDK	73.9	27.0	7	27.0	6	8.1	6	9.8	15	3.2	19	10
13	(6981) 村田製作所	73.7	24.6	19	28.6	4	7.5	19	6.8	14	4.1	14	11
14	(4901) 富士フイルムホールディングス	72.6	26.0	11	24.9	17	8.2	8	8.0	19	5.5	7	5
15	(6503) 三菱電機	72.3	25.4	14	24.7	20	7.4	21	9.3	6	5.5	7	20
16	(7752) リコー	71.1	24.8	18	26.0	14	8.0	12	9.0	12	3.3	18	17
17	(6753) シャープ	70.3	25.6	13	26.0	14	7.7	17	8.5	17	2.5	21	18
18	(6988) 日東電工	69.3	23.1	21	26.3	13	7.7	17	8.6	15	3.6	17	19
19	(6971) 京セラ	68.2	25.3	15	24.9	17	7.3	22	7.9	20	2.8	20	16
20	(6758) >=-	67.5	23.3	20	23.4	21	8.4	က	7.5	23	4.9	111	21
21	ケーロ (6963)	64.8	24.9	16	21.4	23	6.9	23	1.7	22	3.9	15	23
22	(7751) キヤノン	61.8	17.3	23	26.0	14	7.8	16	8.3	18	2.4	22	22
23	(7741) HOYA	61.7	21.2	22	23.0	22	7.5	19	7.9	20	2.1	23	13
	評価対象企業評価平均点	73.5	25.5		26.5		8.0		9.0		4.5		

⁽注1)総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。
(注2)評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.1点、昨年度は5.9点であった。

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (産業・民生エレクトロニクス部門)

:岸)		指回順位	!		1	3	2	5	4	9	8	7	6	
(単位:点)	に 即 した 開示	H H	幹価項目1 (配点 8点)	順位	2	4	П	2	4	က	9	6	8	
	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	Į fi	强)	評価点	5.1	5.9	6.7	6.3	5.9	6.0	5.5	2.5	4.9	5.4
	・ガバナ ら情報	が出	幹価項目3 (配点 13点)	順位	H	9	-	က	4	2	9	8	6	
	 ユーボレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示 	L fri	理)	評価点	10.6	9.3	10.6	9.7	9.6	9.4	9.3	8.5	7.5	9.3
	177	C I I I	評価項目2 (配点 10点)	順位	1	3	5	2	1	2	6	8	3	
	3. フェアー・ディスク ロージャー	_ 11	强)	評価点	8.7	8.4	8.3	7.9	8.7	8.3	7.4	7.7	8.4	8.2
	ゼュー、 おける	孙压伍日7	群1世頃日 (配点 35点)	順位	1	3	2	5	8	7	∞	9	6	
	 説明会、インタピュー、 説明資料等における 開示 	life.	遇)	評価点	29.2	27.5	28.3	26.9	27.5	24.8	24.7	26.0	23.4	26.5
	· 姿勢、 能、 I R ス	L E E	評価項目5 配点 34点)	順位	1	3	8	2	4	2	7	9	6	
	1. 経営陣の1R姿勢、 1R部門の機能、1 の基本スタンス		量)	計価点	30.1	27.8	24.9	28.0	26.5	26.1	25.4	25.6	23.3	26.5
		然 合 評 偛 (100点)			83.7	78.9	78.8	78.8	78.2	74.6	72.3	70.3	67.5	75.9
	評価項目													\$評価平均点
			評価対象企業		(6645) オムロン	(6702) 富士通	(6501) 日立製作所	(6502) 東芝	(6701) 日本電気	(6752) パナソニック	(6503) 三菱電機	(6753) シャープ	(6758) >=-	評価対象企業評価平均点
		顧 句			П	2	က	က	2	9	7	8	6	

(注1)総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。(注2)評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.1点、昨年度は6.0点であった。

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (電子部品部門)

	押回 原句	!		1	2	3	5	4.	9	
記に即した 3開示	7年11年11年11年11年11年11年11年11年11年11年11年11年11	評価項目1 (配点 8点)	順位	1	2	2	4	9	က	
5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	<u>ifr</u>	盟)	評価点	4.4	3.2	4.1	3.6	2.8	3.9	3.7
・ガバナ る情報	加州	評価項目3 (配点 13点)	順位	1	3	2	က	5	9	
 4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報。 の開示 	<u> </u>	强)	評価点	10.7	9.8	8.9	8.6	7.9	7.7	∞ ∞
127	0 1 1 1	評価項目2 (配点 10点)	順位	1	2	4	3	5	9 .	
3. フェアー・ディスク ロージャー	_ [[] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [評価点	8.3	8.1	7.5	7.7	7.3	6.9	7.6
ドュー、 おける	五百二7	評価項目(配点 35点)	順位	1	3	2	4	5	9	
 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 	Fr.	(配	評価点	29.9	27.0	28.6	26.3	24.9	21.4	26.3
繁勢、 記、IR ス	1. 1. 1.	評価項目5 (配点 34点)	順位	1	2	5	9	3	4	
 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、I の基本スタンス 	<u> </u>	2월)	評価点	30.6	27.0	24.6	23.1	25.3	24.9	25.9
	総合評価(100点)			83.9	73.9	73.7	69.3	68.2	64.8	72.3
評価項目										評価対象企業評価平均点
		評価対象企業		(6594) 日本電産	(6762) TDK	(6981) 村田製作所	(6988) 日東電工	(6971) 京セラ	ヤーロ (8969)	評価対象企業
	順 位			1	2	3	4	5	9	

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.7点、昨年度は6.9点であった。

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (精密機器部門)

		を 回り かんりょう かんりょう かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょう かんしょう かんしょう しゅうしゅ しゅうしゅう しゅうしゃ しゅうしゃ しゅうしゅう しゅうしゃ しゃ し	順 位			1	3	4	5	2	7	8	9	
(事(二)(当)	に即した開示		評価項目1	(配点 8点)	順位	2	1	4	5	2	9	7	8	
	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		[强)	幹価点	5.5	5.9	4.5	3.8	5.5	3.3	2.4	2.1	4.1
	・ガバナ る情報		評価項目3	(配点 13点)	順位	1	3	4	1	7	4	9	8	
	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		陆	(E E)	幹価点	6.5	9.1	9.0	9.5	8.0	9.0	8.3	7.9	8.8
	127		評価項目2	(配点 10点)	順位	5	5	2	2	1	4	7	8	
	3. フェアー・ディスク ロージャー		陆		幹価点	6.7	6.7	8.1	8.1	8.2	8.0	7.8	7.5	8.0
	ダビュー、 こおける		評価項目7	配点 35点)	順位	1	2	က	4	7	C	rc	∞	
	 説明会、イングビュー、 説明資料等における 開示 		IIIL] *	評価点	29.0	27.7	26.9	26.8	24.9	26.0	26.0	23.0	26.4
	数数、 活 、 I R ス		評価項目5	(配点 34点)	順位	1	П	က	rc	4	9	8	7	
	 経営陣の1R姿勢、 IR部門の機能、I の基本スタンス 		- Miles		評価点	27.1	27.1	26.9	25.8	26.0	24.8	17.3	21.2	24.6
		総合評価	(100点)			79.0	7.77	75.4	74.0	72.6	71.1	61.8	61.7	71.9
	弊価項目	/		評価対象企業		(7731) ニコン	(6724) セイコーエプソン	(8035) 東京エレクトロン	(4902) コニカミノルタ	(4901) 富士フイルムホールディングス	(7752) リコー	(7751) キャンン	(7741) HOYA	評価対象企業評価平均点
		疊	拉			H	2	က	4	5	9	7	8	

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.6点、昨年度は5.6点であった。

26年度評価項目および配点(電気・精密機器)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点
(1) 経営陣のIR姿勢	(34点)
(1) 経営陣がR&男 社長または会長が会社主催の説明会(テレフォンカンファレンスを含む)に年2回以上出席していますか。	
~(前年7月から本年6月までの間)	4
② 社長または会長が、会社主催の説明会(テレフォンカンファレンスを含む)において、経営方針・中期計画等を十分に 説明していますか。	10
(2) IR部門の機能	
① IRの専門部署があり取材が容易にできますか。	5
② IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。	10
(3) IRの基本スタンス	
・ 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点(35点)
(1) 説明会における開示	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
・ 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
(2) 説明会資料等における開示	
① 決算説明会におけるプレゼンテーション資料は、充実しておりかつ簡潔に要約されていますか。	5
② 決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値(設備投資、減価償却費、研究開発費、為替レートの実績および予想、 為替感応度、国内外従業員数の実績等)が、適切に記載されていますか。	5
③ 主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されていますか。	5
① 主要商品の販売動向が、数量・販売金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていますか。	5
② 売上高および営業利益の補足情報が、四半期ベースで開示されていますか。	5
③ ①・②の補足情報に関する今後の方向性を説明していますか。	5
3. フェアー・ディスクロージャー	配点
5. 7±7 —•77×70—27—	(10点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。	5
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
ホーム・ページで財務データ・説明会のリプレイや質疑応答の内容等有用な情報を活用しやすい形式で提供していますか。	5
1. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点(13点)
 経営機構について 	<u> </u>
・ 現在採用している経営機構について十分な説明がなされていますか。	3
(2) 目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画(ROEなど目標とする経営指標)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に 説明されていますか。	5
(3) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
	配点
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	(8点)
工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会が実施され、その内容は有益でしたか。 ・ (前年7月から本年6月までの間)	8

電気·精密機器専門部会委員

部	숲	長	嶋田	幸彦	SMBC 日興証券
部会	長代	过	澤嶋	裕希	三井住友信託銀行
			浦	昌平	アムンテ゛ィ・シ゛ャハ゜ン
			江沢	厚太	シティグループ証券
			桂	竜輔	UBS 証券
			佐渡	拓実	大和証券
			西野	慶太	東京海上アセットマネジメント
			和田木	: 哲哉	野村證券

評価実施アナリスト (69名)

秋田 一太郎	スパ゜ークス ・ アセット ・ マネシ゛ メント	芝野 正紘	シティク゛ループ゜証券
綾田 純也	大和証券	嶋田 幸彦	SMBC 日興証券
五十嵐 貴宏	富国生命投資顧問	嶋津 正明	農林中金全共連アセットマネジメント
石賀 健	アライアンス・ハ゛ーンスタイン	清宮 啓嗣	ニッセイ アセット マネシ゛メント
磯 光裕	野村アセットマネジメント	田井 宏介	大和証券
伊藤 健悟	QBR	高橋 豊	極東証券経済研究所
稲垣 善之	野村アセットマネジメント	田口 洋	モルカ゛ン・スタンレー MUFG 証券
稲葉 章代	三井住友信託銀行	田中健士	みずほ証券
今津 拓洋	みずほ信託銀行	谷林 正行	QBR
上野 真	大和証券	豊田博幸	QBR
内野 晃彦	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	中根 康夫	ドイツ証券
浦 昌平	アムンディ・ジャパン	中名生 正弘	バークレイズ証券
江沢 厚太	シティク゛ループ。証券	西野 慶太	東京海上アセットマネジメント
大牧 実慶	立花証券	花城 輝樹	りそな銀行
岡部 和男	富国生命投資顧問	引地 真二	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
小野 雅弘	モルカ゛ソ・スタンレー MUFG 証券	平井 明子	アムンディ・ジャハペン
片山 栄一	メリルリンチ日本証券	福永 敬輔	三井住友信託銀行
片山 智宏	三井住友信託銀行	福永 幸彦	立花証券
桂 竜輔	UBS 証券	細谷 雅弘	QBR
金井 孝男	シティグループ証券	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
鴨下 健	DIAM アセットマネシ゛メント	松村 泰武	大和住銀投信投資顧問
久保田 一正	岡三証券	宮本 武郎	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
久保田 悟	三井住友信託銀行	牟田 知倫	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
小池 幸弘	モルカ゛ン・スタンレー MUFG 証券	村上 隆興	りそな銀行
小林 守伸	ニッセイ アセット マネシ゛メント	村松 高明	UBS 証券
古布 薫	JP モルガン・アセット・マネジメント	森山 久史	JP モルガン証券
小宮 知希	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	安田 秀樹	ェース経済研究所
小山 洋美	国際投信投資顧問	安山 誠健	富国生命投資顧問
酒井 洋	SMBC フレント、調査センター	山﨑 総一	富国生命投資顧問
佐藤 俊郎	極東証券経済研究所	山崎 雅也	野村證券
佐藤 春雄	東海東京調査センター	山田 幹也	バークレイズ証券
佐渡 拓実	大和証券	若林 惠太	水戸証券
醒井 周太	ニッセイ アセット マネジ・メント	和田木 哲哉	野村證券
澤嶋 裕希	三井住友信託銀行	渡邉 洋治	SMBC 日興証券
澤田 信明	JP モルカ゛ン・アセット・マネシ゛ メント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

自動車・同部品・タイヤ

トヨタ紡織、横浜ゴム、ブリヂストン、住友ゴム工業、豊田自動織機、デンソー、日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、NOK、アイシン精機、マツダ、ダイハツ工業、本田技研工業、スズキ、富士重工業、ヤマハ発動機、豊田合成 (計 20 社・コード順)

1. 評価方法等

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の 基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	6	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	9	30
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	6	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	5	15
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	4	14
計		30	100

- (注) 具体的な評価項目および配点は64頁参照
- (2) 評価実施(スコアシート記入)アナリストは 29 社の 34 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は **63** 頁参照)。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち説明資料等における開示に関する項目を2項目削除し、2項目を1項目に併合すると共に、IR 部門の機能、IR の基本スタンス、目標とする経営指標等に関する各項目に各々1項目を新設したほか、その他3項目の内容を修正したうえ、配点を8項目変更して評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は65.1点(ちなみに昨年度は64.2点)となった。また、総合評価点の標準偏差は9.7点(昨年度10.5点)であった。

評価項目の 5 分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、**経営陣の IR 姿 勢等**が 61%(昨年度 61%)、説明会等が 71%(同 70%)、フェアー・ディスクロージャーが 67%(同 67%)、コーポレート・ガバナンス関連が 66%(同 60%)、自主的情報開示が 57%(同 55%)となった。自主的情報開示は 若干の改善が見られたものの他の分野と比べて依然として低水準にとどまった。

具体的評価項目について見ると、全 30 項目中主として説明資料等の開示およびフェアー・ディスクロージャーの分野を中心に <math>12 項目が平均得点率で 80%以上となった。特に次の 4 項目の、①②は全社において満点を含む高い得点率(評価点/配点〈以下省略〉)で、③④は多くの企業が満点の評価となった。

- ① 経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている(平均得点率 95%、〔満点:2社、得点率 90%台:16社、80%台:2社〕)
- ② 業績変動の開示が遅滞なく、かつ公平に行われている(同 95%、〔満点:6 社、90%台:12 社、80%台: 2 社〕)
- ③ 四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催している(同 90%、〔満点:17 社、0 点:3 社〕)
- ④ 日本語のアニュアルレポート(大幅な簡易版を除く)の作成(同 90%、〔満点: 17 社、0 点: 3 社〕) 一方、次の 3 項目は、多くの企業で低い得点率にとどまっており、今後、総じて改善が望まれる。

- ① 説明会のリプレイは質疑応答の状況が十分に分かる(平均得点率 18%、〔0 点 7 社、得点率 50%未満:11 社〕)
- ② 経営トップ等が決算説明会以外に有益なミーティングの場を設定(同41%、[50%未満:14社])
- ③ 会社主催の工場見学会・事業部説明会・技術説明会・商品説明会の内容の充実度(同 49%、〔50%未満:10 社〕)

また、業態別の総合評価平均点を見ると、高得点順に、自動車メーカー69.8 点(昨年度 69.5 点)、タイヤメーカー63.0 点(同 63.3 点)、同部品メーカー57.4 点(同 55.1 点)となり、本年度は、同部品メーカーは、昨年度を上回ったものの依然として他の業態と大きな格差があり、引続き今後の改善が強く望まれる。

(2) 上位個別企業の評価概要

富士重工業 (ディスクロージャー優良企業 [新規]、総合評価点:85.3 点、第1位←2位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率〈以下省略〉83%)および**説明会等(91**%)が第 1 位、フェアー・ディスクロージャー(80%)が第 4 位、コーポレート・ガバナンス関連(87%)および自主的情報開示(81%)が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、社長自ら経営 ビジョンを明らかにしており、フォローアップもしっかりと行っている等、経営陣の積極的なIR姿勢が高く評価された。さらに、IR部門への情報集積が十分であり、また、IR担当者は、投資家・アナリストとの接点として重要な窓口としての自覚と責任感があり、担当者が積極的に投資家向けに情報開示を行っていること等、同部門の機能についても高く評価された。加えて、会社にとって都合の悪い情報や、自社の弱点も含め正確な情報開示を行う等、IRの基本スタンスについても高い評価となった。

説明会等においては、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な補足説明がされていることや、質疑に対する回答が有意義である点等、説明会、インタビューにおける開示について高く評価された。さらに、説明資料等の開示において全体的に得点率が低水準となった、連結中間期の計画ベースの利益増減要因が実態を表し分析に有用な形で分かりやすく記載されているかについて、他の1社と共に第3位以下と大きい格差のある高い評価となった。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連では、中期経営計画において重視する経営指標(営業利益率等)を公表し、達成のための具体的方策を説明している点が高い評価を受けた。加えて、資本政策および株主還元策の開示についても、高く評価された。

自主的情報開示においては、全体的に得点率が低水準となった、工場見学会や技術説明会等の開催に関し、安全技術説明会等の内容が充実していたことで、相対的に高い評価を受けた。また、E-mail を利用した有用な情報提供のほか統計補足情報やファクトブックの内容が充実していることが極めて高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

日産自動車(総合評価点:77.3点、第2位←1位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (74%) が第 2 位、**説明会等** (71%) が 2 社同得点第 10 位、フェアー・ディスクロージャー (91%) が第 1 位、コーポレート・ガバナンス関連 (84%) が第 2 位、自主的情報開示 (74%) が第 3 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が IR の 重要性を十分認識し、社内の協力体制を構築していること等、その IR 姿勢の評価が高かった。また、IR 部門に 十分な情報が集積していることや、常に IR 改善と積極的な情報開示を目指している点等、同部門が十分に機能 していることについても高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、この分野全体について高く評価され、ホーム・ページにおける情報提供が評価されたほか、特に、平均得点率が最も低水準(18%)である、説明会のリプレイは質疑応答の状況が十分に分かるかについては、他社と大きな格差のある高い得点率の評価となった。

コーポレート·ガバナンス関連においては、重視する経営指標(営業利益率等)とその目標、それを採用する理由の説明が十分である点が高く評価された。加えて、中期経営計画に関する具体的な方針の開示や、資本政策(資

金調達、グループ持合政策)および株主還元策の開示についても高い評価を受けた。**自主的情報開示**においては、**E·mail** を利用した有用な情報提供が高く評価された。

ヤマハ発動機 (総合評価点:73.9点、第3位←7位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**(69%)が第 5 位、**説明会等**(79%)が第 4 位、フェアー・ディスクロージャー(74%)が第 6 位、コーポレート・ガバナンス関連(75%)が第 5 位、自主的情報開示(71%)が第 4 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、**IR** 部門への十分かつ正確な情報の集積度やアクセスの容易性が高い評価を受けたほか、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していることも評価された。

説明会等においては、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がされていることや、連結の事業種類別および地域別セグメント情報は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されている点が評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、重視する経営指標(営業利益率、ROE等)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されている点が高い評価を受けた。加えて、中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況を、十分に説明していることが評価された。

マツダ (総合評価点:73.2点、第4位←3位)

同社は、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮をしていること等、IRの基本スタンスについて高い評価となった。また、重視する経営指標(営業利益率等)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されている点が高く評価された。加えて、中期経営計画を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策を説明していることが評価された。

トヨタ自動車 (総合評価点:72.0点、第5位←6位)

同社は、自主的情報開示での工場見学、事業部説明会、技術説明会等の開催に関し、技術役員懇談会や米国事業説明会等の開催が有益であったことで、トップの評価を受けた。

以 上

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (自動車・同部品・タイヤ)

(単位:点)	二 二 二 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三	角			2		7	က	9	=	4	6	5	10	8	12	13	14	16	17	15	18	20	19	
)	兄に即した 報開示	評価項目4	(配点 14点)	順位	-	8	4	2	2	ıc	14	2	10	∞	10	6	18	10	17	15	20	13	19	16	
-	5. 各業種の状況に即自主的な情報開示	· iniii.	題)	評価点	11.4	10.3	6.6	9.4	11.0	9.6	7.1	9.6	7.5	8.9	7.5	7.6	5.9	7.5	6.0	6.3	5.4	7.3	5.7	6.1	8.0
	・ガバナ る情報	評価項目5	(配点 15点)	順位	П	2	5	က	13	4	8	10	6	17	9	2	13	18	15	12	11	16	19	20	
	4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報 ンスに関連する情報 の開示	iffitz	'- 山	評価点	13.0	12.6	11.2	11.4	9.2	11.3	10.3	9.8	6.6	8.6	10.5	10.4	9.2	8.3	8.9	9.5	9.7	8.8	7.9	7.3	6.6
	K	評価項目6	(配点 15点)	順位	4	1	9	5	3	8	6	7	11	2	12	15	10	14	12	18	17	18	16	20	
	3. フャン・ロ ト・ラン・ロ ト・ラン・ロ	临上	(配	評価点	12.0	13.7	11.1	11.4	12.1	10.8	10.6	11.0	10.2	12.4	10.0	9.5	10.3	9.7	10.0	6.8	7.0	8.9	7.1	6.3	10.1
	ビュー、 おける	評価項目9	配点 30点)	順位	1	10	4	5	10	6	2	7	3	12	5	13	2	14	15	15	17	18	19	20	
	2. 説明会、インダビュー、 説明資料等における 開示	ffile:	强)	評価点	27.3	21.4	23.7	22.9	21.4	21.7	24.6	21.9	23.9	20.9	22.9	20.3	21.9	19.9	19.7	19.7	18.9	18.4	17.4	17.1	21.3
		評価項目6	(配点 26点)	順位		2	5	4	8	8	7	8	9	10	11	12	13	15	18	15	14	17	20	19	
	1. 経営陣の1R姿勢、 1R前門の機能、1 の基本スタンス	ifida	型	評価点	21.6	19.3	18.0	18.1	18.3	17.0	17.2	17.0	17.7	16.9	15.9	15.7	15.3	13.1	12.6	13.1	14.2	13.0	11.0	12.2	15.8
	金 译 合 深	(当001)			85.3	77.3	73.9	73.2	72.0	70.4	8.69	69.3	69.2	67.7	8.99	63.5	62.6	58.5	57.2	55.4	55.2	54.3	49.1	49.0	65.1
	超通過		/				緞			工業	孙	業			垣		機	Shir	STACT						評価対象企業評価平均点
			評価対象企業		(7270) 富士重工業	(7201) 日産自動車	(7272) ヤマハ発動機	(7261) マツダ	(7203) トヨタ自動車	(7211) 三菱自動車工業	(5110) 住友ゴム工業	(7267) 本田技研工業	(6902) デンソー	(7269) スズキ	(7202) いすゞ自動車	(5108) ブリヂストン	(6201) 豊田自動織機	(7262) ダイハツ工業	(7259) アイシン精機	(5101) 横浜ゴム	(7205) 日野自動車	(7240) NOK	(3116) トヨタ紡織	(7282) 豊田合成	評価対象企
ľ	原 4	7			1	2	3	4	2	9	7	∞	6	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は9.7点、昨年度は10.5点であった。

26年度評価項目および配点(自動車・同部品・タイヤ)

1.	経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (26点)
(1)	経営陣のIR姿勢	(20/11/2)
	① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。(IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限移譲、情報集積への支援等)	4
	② 経営トップ等が決算説明会以外に有益なミーティングの場を設定し、経営方針等について 有意義なディスカッション ができますか。	10
(2)	IR部門の機能	
	① IR部門への十分かつ正確な情報の集積度、アクセスの容易性、IR部門以外へのアレンジ機能は十分ですか。	4
	② アナリストが要望する情報提供、担当者との有益なディスカッションの実施、IR改善の努力は十分ですか。	4
(3)	IRの基本スタンス	
	① 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	2
	② 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	2
2.	説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (30点)
(1)	説明会、インタビューにおける開示	
	① 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	8
	② 質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。	8
(2)	説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
	① 連結の事業種類別および地域別セグメント情報は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
	② 連結の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
	③ 連結中間期の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
	④ 原材料の影響について、分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
	⑤ 売上を分析するのに有用な情報(注)が十分に記載されていますか。	2
(3)	四半期情報開示	
	① 四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか。 [開催あり:1点 開催なし:0点]	1
	② 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
3.	フェアー・ディスクロージャー	配点
(1)	フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	(15点)
(1)	① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	2
	② 業績変動の開示が遅滞なく、かつ公平に行われていますか。	2
(9)	② 未順及動の所介がた活体ないがって一に打ねりないといますが。 ホーム・ページにおける情報提供	
(2)	① ホーム・ページに、過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしていますか。	2
	② 決算説明会の配布資料の掲載は十分ですか。	2
(3)	説明会のリプレイについて	
	① 説明会のリプレイは、説明会終了後電話やウェブキャストで視聴等ができますか。 ① [4回すべて視聴できる:3点 2回のみ視聴できる:2点 1回のみ視聴できる:1点 視聴できない:0点]	3
	② 説明会のリプレイは、質疑応答の状況が十分に分かるようになっていますか。	4
	コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (15点)
(1)	経営機構について	
	・ 現在採用している経営機構について十分な説明がされていますか。	2
(2)	目標とする経営指標等	<u>-</u>
	① 重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE等)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていますか。	3
	② 中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていますか。	4
(3)	資本政策、株主還元策の開示	
	① 資本政策(資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株)に関し十分な説明がされていますか。	3
	② 配当政策・自社株買いなど株主還元策について積極的に、十分に説明していますか。	3
5.	各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (14点)
	① 工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	8
_	② E·mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。	3
	③ ファクトブックや統計補足情報等の内容は充実していますか。	2
	④ 日本語のアニュアルレポート(大幅な簡易版を除く)を作成していますか。「作成あり:1点 なし:0点]	T

(注)有用な情報については、【業態】毎に、【自動車メーカー】:地域別小売台数、輸出台数、生産台数等 【同部品メーカー】:ユーザー別および製品別売上高等 【タイヤメーカー】:地域別の本数出荷、新車・市販の内訳等。

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部 会 長 北山 信次 明治安田アセットマネジメント

部会長代理 広川 孝一 JP モルガン・アセット・マネジメント

岩井 徹 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券

桾本 将隆 野村證券

野口 正太郎 SMBC 日興証券

箱守 英治 大和証券

吉田 有史 シティク・ループ 証券

評価実施アナリスト (34名)

秋田	一太郎	スパ゜ークス・アセット・マネシ゛メント	高田	悟	ティー・アイ・タ゛ウ゛リュ
秋田	昌洋	クレディ・スイス証券	成瀬	伸弥	ジェフリーズ証券
石川	照夫	みずほ信託銀行	野口	正太郎	SMBC 日興証券
石飛	益徳	エース経済研究所	萩原	学	シティグループ証券
板倉	充知	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	箱守	英治	大和証券
岩井	徹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	服部	哲也	大和証券投資信託委託
上迫	和也	三井住友信託銀行	広川	孝一	JP モルカ゛ン・アセット・マネシ゛メント
垣内	真司	モルガン・スタンレー MUFG 証券	星	匠	東洋証券
加藤	摩周	アムンディ・ジ゛ャハ゜ン	松村	茂	SMBC フレンド調査センター
北浦	岳志	ドイツ証 券	松本	邦裕	SMBC 日興証券
北山	信次	明治安田アセットマネジメント	三浦	勇介	東海東京調査センター
君島	重晴	大和住銀投信投資顧問	武藤	健郎	朝日ライフ アセットマネシ゛メント
桾本	将隆	野村證券	持田	浩晃	丸三証券
小西	慶祐	QBR	森山	茂	東京海上アセットマネジメント
坂口	大陸	みずほ証券	森脇	崇	みずほ証券
坂牧	史郎	大和証券	吉田	有史	シティグループ証券
島岡	宏	三井住友信託銀行	吉田	達生	バークレイズ証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

電力・ガス

東京電力、中部電力、関西電力、中国電力、北陸電力、東北電力、四国電力、九州電力、北海道電力、沖縄電力、電源開発、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯 (計 14 社・コード順)

1. 評価方法等

当業種は、昨年度は優良企業選定の評価を一時休止していたが、本年度は再開し、14社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

	7113		
評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	31
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	4	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	1	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	12
計		18	100

- (注) 具体的な評価項目および配点は70頁参照
- (2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 24 社の 24 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 69 頁参照)。

本年度は、前回の具体的評価項目のうち、2 項目について内容の修正を行い、5 項目の配点を変更して評価を 実施した。このため、前回と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、65.4 点 (ちなみに前回は 65.3 点)であった。なお、総合評価点の標準偏差は 7.8 点 (前回 7.2 点)となった。

また、電力(11 社)とガス(3 社)の総合評価平均点は、それぞれ 62.3 点(前回 62.3 点)と 76.8 点(同 76.0 点)となり、本年度の双方の格差(14.5 点)は、前回(13.7 点)に比べて更に拡大した。

評価項目の5分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、**経営陣のIR姿 勢等**が63%(前回65%)、説明会等が68%(同68%)、フェアー・ディスクロージャーが75%(同76%)、コーポレート・ガバナンス関連が54%(同49%)、自主的情報開示が62%(同58%)となり、コーポレート・ガバナンス関連は本年度も低水準の状態が続いている。

具体的評価項目について見ると、全 18 項目のうち、4 項目が平均得点率で 83%以上となり、特に次の 3 項目は全社において満点あるいは 80% 台以上の高い水準の得点率(評価点/配点〈以下省略〉)の評価となった。

- ① 情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている(平均得点率 100%、〔満点:7 社、95%:7 社))
- ② 投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、事故・災害、リスク情報等) の迅速かつ十分な開示(同 97%、〔満点:4 社、90%台:10 社〕)
- ③ 決算発表とほぼ同時にホーム・ページで決算の理解に有益な資料の開示(同 90%、〔満点:2社、90%台: 10 社、80%台:2 社〕)

一方、次の 4 項目は平均得点率が 50%台で相対的に低水準であり、特に電力会社について今後一層の改善の 努力が期待される。

- ① 配当政策等の株主還元策や資本政策について、具体的かつ納得性の高い目標数値で示し、目標数値がない 場合でも客観的かつ合理的な説明を実施(平均得点率 54%、[得点率 50%台以下:10 社・全社電力])
- ② 説明資料に定性情報として、見通しの分析に有益な情報の記載(同 54%、[同 50%台以下: 10 社・全社電力])
- ③ 経営トップと今後の経営方針についての有意義なディスカッションの実施(同 55%、[同 50%台以下: 11 社])
- ④ 経営計画の十分な説明(同56%、[同50%台以下:8社・全社電力])

(2) 上位個別企業の評価概要

東京瓦斯 (ディスクロージャー優良企業 [3回連続8回目]、総合評価点:80.7点、第1位)

同社は、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率〈以下省略〉77%)、**説明会等**(84%)、フェアー・ディスクロージャー(80%)、コーポレート・ガバナンス関連(87%)、自主的情報開示(79%)と、5 分野全てにおいて同順位を含め第 1 位となった。

各分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが IR の重要性を認識し IR 部門への社内情報集積の支援等を図っていることのほか、説明会等において、中・長期的なビジョンに関する有益なディスカッションができる点や、市場と積極的に意思疎通を図りたいとする経営陣の姿勢が評価された。また、IR 部門に客観的で有益な情報の蓄積があり、IR 担当者と業績動向や中期的な成長性等に関し、有益なディスカッションができることも評価された。

説明会等においては、説明資料に、収益および財務分析に必要な情報や、主要子会社等の実績データを投資家の関心に即して記載しているほか、定量情報として見通しの分析に必要な情報(販売量、主要費用項目)を記載し、また、定性情報として、見通しの分析に有益な情報(事業戦略等)を説明していることが高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、この分野の項目の得点率が全体で低水準である中、株主還元の姿勢が明確であることで、他社と格差のある高い得点率でトップの評価を受けた。

自主的情報開示においては、ファクトブックやアニュアルレポート等の内容が充実している点などがトップの評価となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

大阪瓦斯(高水準のディスクロージャーを連続維持している企業【3回連続第2位】、総合評価点:78.9点)

同社は、**経営陣の IR 姿勢等** (76%)、説明会等 (83%)、フェアー・ディスクロージャー (78%)、コーポレート・ガバナンス関連 (77%) の 4 分野において第 2 位となり、自主的情報開示 (79%) が 2 社同得点第 1 位であった。

各分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が、決算説明会等で IR の重要性を認識し、自らの言葉で語る姿勢が見られる点や、ディスカッションの機会が豊富であることが評価を受けた。また、IR 部門に正確な情報が集積されている点に加え、IR 担当者と外部環境や業績動向等について、有益な質疑応答ができることも評価された。

説明会等においては、説明資料に、収益および財務分析に必要な情報や、部門別および主要子会社等の実績データを投資家の関心に即して記載しているほか、定量情報として見通しの分析に必要な情報(販売量、主要費用項目)や、定性情報として、見通しの分析に有益な情報(事業戦略等)を分かりやすく記載していることが高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、中期経営計画で数値や事業戦略の考え方等を開示している点のほか、ファクトブックやアニュアルレポート等の内容が充実していることも評価された。

以上の結果、同社は3回連続して上位の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャーを連続 して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

電源開発

(総合評価点:72.2 点、第 3 位←3 位、分野別では、経営陣の IR 姿勢等 (73%) 第 3 位、説明会等 (76%) 第 3 位、フェアー·ディスクロージャー (77%) 2 社同得点第 3 位、コーポレート·ガバナンス関連 (60%) 第 4 位、自主的情報開示 (65%) 第 5 位)

同社は、社長が IR の重要性を認識し、積極的なコミュニケーションに努めている姿勢が評価された。また、IR部門に正確な情報が集積されている点や、IR担当者と有意義なディスカッションができることも評価された。さらに、説明資料に、収益および財務分析に必要な情報を記載しているほか、経営戦略に係る資料や事業関連の補足データが充実している等、資料の開示の内容なども評価を受けた。加えて、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明や、海外事業に関する追加説明が豊富になったことも評価された。

以上

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (電力・ガス)

海區	回順位		1	2	33	4	5	未実施	7	9	8	10	6	11	13	12	
1 %	評価項目2 (配点 12点)	順位	1	7	5	3	4	9	10	7	8	11	6	13	111	14	
5. 各業種の状況に即 自主的な情報開示		評価点	9.5	9.5	7.8	8.6	8.3	9.7	9.9	7.0	6.8	6.5	6.7	6.3	6.5	6.2	7.4
・ガバナる情報	評価項目1 (配点 10点)	順位	1	2	4	3	111	5	8	9	10	2	12	13	6	13	
4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	强)	評価点	8.7	7.7	6.0	7.1	4.3	5.6	5.0	5.5	4.6	5.3	4.1	3.5	4.9	3.5	5.4
, X X	評価項目4 (配点 15点)	順位	1	2	3	7	3	6	10	10	2	8	5	10	10	14	
3. フェアー・デ		評価点	12.0	11.7	11.5	11.3	11.5	11.0	10.9	10.9	11.4	11.1	11.4	10.9	10.9	10.8	11.3
ग्टू च. कार्य ठ	評価項目6 配点 31点)	順位	1	2	3	4	5	9	10	6	7	10	&	12	14	13	
2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		評価点	25.9	25.7	23.5	23.0	21.0	20.7	19.6	20.0	20.5	19.6	20.2	19.4	18.2	19.0	21.2
	評価項目5 (配点 32点)	順位	1	2	3	5	9	11	4	7	7	6	10	12	13	14	
1. 経営陣の1R姿勢、 I R部門の機能、 の基本スタンス		評価点	24.6	24.3	23.4	20.4	20.2	19.6	21.5	20.0	20.0	19.8	19.7	16.5	15.9	15.8	20.1
% 中 军	(100点)		80.7	78.9	72.2	70.4	65.3	64.5	63.6	63.4	63.3	62.3	62.1	56.6	56.4	55.3	65.4
1. 数侧通目	評価対象企業		(9531) 東京瓦斯	(9532) 大阪瓦斯	(9513) 電源開発	(9533) 東邦瓦斯	(9501) 東京電力	(9511) 沖縄電力	(9507) 四国電力	(9506) 東北電力	(9502) 中部電力	(9504) 中国電力	(9503) 関西電力	(9508) 九州電力	(9505) 北陸電力	(9509) 北海道電力	評価対象企業評価平均点
三	類		-1	2	3	4	2	9)	8	6	10	11	12 (13 (14 (

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は、7.8点、前回は7.2点であった。

26年度評価項目および配点(電力・ガス)

1.	経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点
		(32点)
(1)	経営陣の服姿勢	T
	① 経営トップのIR姿勢をあなたはどう評価しますか。(IRの重要性・双方向コミュニケーションとしての認識、IR部門への十分かつ適切な経営資源の配分、社内情報集積の支援等) [概ね満足できる=4点]	7
	② 経営トップと今後の経営方針について有意義なディスカッションができますか。 [概ね満足できる=6点]	10
(2)	IR部門の機能	
	① IR部門に十分かつ正確な情報が集積されているか、あるいはIR部門以外へのインタビュー等は容易ですか。 [概ね満足できる=3点]	5
	② IR担当者等と有益なディスカッションができますか。 [概ね満足できる=4点]	7
(3)	IRの基本スタンス	
	・ 経営分析を行う上で、必要かつ重要な情報の開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
2.	説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (31点)
(1)	説明資料(決算短信および添付資料・説明会資料等)における開示	·
	① 決算発表当日の開示資料	
	・ 決算発表とほぼ同時にホーム・ページで決算の理解に有益な資料を開示していますか。	3
	② 説明資料における実績の開示	
	A 収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。 [概ね満足できる=4点]	6
	B 部門別あるいは主要子会社別等の実績データが投資家の関心に即して十分に記載されていますか。 [概ね満足できる=3点]	4
	③ 説明資料における見通しの開示	
	在量情報として、見通しの分析に必要な情報(販売量、主要費用項目、設備計画等)が、分かりやすくかつ十分に記載されていますか。 [概ね満足できる=3点]	5
	B 定性情報として、見通しの分析に有益な情報(政策動向および対応、事業戦略等)が、分かりやすくかつ十分に 記載されていますか。 [概ね満足できる=3点]	5
(2)	説明会、インタビューにおける開示	
	・ 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。 [概ね満足できる=5点]	8
3.	フェアー・ディスクロージャー	配点 (15点)
(1)	フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
	① 情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。 [特に問題なければ2点]	2
	② 投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、事故・災害、リスク情報等)の開示は迅速かつ 十分に行われていますか。 [特に問題なければ3点]	3
(2)	ホーム・ページにおける情報提供	<u></u>
	・ ホーム・ページで有用な情報提供を行っていますか。 [概ね満足できる=3点]	5
(3)	英文による情報提供	<u> </u>
	・ 英文による情報提供は充実していますか。 [概ね満足できる=3点]	5
1	コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点
±.	ユー	(10点)
	配当政策等の株主還元策や資本政策について、 ・ 具体的かつ納得性の高い目標数値で示されていますか、または、 目標数値がない場合でも 、客観的かつ合理的に 説明されていますか。	10
5.	各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (12点)
	① 経営計画の説明は十分に行われていますか。 [概ね満足できる=4点]	7
	② ファクトブック、アニュアルレポート等は有益ですか。 [概ね満足できる=3点]	5

電力・ガス専門部会委員

部 会 長新家 法昌みずほ証券部会長代理西山 雄二JP モルガン証券

 又吉 由香
 モルガン・スタンレー MUFG 証券

 望陀 謙智
 明治安田アセットマネジメント

森 貴宏 刈刈が日本証券

山崎 慎一 岡三証券

評価実施アナリスト(24名)

井原	南美	日本生命保険	平野	太郎	アライアンス・バ゛ーンスタイン
荻野	零児	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	藤原	重良	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
忍足	大介	JP モルカ゛ン・アセット・マネシ゛メント	又吉	由香	モルガン・スタンレー MUFG 証券
黒木	文明	ニッセイ アセット マネシ゛メント	松本	繁季	野村證券
近藤	将人	三井住友信託銀行	三木	泰二	みずほ信託銀行
佐久間	即聰	QBR	水野	年章	農林中金全共連アセットマネジメント
塩田	英俊	SMBC 日興証券	宮﨑	高志	シティグループ証券
新家	法昌	みずほ証券	望陀	謙智	明治安田アセットマネジメント
高橋	輝晃	MU 投資顧問	森	貴宏	メリルリンチ日本証券
富田	展昭	極東証券経済研究所	柳澤	祐介	東京海上アセットマネジメント
錦織	正明	シュロータ゛ー・インヘ゛ストメント・マネシ゛メント	山崎	慎一	岡三証券
西山	雄二	JP モルガン証券	若林	祐二	富国生命保険

運輸

東京急行電鉄、小田急電鉄、京王電鉄、東日本旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東海旅客鉄道、 阪急阪神ホールディングス、日本通運、ヤマトホールディングス、日立物流、日本郵船、商船三井、 川崎汽船、日本航空、ANA ホールディングス、郵船ロジスティクス、近鉄エクスプレス

(計17社・コード順)

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として、新たに**阪急阪神ホールディングス**を加え、計 17 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			
評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	36
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	4	11
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報 の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	13
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	14
計		21	100

(注) 具体的な評価項目および配点は76 頁参照

(2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 27 社の 28 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 75 頁参照)。

本年度は、評価項目の具体的内容および配点を昨年度と同一で評価を実施した。新規対象企業を除く 16 社中、14 社の総合評価点が昨年度を上回ったことから、総合評価平均点は、昨年度の 65.8 点より 5 点高い 70.8 点となった。ちなみに、総合評価点の標準偏差は 10.1 点で昨年度(13.8 点)と比べ大幅に縮小した。

評価項目の5分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が70%(昨年度66%)、説明会等が73%(同67%)、フェアー・ディスクロージャーが76%(同68%)、コーポレート・ガバナンス関連が69%(同66%)、自主的情報開示が64%(同60%)となり、全ての分野で平均得点率が改善するとともに、コーポレート・ガバナンス関連と自主的情報開示を除く3分野は70%台の水準に達した。

具体的評価項目について見ると、全 21 項目のうち、4 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に、次の 2 項目は全社が満点を含む 80%以上の高い得点率(評価点/配点〈以下省略〉)の評価を受けた。

- ① 投資家にとって重要と判断される事項を遅滞なく十分に開示(平均得点率 90%、〔満点:9 社、90%:7 社、80%:1社〕)
- ② IR 担当者への電話やメールでのアクセスの容易性(同 90%、〔満点:1 社、90%台:12 社、80%台:4 社〕)
- 一方、特に次の項目については、依然として平均得点率が低く一部の数社を除き、今後の改善が強く望まれる。
- ・ 施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等の積極的な実施(平均得点率 50%(昨年度同

率)、〔50%以下:9社《70%以上:2社》〕)

また、業態別の総合評価平均点を比較して見ると、高得点順に、海運(3社)78.8点、空運(2社)77.7点、 陸運(10社)69.3点、倉庫・運輸(2社)61.1点と全ての業態で総合評価平均点は改善しているものの、依然と して陸運および倉庫・運輸の下位評価企業の全般的な改善努力が強く望まれる状況に変わりはない。

(2) 上位個別企業の評価概要

東日本旅客鉄道(ディスクロージャー優良企業〔3回連続7回目〕、総合評価点:83.0点、第1位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率〈以下省略〉83%)が第 6 位、**説明会等**(85%)が第 2 位、フェアー・ディスクロージャー(87%)およびコーポレート・ガバナンス関連(78%)が 2 社同得点第 2 位、自主的情報開示(79%)が第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、説明会等においては、投資家ニーズを良く把握 し、説明資料等における開示内容が工夫され充実していることが高く評価された。また、インタビューにおいて、 説明会資料等の数値や文言の理解が深まる十分な説明をしている点も高い評価を受けた。

フェアー·ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢やホーム・ページでの情報提供等、この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、総還元性向を具体的に掲げるなどして、株主還元のガイドラインを明示し実行している点が高い評価を受けた。さらに、中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況を説明している点も高く評価された。

自主的情報開示では、被災路線の復旧状況視察の実施等が評価された。

以上のほか、IR 部門に連結子会社の動向を含めた情報集約がされており、担当者と有益なディスカッションができるほか、担当者がアナリストや投資家のニーズを十分理解し、常に IR 改善の努力が見られること等、同部門の機能が充実している点が極めて高い評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

ヤマトホールディングス (総合評価点:81.8点、2社同得点第2位←3位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (85%) が第 3 位、**説明会等** (81%) が第 4 位、フェアー・ディスクロージャー (89%) が第 1 位、コーポレート・ガバナンス関連 (73%) が 2 社同得点第 6 位、自主的情報開示 (80%) が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が IR 部門に十分な人員配置をしていることや、投資家と積極的に議論をする姿勢が見られるほか、定期的なトップマネジメントとのミーティングの機会があり、双方向の有益な議論ができること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 担当者がアナリストや投資家のニーズを十分理解し、IR 改善の努力を継続していることも評価された。

説明会等においては、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されている点が極めて高い評価を受けた。さらに、説明資料等に、収益および財務分析に必要な情報を記載していることも評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢やホーム・ページでの情報提供等、この分野全体について高い評価を受けた。

自主的情報開示では、平均得点率が最も低水準(50%)であった施設見学会の実施に関し、羽田クロノゲートや沖縄ハブ等の見学会が有益であったことが他社と格差のある高い得点率のトップの評価となった。また、有益な月次情報がタイムリーに開示されていることも評価された。

日本郵船 (総合評価点:81.8点、2社同得点第2位←2位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (89%) が第 1 位、説明会等 (79%) が第 7 位、フェアー・ディスクロージャー (87%) およびコーポレート・ガバナンス関連 (78%) が 2 社同得点第 2 位、自主的情報開示 (75%) が第 4 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が投資家に分かりやすく説明しようと努力していることに加え、経営陣のほか多数の役員や部長職と有益なミーティング

の機会を継続的に設定している等、経営陣のIRへの取組姿勢が高い評価を受けた。また、IR部門のトップに役員を配置して取材に対応していると共に、IR担当者がアナリストや投資家のニーズを十分理解し、IR改善の努力を継続していることも評価された。

フェアー·ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢やホーム・ページでの情報提供等、この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画における投資キャッシュフローの見通しの開示に改善が見られることのほか、ガバナンス体制について年次レポートに詳細に記載されている点が評価された。

自主的情報開示では、国内外の施設見学会等の開催が有益であったことが相対的に高い評価となった。

以上のほか、決算説明会における説明および質疑応答が適切であること等、説明会、インタビューにおける開示も高い評価を受けた。

ANA ホールディングス (総合評価点:81.2 点、第 4 位←4 位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (84%) が第 4 位、**説明会等** (83%) が第 3 位、フェアー・ディスクロージャー (86%) が第 4 位、コーポレート・ガバナンス関連 (72%) が 2 社同得点第 8 位、自主的情報開示 (74%) が第 5 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、定期的にトップマネジメントとのミーティングの機会が設定され、有益な議論ができること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に十分な情報が集積され、担当者と有益なディスカッションができるほか、IR 担当者がアナリストや投資家のニーズを十分理解し、IR 改善の努力を継続している点が高く評価された。

説明会等においては、インタビューにおいて、説明会資料等の数値や文言の理解が深まる十分な説明をしていること等、説明会、インタビューにおける開示が高い評価を受けた。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されている点も高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢やホーム・ページでの情報提供等、この分野全体について高い評価を受けた。

東京急行電鉄 (総合評価点:80.6点、第5位←5位)

同社は、IR 部門に十分な情報が集積され、担当者と有益なディスカッションができるほか、IR 担当者がアナリストや投資家のニーズを十分理解し、IR 改善の努力を継続している点が高い評価を受けた。また、説明資料等に収益および財務分析に必要な情報を十分に記載していること等、資料が充実している点が極めて高く評価された。加えて、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されている点も同様の評価となった。さらに、決算説明会における説明および質疑応答が適切であること等、説明会、インタビューにおける開示も高い評価を受けたほか、自社株買い等株主還元やキャッシュフローの見通しを示している点も評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

以上の個別企業の評価概要のほか、次の2社は、本年度の評価において特に大幅な改善が認められた。

日立物流は、総合評価点が昨年度を 14.3 点上回り(上昇幅第 1 位)、日本航空は、同じく 10.7 点上回って(同第 2 位)、他社と大きな格差のある改善となった。

以上

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (運輸)

_												
計學學	;	 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、I の基本スタンス 	姿勢、 語、IR ス	 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 	ビュー、 おける	3. フェブ・ ア・ フェット・ ファット・	イスト	 4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報 の開示 	ト・ガバナトる情報	5. 各業種の状況に即自主的な情報開示	に即した 親示	指
_	総合評価(100点)											三回票:
評価対象企業		 <u> </u> <u> </u> <u> </u> <u> </u>	f価項目5 点 26点)	[雄]	² 価項目6 点 36点)		降価項目4 3点 11点)		評価項目3 已点 13点)	[編]	価項目3 点 14点)	翔
		評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
(9020) 東日本旅客鉄道	83.0	21.6	9	30.7	2	9.6	2	10.1	2	11.0	2	П
(9064) ヤマトホールディングス	81.8	22.2	က	29.1	4	8.6	_	9.5	9	11.2	1	3
(9101) 日本郵船	81.8	23.2	-	28.4	2	9.6	2	10.1	2	10.5	4	2
(9202) ANAホールディングス	81.2	21.9	4	30.0	3	9.5	4	9.4	∞	10.4	5	4
(9005) 東京急行電鉄	80.6	18.1	8	32.7	1	8.8	6	10.4	П	10.6	3	5
(9104) 商船三井	78.1	22.3	2	27.5	8	9.3	7	9.7	4	9.3	10	∞
(9107) 川崎汽船	76.9	21.7	5	26.8	6	9.4	5	9.4	∞	9.6	7	2
(9021) 西日本旅客鉄道	76.4	19.7	7	28.6	5	8.9	8	9.5	9	7.6	9	9
(9201) 日本航空	73.3	17.4	6	28.6	5	9.4	5	9.7	4	8.2	13	Ξ
(9022) 東海旅客鉄道	66.4	15.9	11	25.8	10	8.5	10	9.9	16	9.6	7	6
(9007) 小田急電鉄	65.0	15.4	12	25.0	11	7.4	16	8.8	10	8.4	12	6
(9062) 日本通運	63.7	14.9	14	23.9	14	7.7	12	7.8	14	9.4	6	12
(9008) 京王電鉄	63.4	14.2	16	25.0	11	9.7	13	8.8	10	7.8	14	12
(9042) 阪急阪神ホールディングス	63.4	14.7	15	24.8	13	9.7	13	8.7	12	7.6	15	未実施
(9375) 近鉄エクスプレス	62.4	16.7	10	21.9	15	7.8	11	8.6	13	7.4	16	14
(9370) 郵船ロジスティクス	58.6	15.3	13	19.4	16	9.7	13	7.8	14	8.5	11	15
(9086) 日立物流	49.1	14.0	17	18.8	17	6.1	17	9.9	16	3.6	17	18
評価対象企業評価平均点	70.8	18.1		26.3		8.4		9.0		9.0		
		4価対象企業 東日本旅客鉄道 ヤマトホールディングス 日本類船 ANAホールディングス 東京急行電鉄 商船三井 同場汽船 国日本旅客鉄道 小田急電鉄 小田急電鉄 京王電鉄 原急阪神ホールディングス 販金阪神ホールディングス 野船ロジスティクス 野船ロジスティクス	価対象企業 (100点) 東日本旅客鉄道 83.0 21.6 ヤマトホールディングス 81.8 23.2 日本郵船 81.8 23.2 ANAホールディングス 81.2 21.9 東京急行電鉄 80.6 18.1 面日本旅客鉄道 76.9 21.7 日本航空 66.4 19.7 日本航空 66.4 15.9 小田急電鉄 65.0 15.4 日本通運 63.7 14.9 原急防御ホールディングス 63.4 14.7 郵船中ジステルス 62.4 16.7 郵船中ジステルス 62.4 16.7 郵船中ジスティクス 58.6 15.3 日本物流 49.1 14.0 野価対象企業評価平均点 70.8 18.1	価対象企業 (100点) 評価項目 東日本旅客鉄道 83.0 21.6 6 オマトホールディングス 81.8 22.2 3 日本郵船 81.8 22.2 3 日本郵船 81.8 23.2 1 東京急行電鉄 80.6 18.1 8 同格三井 76.9 21.7 5 団本航空 76.9 21.7 5 団本航空 76.9 21.7 9 東海旅客鉄道 66.4 15.9 11 中田急電鉄 65.0 15.4 12 原金阪神ホールディングス 63.4 14.2 16 政急阪神ホールディングス 62.4 16.7 10 郵船セジスティクス 58.6 15.3 13 日立物流 10.0 17 野価が流 49.1 14.0 17 野価が流 49.1 18.1 17	(和分象企業 取品を発達) (和の人) 評価項目5 取価点 (配点 20点) (配点 20点) (可定 20点	価対象企業 原内を検討 東口本旅客鉄道 日本郵船 解価点 原内 1.6 所位 6.5 野価点 83.0 所位 22.2 野価点 30.7 所位 30.7 野価点 30.7 所位 30.7 野価点 30.7 所位 30.7 野価点 30.7 野価点 30.7 野価点 30.0 野価点 30.7 野価点 30.0 野価点 30.0 財価点 30.0 財金 財金 <th< td=""><td>(m対象企業 (ED点 26点) (ED点 26点) (ED点 26点) (ED点 36点) (ED点 26点) (EDL 26,24) (EDL 26,</td><td>(400条) (400条) (400 × 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</td><td>(60条) (60条) (60条) (60条) (60条1) (60×1) (60</td><td>(GAA) 6 (GAA) (</td><td>(100 A) (100 A) (ELA CASA A)</td><td>(100点) 所価項目 評価項目 所価項目 所面 所面</td></th<>	(m対象企業 (ED点 26点) (ED点 26点) (ED点 26点) (ED点 36点) (ED点 26点) (EDL 26,24) (EDL 26,	(400条) (400 × 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(60条) (60条) (60条) (60条) (60条1) (60×1) (60	(GAA) 6 (GAA) ((100 A) (100 A) (ELA CASA A)	(100点) 所価項目 評価項目 所価項目 所面 所面

(注1)総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。 (注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は10.1点、昨年度は13.8点であった。

26年度評価項目および配点(運輸)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点
	(26点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。(十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等)	8
② 経営トップ等が決算説明会以外に、有益なミーティングの場を設定していますか。	8
(2) IR部門の機能	
① IR担当者への電話やメールでのアクセスが容易ですか。	2
② IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、担当者と有益なディスカッションができますか。	3
③ IR担当者がアナリストや投資家のニーズを十分理解し、IR改善の努力を継続していますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (36点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	6
② インタビューにおいて、説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	8
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
① 収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。	8
② 部門別あるいは主要子会社別等の実績および見通しのデータが、投資家の関心に即して十分に記載されていますか。	8
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
② 四半期ごとの説明会(電話会議を含む)を開催していますか。 [開催あり:3点 開催なし:0点]	3
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (11点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく十分に行われていますか。 [1点、0.5点、0点の評価とする]	1
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
ホーム・ページに過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断を 行うライブラリーとしての機能を果たしていますか。	2
② 決算説明会等の状況のホーム・ページでの公開について	
A 決算説明会等での会社側の説明内容は分かりやすいですか。	4
B 決算説明会等での質疑応答の内容は分かりやすいですか。	4
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点
	(13点)
(1) 資本政策、株主還元策等の開示	
・ 資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達について十分に説明されていますか。	5
(2) 目標とする経営指標等	
中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明 されていますか。	5
(3) ガバナンス体制について	
・ 現在採用しているガバナンス体制について十分な説明がされていますか。	3
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (14点)
① 有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。 (E·mail、ホーム・ページ等で)	4
② 施設見学会・事業説明会・IR部門以外とのミーティング等を積極的に実施していますか。 [過去1年間を目安に評価]	5
③ 日本語版のアニュアルレポート、ファクトブックの内容は充実していますか。	5

運輸専門部会委員

部 会 長 一柳 創 大和証券

部会長代理 板﨑 王亮 SMBC 日興証券

安藤 誠悟 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券

尾坂 拓也 モルカ・ン・スタンレー MUFG 証券

土谷 康仁川川ゾ日本証券手塚 裕一三井住友信託銀行

原田 潤 UBS 証券

評価実施アナリスト (28名)

浅川	直騎	朝日ライフ アセットマネジ・メント	富田	展昭	極東証券経済研究所
安藤	誠悟	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	中川	真紀子	富国生命投資顧問
石飛	益徳	エース経済研究所	原田	潤	UBS 証券
板﨑	王亮	SMBC 日興証券	一柳	創	大和証券
尾坂	拓也	モルカ゛ン・スタンレー MUFG 証券	姫野	良太	バークレイズ証券
梶山	健	日興アセットマネシ゛メント	平井	克典	東京海上アセットマネジメント
唐木	健至	QBR	平野	太郎	アライアンス・ハ゛ーンスタイン
坂田	喜彦	立花証券	廣兼	賢治	野村證券
三箇	和樹	三井住友アセットマネジメント	舩江	輝	シティグループ証券
柴田	大介	大和証券投資信託委託	三木	泰二	みずほ信託銀行
嶋田	利佳	JP モルカ゛ン・アセット・マネシ゛ メント	山崎	慎一	岡三証券
高橋	輝晃	MU 投資顧問	山本	恵嗣	JP モルカ゛ン・アセット・マネシ゛メント
土谷	康仁	メリルリンチ日本証券	若林	惠太	水戸証券
手塚	裕一	三井住友信託銀行	若林	祐二	富国生命保険

通信・インターネット

∫ カカクコム、ディー・エヌ・エー、グリー、ヤフー、楽天、日本電信電話、KDDI、NTT ドコモ、(計9社・コード順)

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として、新たに楽天を加え、計9社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基 本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	30
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	5	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	5	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		22	100

- (注) 具体的な評価項目および配点は82頁参照
- (2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 33 社の 41 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は **81** 頁参照)。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、2項目の内容の一部を修正して評価を実施したことに加え、新規対象企業もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は68.5点(ちなみに昨年度は69.4点)となった。また、総合評価点の標準偏差は8.5点(昨年度11.4点)であった。

評価項目の5分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、**経営陣のIR姿** 勢等が74%、説明会等が70%、フェアー・ディスクロージャーが78%、コーポレート・ガバナンス関連が58%、自主的情報開示が55%で、コーポレート・ガバナンス関連と自主的情報開示は、本年度も他の分野に比し低水準の評価に変化はなかった。

具体的評価項目について見ると、全 22 項目中、5 項目が平均得点率で 80%以上となり、本年度も特に次の 3 項目は 1 社を除き満点および 80%以上の高い得点率(評価点/配点〈以下省略〉)の評価を受けた。

- ① 会社主催の決算説明会(電話会議を含む)への社長の出席〔4回以上出席:満点〕(平均得点率 97%、〔満点:8 社〕)
- ② 外国人投資家に配慮した情報提供 (ホーム・ページ、説明会資料、説明会時の和英同時通訳体制等) (同 90% [満点:3 社、得点率 90%:3 社、80%:2 社])
- ③ ホーム・ページでの有用な情報提供(過去の時系列データ、説明会の動画・質疑応答の状況等)(同 90%、 [同 90%台:6社、80%台:2社])
 - 一方、次の項目については、昨年度と同様に平均得点率が最も低水準であり、殆どの企業で今後の改善が望まれる。
 - ・ 会社の注目されるサービスないし施設を紹介する機会を設けており、それの有益性(平均得点率 44%、〈昨年度 44%〉、〔得点率 30%台以下: 4 社、52%: 2 社、60%台: 3 社〕)

(2) 上位個別企業の評価概要

KDDI (ディスクロージャー優良企業 [3回連続9回目]、総合評価点:78.3点、第1位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率〈以下省略〉84%)および**説明会等**(81%)が第 2 位、フェアー·ディスクロージャー(86%)が第 1 位、コーポレート·ガバナンス関連(64%)が 2 社同得点第 2 位、自主的情報開示(71%)が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が自身の言葉で経営の現況と今後の方針について説明していることや、社長をはじめとして有益なディスカッションができることが高い評価を受けた。また、IR 部門に十分な情報が集積され、担当者が経営陣の代弁者として十分機能しており、有益なディスカッションができる点が評価された。さらに、会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の展望を示していることも評価された。

説明会等においては、決算発表日(四半期を含む)に決算内容の理解に必要な補足情報を、付属資料等で十分に開示していること等、説明会資料における開示が充実している点が高い評価を受けた。加えて、社長が決算説明会での質疑に対して自分の言葉で簡潔に対応していることも評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための 具体的方策についての十分な説明が評価された。

自主的情報開示では、平均得点率が最も低水準であった施設・設備等を紹介する機会の設定において、事業別説明会が定期的に開かれていることが評価を受けた。さらに、マネジメントのメディアでの発言内容を迅速かつ十分に開示している点が高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

カカクコム (高水準のディスクロージャーを連続維持している企業 【本年度、昨年度第 2 位、一昨年度第 3 位 】、 総合評価点:77.5 点)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (86%) および**説明会等** (84%) が第1位、フェアー・ディスクロージャー (85%) が第2位、コーポレート・ガバナンス関連 (64%) が2社同得点第2位、自主的情報開示 (45%) が2社同得点第6位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、社長をはじめ経営陣の情報開示が適切であることのほか、ミーティングは、社長が自ら丁寧に分かりやすく説明し、有意義なディスカッションができること等が好感され、極めて高い評価となった。また、IR 部門が、投資家やアナリストの知りたい内容・数値を良く把握している点に加え、同部門の担当者が事業の現状を的確に理解しており、有益なディスカッションができることが高く評価された。さらに、会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益の事業についても積極的な開示を行い、今後の展望を示していることも高い評価となった。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が充実している点が高い評価受けた。また、会計基準の変更・セグメント見直し等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるように配慮をしていること等、説明会資料における開示も評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連では、配当政策について明示的に説明していることが評価された。

以上の結果、同社は3回連続して上位の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャーを連続 して維持するために払っている努力は高く評価できるものと認められる。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

日本電信電話(総合評価点:75.8点、第3位←3位)

同社は、自社株買や自社株消却方針について、客観的かつ合理的に説明していることが高く評価される等、コーポレート・ガバナンス関連の分野の得点率が他社と格差のある第1位の評価となった(第2位との差10ポイント)。また、決算発表日(四半期を含む)に決算内容の理解に必要な補足情報を、付属資料等で開示していること

等、説明会資料における開示が高い評価を受けた。

上記企業のほか、NTT ドコモは、営業費用の主要項目の実績および見通しを十分に開示していることが評価される等、説明会資料における開示においてトップの評価となった。さらに、マネジメントのメディアでの発言内容を迅速かつ十分に開示している点も評価された。

以 上

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (通信・インターネット)

									_					
	福回!	順位			П	2	е е	4	9	2	未実施	∞	7	
に即した		評価項目2	(配点8点)	順位	1	9	က	2	9	4	5	6	∞	
5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		l ffeb		評価点	5.7	3.6	5.3	5.4	3.6	5.2	4.7	2.9	3.2	4.4
・ガバナ る情報		評価項目5	(配点 20点)	順位	2	2	1	4	5	9	7	6	8	
4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		[理)	評価点	12.8	12.8	14.7	12.3	12.1	10.0	6.6	9.4	8.6	11.5
120		評価項目5	(配点 12点)	順位	1	2	4	3	4	9	2	6	8	
3. フェアー・ディスク ロージャー		而	强)	評価点	10.3	10.2	9.8	6.6	9.8	9.6	8.8	9.7	8.0	9.4
デュー、 こおける		評価項目6	(配点 30点)	順位	2	1	3	4	5	9	7	6	8	
 説明会、インダビュー、 説明資料等における 開示 		ifiniza	通	計	24.2	25.1	23.3	22.3	20.9	18.6	18.1	17.7	17.8	21.0
紫勢、 語、I R ス		評価項目4	(配点 30点)	順位	2	1	5	3	4	9	7	∞	6	
 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、」 の基本スタンス 		析压	(配	評価点	25.3	25.8	22.7	23.1	23.0	21.9	20.6	19.1	17.8	22.2
	総合評価	(100点)			78.3	77.5	75.8	73.0	69.4	65.3	62.1	26.7	56.6	68.5
計価項目	/		評価対象企業		(9433) KDDI	(2371) カカクコム	(9432) 日本電信電話	(9437) NTTドコモ	ー ム (488)	(9984) ソフトバンク	(4755) 楽天	(3632) //1)-	(2432) ディー・エヌ・エー	評価対象企業評価平均点

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は8.5点、昨年度は11.4点であった。

26年度評価項目および配点(通信・インターネット)

1.	経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (30 点)
(1)	経営陣のIR姿勢	(80)(()
	① 会社主催の説明会(電話会議を含む)に社長が出席していますか。 ① [4回以上:3点 3回:2点 1~2回:1点 なし:0点]	3
	② 会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。	9
2)	IR部門の機能	
	・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	9
(3)	IRの基本スタンス	
	・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の 展望を示していますか。	9
2.	説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点(30点)
1)	説明会、インタビューにおける開示	
	・ 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	15
2)	説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
	① 事業別もしくは会社別に、営業費用の主要項目(人件費、顧客獲得・維持費用、広告宣伝費、通信設備使用料、端末原価等)の実績および見通しは、十分に開示されていますか。	3
	決算発表日(四半期を含む)に、決算内容の理解に必要な補足情報(サービス別売上・加入者、主な関係会社の業績、 ② 設備投資・減価償却費、サービス別EBITDA、セグメント別営業損益等の実績および予測値等)が、付属資料等で、 十分に開示されていますか。	3
	③ オペレーションデータ(契約数、ARPU、トラフィック、UU・MAU、解約率・買換率、課金率、端末販売・在庫台数等) の四半期ごとの、実績および見通しは、十分に開示されていますか。	3
	④ キャッシュフロー計算書の実績および見通しは、分かりやすく説明されていますか。	3
	⑤ 会計基準の変更・セグメント見直し等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていますか。	3
	フェアー・ディスクロージャー	配点
		(12点)
1)	フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢 	
	① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	3
	② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績修正発表、新サービス・新技術、設備投資計画の変更、料金改定、 法改正の影響等)の開示は、迅速かつ十分でしたか。	3
	③ 国内外における合併・出資・提携・事業の統廃合等が、P/LおよびBSに与える影響について、迅速かつ十分に開示されていますか。	3
2)	ホーム・ページにおける情報提供	
	ホーム・ページで有用な情報提供(過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等)を行っていますか。	2
3)	英語による情報提供	
	外国人投資家にも配慮した情報提供(ホーム・ページ、説明会資料、説明会時の和英同時通訳体制、アニュアルレポート、 ファクトブック等)に努めていますか。 [十分である:1点 やや不十分:0.5点 その他:0点]	1
1	コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点
		(20点)
1)	株主還元策の開示	
_	① 配当政策が客観的かつ合理的に説明されていますか。	4
	② 自社株買、自社株消却の方針が、説明されていますか。	4
2)	資本政策、目標とする経営指標等の開示	
	① 資本政策の具体的な目標が明示され、かつその内容は十分なものですか。	4
	② 目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	4
3)	経営機構、経営資源について	
	・ 経営機構、経営資源について十分な説明がなされていますか。	4
	各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点
•	会社の注目されるサービスないし施設・設備を紹介する機会(記者発表会等を含む)を投資家向けにも設けており、	<u>(8点)</u> 5
	- てれは有金でしたか。 [1954年间を日女に計価] 	
	② マネジメントのメディアでの発言内容は、迅速かつ十分な内容で開示されていますか。	3

通信・インターネット専門部会委員

部 会 長 忍足 大介 JP モルガン・アセット・マネジメント

部会長代理 增野 大作 野村證券

大谷 章夫 東京海上アセットマネジ・メント

津坂 徹郎 モルカ゛ソ・スタンレー MUFG 証券

土門泰りそな銀行早川仁クレディ・スイス証券

米島 慶一 バークレイス 証券

評価実施アナリスト(41名)

安藤	義夫	大和証券	多功	英貴	シティク゛ルーフ゜証券
石塚	浩一	DIAM アセットマネシ゛メント	田中	聡	大和証券
伊藤	彰洋	三井住友アセットマネジメント	田中	秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
伊藤	琢	ニッセイ アセット マネシ゛メント	津坂	徹郎	モルカ゛ン・スタンレー MUFG 証券
岩渕	啓介	岡三証券	寺島	正	大和証券投資信託委託
上野	賢司	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	土門	泰	りそな銀行
上野	真	大和証券	長尾	佳尚	野村證券
大谷	章夫	東京海上アセットマネジメント	中川	雅嗣	国際投信投資顧問
大場	剛平	野村アセットマネシ゛メント	滑川	晃	シュロータ゛ー・インヘ゛ストメント・マネシ゛メント
忍足	大介	JP モルカ゛ン・アセット・マネシ゛メント	納	博司	いちよし経済研究所
風早	隆弘	ドイツ証券	早川	仁	クレディ・スイス証券
片山	智宏	三井住友信託銀行	樋口	夏子	三井住友信託銀行
金森	都	SMBC 日興証券	前田	栄二	SMBC 日興証券
木下	芳之	メリルリンチ日本証券	前田	吉弘	アムンテ゛ィ・ジ゛ャハ゜ン
小山	洋美	国際投信投資顧問	増野	大作	野村證券
坂田	喜彦	立花証券	森に	はるか	JP モルガン証券
佐藤	俊郎	極東証券経済研究所	安田	秀樹	エース経済研究所
山藤	秀明	QBR	安山	誠健	富国生命投資顧問
嶋津	正明	農林中金全共連アセットマネジメント	吉田	純平	野村證券
清水	康之	QBR	米島	慶一	バークレイズ証券
高橋	圭	みずほ証券			

商社

双日、伊藤忠商事、丸紅、豊田通商、三井物産、住友商事、三菱商事 (計7社:コード順)

1. 評価方法等

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基 本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	34
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	5	30
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	2	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	18
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
m h		17	100

⁽注) 具体的な評価項目および配点は87頁参照

(2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 24 社の 24 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は **86** 頁参照)。

本年度は、具体的評価項目ついて、説明会等およびフェアー・ディスクロージャーの分野を中心に昨年度に比べ、全体で 14 項目を削除し新たに 2 項目を新設する大幅な見直しを行うと共に、配点も修正して評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 75.4 点(ちなみに昨年度は 74.3 点)、総合評価点の標準偏差は 3.6 点(昨年度 2.8 点)であった。

評価項目の 5 分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、**経営陣の IR 姿** 勢等が 75%、説明会等が 76%、フェアー・ディスクロージャーが 79%、コーポレート・ガバナンス関連が 74%、自主的情報開示が 71%といずれも 70%台の評価となった。

また、具体的評価項目について見ると、全 17 項目中 7 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に、次の 2 項目は、全社が高い得点率(評価点/配点〈以下省略〉)の評価となった。

- ① 経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている(平均得点率 87%、[得点率 90%台:2 社、80%台:5 社])
- ② 現在採用している経営機構についての十分な説明(同80%、〔同80%台:全社〕)

(2) 上位個別企業の評価概要

三井物産(ディスクロージャー優良企業〔新規〕、総合評価点:81.6点、第1位←2位)

同社は、5 分野全てにおいて同順位を含め第 1 位となり、**経営陣の IR 姿勢等** ((得点率 〈以下省略〉79%))、 説明会等 (81%)、フェアー・ディスクロージャー (83%)、コーポレート・ガバナンス関連 (88%)、自主的情報 開示 (80%) であった。

各分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、定期的なトップミーティングを開催し、しっかりとマーケットと向き合い真摯に説明する姿勢が伝わってくること等、経営陣の積極的な IR への取組姿勢が高い評価を受けた。

説明会等においては、プレゼン資料での純利益前年差の開示がある点や決算短信の情報量、決算補足資料の内容が詳細で充実していることが高い評価を受けた。加えて、説明資料に、一過性の要因、投融資、価格・数量の前提や感応度等を詳細に開示している点も高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策や株主還元策に対する考え方の積極的な説明や、株主還元するためのフリーキャッシュフローを経営目標として掲げた点が高く評価された。

自主的情報開示においては、事業を理解する上で重要な説明会等に関し、北米シェール関連事業見学会等を実施し、その内容が有益であったことが高い評価となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

伊藤忠商事(総合評価点:77.6点、第2位←1位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (79%) が 2 社同得点第 1 位、説明会等 (79%) が第 2 位、フェアー・ディスクロージャー (78%) が 3 社同得点第 4 位、コーポレート・ガバナンス関連 (75%) が第 3 位、自主的情報開示 (74%) が第 4 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、決算説明会およびミーティングで、社長と定期的に今後の経営方針等について率直な議論ができることや、株主を強く意識した経営トップの姿勢等、経営陣の積極的な IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に情報がタイムリーに集積されており、担当者の説明も具体的にかつ良く整理され、丁寧で分かりやすく有益なディスカッションができる点が高く評価された。

説明会等においては、説明会、インタビューにおける質疑応答が十分満足できることのほか、説明資料等でのセグメント別の情報等必要な情報が網羅され充実している点が高い評価となった。また、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることも評価された。

三菱商事(総合評価点:76.4点、第3位←3位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (77%) が第 3 位、**説明会等** (75%) が 2 社同得点第 4 位、フェアー・ディスクロージャー (78%) が 3 社同得点第 4 位、コーポレート・ガバナンス関連 (78%) が第 2 位、自主的情報開示 (75%) が第 3 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、**IR** 部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、担当者の具体的な説明が豊富で有益なディスカッションができることのほか、**IR** 部門が各事業部のトップや事業部門全般について語れる人へのインタビュー等をアレンジしている点等、同部門の機能が高い評価を受けた。また、経営指標に関する一定の説明や、資本政策、株主還元策に対する考え方の説明も評価された。さらに、事業を理解する上で重要な説明会等に関し、石炭事業見学会等を実施し、その内容が有益であったことが評価を受けた。

以上のほか、事業計画および中長期の経営方針を具体的に説明している点も高く評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

双日 (総合評価点: 75.4点、第4位←7位)

同社は、昨年度と評価項目の内容および配点が同じであった、事業を理解する上で重要な説明会等の項目に関し、タイ事業見学会や事業セグメントに関する説明会を実施し、その内容が有益であったことで得点率が昨年度を大きく上回り(+50 ポイント・最大幅)、上記のような順位のランクアップにつながった。

以上

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (商社)

(単		福回 豐	苕		2	П	3	7	9	5	3	
(単位:点)	兄に即した報開示		評価項目2(配占8占)	順位	1	4	3	2	9	5	7	
	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示			幹価点	6.4	5.9	6.0	6.3	5.1	5.7	4.7	5.7
	ト・ガバナ トる情報		評価項目3	順位	1	3	2	4	7	4	4	
	4. コーポレート・ガバナ ンメに関連する情報 の開示				15.8	13.5	14.0	12.8	12.6	12.8	12.8	13.4
	127		評価項目2 配占10占)	順位	1	4	4	4	1	3	7	
	3. フェアー・ディスク ロージャー				8.3	7.8	7.8	7.8	8.3	7.9	7.5	7.9
	ビュー、 おける		評価項目5	順位	1	2	4	8	2	4	9	
	 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 			評価点	24.4	23.7	22.5	22.6	21.0	22.5	22.1	22.8
	·姿勢、 龍、 I R バス		評価項目5	順位	1	1	3	4	5	7	9	
	1. 経営陣の1R姿勢、 1R部門の機能、〕 の基本スタンス			群価点	26.7	26.7	26.1	25.9	25.7	23.6	24.3	25.6
		総合評価(100년)	(100元)		81.6	9.77	76.4	75.4	72.7	72.5	71.4	75.4
	3.4.10日		評価対象企業		(8031) 三井物産	(8001) 伊藤忠商事	(8028) 三菱商事	(2768) 双目	(8015) 豊田通商	(8053) 住友商事	(8002) 丸紅	評価対象企業評価平均点
		順 4	<u>4</u>		1	2	က	4	22	9	7	

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は3.6点、昨年度は2.8点であった。

26年度評価項目および配点(商社)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点
	(34点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・決算説明会、またはミーティングにおいて、会長または社長と今後の経営方針等について有意義なディスカッションができますか。	8
② 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。	5
(2) IR部門の機能	
① IR部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	8
② IR部門が積極的に各事業部のトップや事業部門全般について語れる人へのインタビュー等をアレンジしてくれますか。	5
(3) IRの基本スタンス	· L
会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の 展望を示していますか。	8
	配点
	(30点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	_
① 次期の事業計画および中長期の経営方針が具体的に説明されていますか。	5
② 質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
2) 説明資料等における開示	
① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が、ホーム・ページ等で入手できますか。	6
② 説明会資料等において投資家が求める情報(金融収支、一過性の要因、投融資、価格・数量の前提および感応度等) が十分に開示されていますか。	10
(3) 四半期情報開示	•
・ 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	4
3. フェアー・ディスクロージャー	配点
	(10点)
・フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	·
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	3
投資家にとって重要と判断される事項(例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、 ② 大規模な投融資、グループの再編、リスク情報等)の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていますか。	7
	配点
	(18点)
(1) 経営機構について	1
現在採用している経営機構について十分な説明がなされていますか。	2
(2) 目標とする経営指標等	
・ 重視する経営指標(例えば、ROE、リスク・リターン指標等)とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的 方策および進捗状況が十分説明されていますか。	8
3) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていますか。	8
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点
	(8点)
事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。 [過去1年間を目安に評価]	6
② E·mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。	2

商社専門部会委員

部 会 長 成田 康浩 野村證券

部会長代理 栗原 英明 東海東京調査センター

五百旗頭 治郎 大和証券

重松 揮響 三井住友信託銀行

永野 雅幸 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券

濱口実みずほ信託銀行村上貴史SMBC 日興証券

評価実施アナリスト (24名)

大和証券 五百旗頭 治郎 富田 展昭 極東証券経済研究所 石井 宏 国際投信投資顧問 永野 雅幸 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券 石口 政樹 富国生命投資顧問 成田 康浩 野村證券 大畠 彰雄 野村アセットマネシ、メント 橋田 伸也 ニッセイ アセット マネシ゛メント 尾原 香代子 アライアンス・バーンスタイン 濱口 実 みずほ信託銀行 梶山 健 日 興アセットマネシ゛メント 林 明史 みずほ証券 北尾 征久 三井住友アセットマネジメント 平井 明子 アムンディ・ジャパン 栗原 英明 東海東京調査センター 広川 孝一 JP モルカ゛ン・アセット・マネシ゛メント 佐々木 裕一 DIAM アセットマネシ゛メント 堀内 敏成 QBR 重松 揮響 三井住友信託銀行 宮崎 高志 シティグ・ループ 証券 下川 寿幸 立花証券 村上 貴史 SMBC 日興証券 高橋 輝晃 MU 投資顧問 和久 JP モルガン証券 森

小売業

ローソン、エービーシー·マート、J. フロント リテイリング、三越伊勢丹ホールディングス、 セブン&アイ·ホールディングス、良品計画、ドンキホーテホールディングス、スギホールディングス、 ファミリーマート、しまむら、髙島屋、丸井グループ、イオン、ケーズホールディングス、 ヤマダ電機、ニトリホールディングス、ファーストリテイリング、サンドラッグ (計 18 社・コード順)

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として、新たに**良品計画**を加える等、一部対象を変更し、計 **18** 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の 基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	10	30
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	3	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	4	16
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	9
計		24	100

- (注) 具体的な評価項目および配点は93頁参照
- (2) 評価実施(スコアシート記入)アナリストは30社の34名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は **92** 頁参照)。

本年度は、具体的評価項目のうち IR 部門の機能への配点を増やす等、一部配点を変更して評価を実施したことに加え、新規対象企業もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 74.2 点(ちなみに昨年度は 72.5 点)となった。また、総合評価点の標準偏差は 8.9 点(昨年度 8.7 点)であった。

業態別の総合評価平均点は、高得点順に、コンビニエンスストア[2 社]: 84.4 点 (昨年度 85.4 点)、百貨店[4 社]: 77.8 点 (同 77.3 点)、総合小売[2 社]: 72.2 点 (同 69.6 点)、専門店[10 社]: 71.2 点 (同 68.7 点) となり、コンビニエンスストアのみが昨年度の評価点を若干下回った。

評価項目の5分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、**経営陣のIR 姿 勢等**が73%(昨年度71%)、説明会等が78%(同76%)、フェアー・ディスクロージャーが82%(同79%)、コーポレート・ガバナンス関連が66%(同66%)、自主的情報開示が66%(同62%)となり、コーポレート・ガバナンス関連を除く4分野は若干改善が見られた。

また、具体的評価項目について見ると、平均得点率で 80%以上の評価項目が**説明会等**の分野などの 11 項目(昨年度 10)となった。特に次の 5 項目全てについて、18 社中 15 社以上が得点率(評価点/配点<以下省略>)80%以上の高い水準の評価となった。

- ① 次期の事業計画(営業利益、売上利益率、設備投資額、減価償却費、販管費の内訳等)の十分な記載(平均得点率 90%、〔得点率 90%台:12 社、80%台:3 社〕)
- ② 月次の売上状況 (既存店・全店増収率、部門別増収率、客数、客単価等) および次期見通しの十分な記載

(同 90%、[同 90%台:13 社、80%台:3 社])

- ③ 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績変動、合併・提携等)が発生した場合、迅速かつ公平な説明(同87%、[同90%台:9社、80%台:6社])
- ④ 出退店についての実績および計画の十分な記載(同85%、〔同90%台:10社、80%台:6社〕)
- ⑤ 決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足(同 83%、[同 90%台:6 社、80%台:9 社])

一方、次の①の項目については、直近数年の各評価結果において一部の企業を除き改善を促しているが、本年度も専門店全社を中心に依然として得点率は低く、多数の企業にあってはさらなる改善の努力が強く望まれる。

- ① 店舗や商品展示見学会の積極的な実施(平均得点率50%、〔得点率60%未満:11社〈専門店:8社〉〕) また、次の②については、昨年度に続き2番目に低い水準の平均得点率であり、①と同様に多数の企業において今後の改善が望まれる。
- ② IR 部門以外のセクション (店舗、物流センター、海外拠点等) へのインタビュー等についての積極的な 対応 (同 54%、[同 60%未満: 9 社〈専門店: 7 社〉])

(2) 上位個別企業の評価概要

ローソン (ディスクロージャー優良企業 [3回連続8回目]、総合評価点:86.0点、第1位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率〈以下省略〉87%)が第 1 位、**説明会等**(86%)が第 2 位、フェアー・ディスクロージャー(90%)およびコーポレート・ガバナンス関連(84%)が第 1 位、自主的情報開示(82%)が 2 社同得点第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、決算説明会等で経営トップが経営方針等を明確に分かりやすく説明していること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に、グループ会社を含む情報がタイムリーに集積されており、有益なディスカッションができる等、同部門の機能が充実している点や、ディスクロージャー・IR 全体を通じて企業理念・中長期ビジョンを明確に打出していること等、IR の基本スタンスについても高く評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できることが高い評価を受けた。さらに、 説明資料等における開示が全体的に分かりやすく充実している点が高く評価され、加えて、四半期の動向を理解 するために必要な基本的な情報を開示していることも極めて高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策や株主還元策について客観的かつ合理的に説明している ほか、経営目標ならびにガバナンス体制についての説明等、この分野の 4 項目のうち 3 項目でトップの評価を受けた。

自主的情報開示においては、評価対象企業の平均得点率が最も低水準(50%)であった店舗や商品展示の見学会の実施に関し、商品展示会や事業戦略説明会を開催したことで高い評価となったほか、アニュアルレポートに業務・戦略・財務目標が明確に記載されていること等日本語アニュアルレポートの内容が充実している点も高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

良品計画(総合評価点:84.0点、第2位〔再開〕)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (86%) が第 2 位、説明会等 (84%) が第 5 位、フェアー・ディスクロージャー (88%) が第 3 位、コーポレート・ガバナンス関連 (79%) が第 2 位、自主的情報開示 (79%) が第 4 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、決算説明会等で経営トップが経営方針等を明確に説明していること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に、グループ会社を含む情報がタイムリーに集積されており、有益なディスカッションができる等、同部門の機能が充実している点や、ディスクロージャー・IR 全体を通じて企業理念・中長期ビジョンを明確に打出していること等、IR の基本スタンスについても高く評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できる点が極めて高い評価を受けた。さ

らに、説明資料等における開示が全体的に分かりやすく充実している点が高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、配当等株主還元策の開示のほか、目標とする経営指標、採用理由、 目標達成の取組み等についての説明等が高い評価となった。

自主的情報開示においては、店舗や商品展示の見学会の実施に関し、商品展示会等を定期的に開催していることが得点率でトップの評価となった。

なお、同社については、本年度、評価を再開したが、極めて高い評価を受けた。

ドンキホーテホールディングス (総合評価点:83.4 点 [昨年度比+3.8 点《改善幅第1位》]、第3位←4位) 同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等 (85%) が第3位、説明会等 (85%) およびフェアー・ディスクロージャー (87%) が第4位、コーポレート・ガバナンス関連 (78%) が第3位、自主的情報開示 (77%) が第5位 となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップが、決算説明会等において経営方針等を明確に説明していることが高く評価された。また、IR 部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されていることや、同部門の敏速な対応に加え、担当者と有益なディスカッションができること等、同部門の機能が充実している点が高い評価を受けた。加えて、ディスクロージャー・IR 全体を通じて企業理念・中長期ビジョンを明確に打出していること等、IR の基本スタンスについても高く評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できることが高く評価された。同社は、 持株会社化に伴い、説明資料等については改善の余地が大きいものの、IR 部門以外のセクションへのインタビュ 一等についての対応が、高い評価を受けた。さらに、四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報を開示 していることも高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、目標とする経営指標等ならびにガバナンス体制についての説明等、 この分野の全体について高い評価を受けた。

加えて、同社は、全社の中で唯一、5分野全ての得点率が昨年度を上回り、昨年度と同一内容の 22 の具体的評価項目中、14 の得点率が昨年度を上回る改善となり、上記のような総合評価点のアップにつながった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

J. フロント リテイリング (総合評価点:82.4 点、第 4 位←3 位、分野別では、経営陣の IR 姿勢等 (85%) 第 4 位、説明会等 (87%) 第 1 位、フェアー・ディスクロージャー (89%) 第 2 位)

同社は、**経営陣の IR 姿勢等**については、決算説明会等において経営トップが経営戦略を明確に説明していることが評価されたほか、**IR** 部門の機能が充実している点も高い評価を受けた。加えて、ディスクロージャー・**IR** 全体を通じて企業理念・中長期ビジョンを明確に打出していること等、**IR** の基本スタンスについても高く評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できることや、説明資料等における開示が全体的に充実している点が極めて高い評価を受けた。さらに、四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報を開示していることも高く評価された。

フェアー·ディスクロージャーに関しては、経営陣が情報開示につき公平な機会を与えている点等、この分野全体について高く評価された。

以上のほか、目標とする経営指標等の説明も高い評価となった。

ファミリーマート(総合評価点:81.7点、第5位←2位、分野別では、説明会等(85%)第3位、フェアー・ディスクロージャー(87%)第5位、コーポレート・ガバナンス関連(71%)第5位、自主的情報開示(83%)第1位) 同社は、IR 部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、担当者が敏速に対応している点や、同部門へのアクセスの容易性等、同部門の機能が充実していることが第1位の高い評価を受けた。

ただし、経営陣の IR 姿勢について、得点率が平均得点率を下回る水準まで低下しており、今後の改善が期待される。

自主的情報開示においては、店舗や商品展示の見学会の実施に関し、商品展示会や各種テーマに沿った説明会を積極的に開催していることで、他の1社と共に第2位の高い得点率となった。加えて、ファクトブックや日本語アニュアルレポートならびに CSR 報告部分の内容が充実している点も高い評価を受けた。

以 上

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (小売業)

1 公子子 2 公子 2 公子子 2 公子 2 公子子 2 公子 2 公子子 2 公子子 2 公子 2 公
粧宮陣の1 R 姿勢、 1 R 部門の機能、1 R の基本スタンス
評価項目4 (配点 30点)
順位
1
2
3
4
2
5
2
8
6
6
11
13
12
14
15
16
18
17
19.6

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は8.9点、昨年度は8.7点であった。

26年度評価項目および配点(小売業)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (30点)
(1) 経営陣のIR姿勢	」 (30点)
経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していますか。	10
(2) IR部門の機能	1 10
① IR部門に、グループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、有益なディスカッションができますか。	6
② IR部門へのアクセスの容易性はどうですか。	7
(3) IRの基本スタンス	
・ 当該企業のディスクロージャー・IR全体を通じて、企業理念・中長期ビジョンが明確に打ち出されていますか。	7
	配点 (30点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	(30点)
① 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は、十分に満足できるものですか。	3
② IR部門以外のセクション(店舗、物流センター、海外拠点等)へのインタビュー等について積極的に対応していますか。	5
③ 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績変動、合併・提携等)が発生した場合、迅速かつ公平に十分な説明を行っていますか。	3
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示 [以下①一⑥については、持株会社の場合、主要事業会社についての記載を評価する]	
① 主要セグメント別の売上高、営業利益、資産、設備投資額、減価償却費について、十分に記載されていますか。 また、固定資産・在庫・のれん等の資産評価にかかわる特別な損益についても、十分に記載されていますか。	3
② 地域別、商品部門別(含む粗利益率)、顧客別等の売上高内訳は、詳細に記載されていますか。	2
③ 次期の事業計画(営業利益、売上利益率、設備投資額、減価償却費、販管費の内訳等)は、十分に記載されていますか。	2
出退店についての実績および計画(売上高、設備投資額、売り場面積、総面積、開閉店時期等)は、十分に記載されていますか。 (コンビニエンスストアについては地域別およびタイプ別に記載されているか)	2
⑤ 月次の売上状況(既存店・全店増収率、部門別増収率、客数、客単価等)および次期見通しは、十分に記載されていますか。	2
⑥ セグメント分類や会計方針等の制度変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の開示が十分に行われていますか。	2
(3) 四半期情報開示	
・ 四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報が開示されていますか。	6
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (15点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
経営陣が情報開示につき、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。	10
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ 決算説明会資料や月次のデータが、ホーム・ページでも入手が可能ですか。	3
3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は充実していますか。	2
1. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (16点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
① 資本政策(資金調達、グループ持合政策、優先株)について、客観的かつ合理的に説明されていますか。	3
② 配当政策・自社株買い等株主還元策について、客観的かつ合理的に説明されていますか。	3
2) 目標とする経営指標等	
・ 目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取り組み等について、十分説明されていますか。	5
(3) ガバナンス体制について	
現在採用しているガバナンス体制について十分な説明がされていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (9点)
① 店舗や商品展示の見学会を積極的に実施していますか。 [過去1年間を目安に評価]	3
② ファクトブックや日本語のアニュアルレポートは作成され、内容が充実していますか。	3
③ CSR報告書・環境報告書の内容は充実していますか。	3

小売業専門部会委員

部 会 長 正田 雅史 野村證券

部会長代理 小場 啓司 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券

高橋 俊雄 みずほ証券

武久 緩美 JP モルガン・アセット・マネジメント

宮田 仁光 三井住友信託銀行

 村田
 大郎
 JP モルガン証券

 山手
 剛人
 クレディ・スイス証券

評価実施アナリスト (34名)

青木 英彦	メリルリンチ日本証券	田中 俊	SMBC フレンド調査センター
五十﨑 義将	東京海上アセットマネジメント	田村 真一	極東証券経済研究所
石飛 益徳	エース経済研究所	津田 和徳	大和証券
伊藤 彰洋	三井住友アセットマネジメント	手塚 裕一	三井住友信託銀行
大石 益美	いちよし経済研究所	中川 正人	みずほ証券
風早 隆弘	ドイツ証券	永田 和子	QBR
金森 都	SMBC 日興証券	仲西 恭子	DIAM アセットマネシ゛メント
城戸 謙治	みずほ信託銀行	西村 俊一	大和住銀投信投資顧問
栗島 理恵	水戸証券	花井 由紀子	日 興アセットマネシ゛メント
桑平 武志	りそな銀行	藤原 重良	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
小場 啓司	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	堀内 敏成	QBR
篠崎 真紀	モルガン・スタンレーMUFG証券	宮田 仁光	三井住友信託銀行
正田 雅史	野村證券	牟田 知倫	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
高田 訓弘	三菱 UFJ 投信	村田 大郎	JP モルガン証券
高橋 俊雄	みずほ証券	森 清	岡三証券
ダグラス 奈津子	アムンテ゛ィ・シ゛ャハ゜ン	守屋 のぞみ	UBS 証券
武久 緩美	JP モルカ゛ン・アセット・マネシ゛ メント	山手 剛人	クレディ・スイス証券

銀行

新生銀行、あおぞら銀行、三菱UFJフィナンシャル・グループ、りそなホールディングス、 三井住友トラスト・ホールディングス、三井住友フィナンシャルグループ、千葉銀行、横浜銀行、 常陽銀行、ふくおかフィナンシャルグループ、静岡銀行、スルガ銀行、京都銀行、 みずほフィナンシャルグループ (計 14 社・コード順)

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として、新たにスルガ銀行を加え、計14社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基 本スタンス	 経営陣の IR 姿勢等	3	23
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	38
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	4	11
④コーポレート·ガバナンスに関連する情報 の開示	 コーポレート・ガバナンス関連 	2	16
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	12
計		18	100

(注) 具体的な評価項目および配点は99頁参照

(2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは30社の34名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は **98** 頁参照)。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、一部の項目の内容と配点を変更して評価を実施したことに加え、新規対象企業もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は77.8点(ちなみに昨年度は76.8点)となった。なお、対象企業の総合評価点の標準偏差は、4.6点(昨年度4.0点)であった。

評価項目の5分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が78%、説明会等が80%、フェアー・ディスクロージャーが86%、コーポレート・ガバナンス関連が78%、自主的情報開示が64%となり、昨年度と同様に自主的情報開示を除き70%を上回る水準であった。

また、主要銀行(7社)と地方銀行(7社)の総合評価平均点は、それぞれ80.2点(昨年度78.9点)と75.8点(同74.2点)となり、双方の格差は昨年度と同水準であった。

具体的評価項目について見ると、フェアー・ディスクロージャーでの 4 項目全てをはじめ、全 18 項目中半数を上回る 11 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に、次の 3 項目は全社において、満点を含む高い得点率(評価点/配点〈以下省略〉)の評価となった。

- ① 経営陣および IR 部門が公平な情報開示につき十分な注意を払っているか(平均得点率 95%、〔満点:2 社、得点率 90%台:9 社、85%台:3 社〕)
- ② 決算短信の同時配布資料の内容は十分か(同85%、[90%台:7社、80%台:7社])
- ③ 投資家にとって重要と判断される事項の開示は遅滞なく、かつ十分か(同84%、[80%台:14社])
- 一方、直近数年に比べ本年度もやや改善が見られたものの、多くの企業で一層の改善の努力が望まれる点として、IR 部門とのミーティング以外の、子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等の積極的な実施が挙げられ

る。(平均得点率 60%、25 年度 57% (24 年度 47% 《23 年度 43%》) 〔本年度得点率 50%台以下:6 社、60%台:4 社〕)

(2) 上位個別企業の評価概要

三菱UFJフィナンシャル・グループ

(ディスクロージャー優良企業 [3回目]、総合評価点:83.4点、第1位←3位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率〈以下省略〉81%)が第3位、**説明会等**(83%)が第2位、フェアー·ディスクロージャー(91%)が第1位、コーポレート·ガバナンス関連(77%)が第10位、自主的情報開示(91%)が第1位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が決算説明会等で業績・成長戦略についてポイントを押さえて明快に説明していることや、質疑にも丁寧に対応している点等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門の担当者の説明が丁寧であるほか、経営陣と投資家・アナリストとの接点を増やす工夫をしていることが評価された。

説明会等においては、自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示が積極的になされていることや、 主な連結子会社・関連会社の損益、財務の状況を説明している点等、説明会、インタビューにおける対応が明快 であることが高い評価となった。

フェアー·ディスクロージャーに関しては、ホーム・ページを活用し幅広く必要な情報を発信している点等、 この分野全体について極めて高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、Investors Day(連結事業本部長による経営戦略説明会)や証券事業説明会・アコムコールセンター見学会等を開催し、高い得点率で第1位の評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

みずほフィナンシャルグループ(総合評価点:83.1点、第2位←1位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (85%) が第 1 位、**説明会等** (81%) が 2 社同得点第 8 位、フェアー・ディスクロージャー (85%) が 2 社同得点第 11 位、コーポレート・ガバナンス関連 (81%) が 2 社同得点第 2 位、**自主的情報開示** (88%) が第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が決算説明会等で経営方針などを自身の言葉で説得力のある説明をしているほか、自ら率先して IR 活動に積極的である姿勢が高く評価された。また、IR 部門への情報集積度合いが高く、同部門の担当者の質問への対応などが迅速・正確であること等、同部門の機能が充実している点が高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、配当性向を明瞭にコミットしたことや、中期経営計画の進捗状況・達成のための具体的方策についての説明が評価された。

自主的情報開示においては、IR Day(各事業部門長による事業戦略説明会)を昨年度に引き続き開催したこと等により、高い得点率で第2位の評価を受けた。

三井住友トラスト·ホールディングス(総合評価点:80.2 点、第 3 位←4 位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (80%) が第 4 位、説明会等 (82%) が 2 社同得点第 3 位、フェアー・ディスクロージャー (89%) が第 2 位、コーポレート・ガバナンス関連 (78%) が第 9 位、自主的情報開示 (68%) が第 6 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣へのアクセスが改善されてきたことのほか、IR 部門に十分な情報が集積され、同部門の機能が質、量共に充実している点や、対応も丁寧で情報開示に積極的であることが高い評価を受けた。

説明会等においては、部門別・項目別に損益の分析に必要なデータを一貫して開示・説明していることのほか、 四半期の開示資料の内容が充実していることも評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関して、ホーム・ページを利用して有用な情報提供を行っている点等、この分野全体について高い評価となった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

千葉銀行(総合評価点:79.7点[昨年度比+3.3]、第4位←7位)

同社は、5分野中4分野の得点率が昨年度を上回り、上記のような総合評価点と順位のアップにつながった。 具体的には、IR 部門と十分な意見交換ができること等、同部門の機能が質的に向上している点が評価された。 また、リスク情報の開示や、主な連結子会社・関連会社の損益、財務および資本関係等の状況を説明していること等、説明会、インタビューにおける開示が高い評価となった。加えて、フェアー・ディスクロージャーに関して、経営陣およびIR 部門が公平な情報開示につき十分な注意を払っていることで、他の1社と共に満点評価を受ける等、この分野全体について総じて高い評価となった。

三井住友フィナンシャルグループ(総合評価点:79.6点、第5位←2位)

同社は、経営トップが決算説明会等で経営方針を丁寧に伝えようとする姿勢が評価された。また、IR 部門に情報が集積されており、同部門の担当者の質問への対応などが丁寧で正確であること等、同部門の機能について高い評価を受けた。さらに、自主的情報開示においては、全セグメントの部門ヘッドが参加する IR Day を初めて開催した。

以 上

(田(十二日)

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (銀行)

一 一 一	2 色色		抖	3	П	4	7	2	9	22	8	10	6	10	12	未実施	13	
各業種の状況に即した 自主的な情報開示	評価項目	(配点 12点)	順位	1	2	9	2	4	8	11	8	6	7	10	12	12	14	
5. 各業種の少自主的な情			評価点	10.9	10.6	8.2	9.8	9.1	7.9	6.1	9.2	7.5	8.0	6.5	5.1	5.1	4.2	7.7
ト・ガバナチる情報	評価項目2	配点 16点)	順位	10	2	6	9	111	9	1	12	2	4	9	2	14	13	
 4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報 の開示 	1,1112	國)	評価点	12.3	13.0	12.4	12.7	12.1	12.7	13.8	11.5	12.8	12.9	12.7	13.0	11.2	11.4	12.4
177	評価項目4	(配点 11点)	順位	1	11	2	8	5	3	5	5	2	11	5	2	13	14	
3. フェアー・アーロージャー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー	1fribz	通)	評価点	10.0	9.4	9.6	9.6	9.5	9.6	9.5	9.5	9.5	9.4	9.5	9.5	9.0	8.4	9.5
9 ビュー、 における	評価項目7	配点 38点)	順位	2	8	3	3	8	11	1	5	9	10	111	9	13	14	
2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	THUE	愛)	評価点	31.5	30.6	31.3	31.3	30.6	30.1	31.7	31.2	31.1	30.5	30.1	31.1	27.8	27.3	30.3
姿勢、 能能、IR /ス	評価項目3	(配点 23点)	順位	3	1	4	111	5	2	9	10	9	9	6	12	13	14	
 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、 の基本スタンス 		極)	評価点	18.7	19.5	18.5	17.5	18.3	19.1	18.1	17.6	18.1	18.1	17.9	17.1	16.1	15.6	17.9
※ 中 平				83.4	83.1	80.2	79.7	79.6	79.4	79.2	79.0	79.0	78.9	76.7	75.8	69.2	6.99	77.8
計	节百岁命入谢	平1000000000000000000000000000000000000		(8306) 三菱UFJフィナンシャル・グループ	(8411) みずほフィナンシャルグループ	(8309) 三井住友トラスト・ホールディングス	(8331) 千葉銀行	(8316) 三井住友フィナンシャルグループ	(8308) りそなホールディングス	(8332) 横浜銀行	(8303) 新生銀行	(8355) 静岡銀行	(8333) 常陽銀行	(8304) あおぞら銀行	(8354) ふくおかフィナンシャルグループ	(8358) スルガ銀行	(8369) 京都銀行	評価対象企業評価平均点
/ 	拉			1 (83	2 (84	3 (83	4 (83	5 (83	6 (83	7 (83	8 (83	8 (83	10 (83	11 (83	12 (83	13 (83	14 (83	
																1		

(注1)総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。 (注2)評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は4.6点、昨年度は4.0点であった。

26年度評価項目および配点(銀行)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点
	(23点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していますか。	10
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	6
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	7
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (38点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示 (連・単の両決算)	
① 部門別・項目別等、損益の分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。	10
② 事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	8
③ 主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか(合併・提携・買収 による業績貢献・進捗状況を含む)。	5
④ 自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示(自主的開示を含む)が十分になされていますか。	6
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	•
① 決算短信の同時配布資料の内容は十分ですか。	2
② 四半期の開示資料の内容は十分ですか。	5
(3) 決算発表	
・ 決算発表および説明会は迅速に行われていますか。	2
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (11点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。	2
② 投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滯なく、十分に行われていますか。	5
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
ホーム・ページを利用して有用な情報提供(過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況)を行っていますか。	2
(3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (16点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	8
(2) 目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明 ・されていますか。	8
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (12点)
IR部門とのミーティング以外に、子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等を積極的に実施していますか。 [過去1年間を目安に評価]	10
② アニュアルレポート、ディスクロージャー誌、ファクトブックの内容は充実していますか。	2

銀行専門部会委員

鮫島豊喜BNP パリバ証券田村晋一バークレイズ証券西村英一郎野村アセットマネジメント

山田 能伸 ドイツ証券

評価実施アナリスト(34名)

幾代 孝四郎 ハ゜インフ゛リッシ゛・インヘ゛ストメンツ 中村 真一郎 SMBC 日興証券 石井 宏 国際投信投資顧問 永本 成克 MU 投資顧問 伊勢 和正 みずほ信託銀行 西野 孝明 モルカ゛ン・スタンレー MUFG 証券 伊奈 伸一 UBS 証券 西村 英一郎 野村アセットマネジメント 今井 DIAM アセットマネシ゛メント 雅 野﨑 浩成 シティク゛ルーフ゜証券 岩下 暢道 大和住銀投信投資顧問 浩 富国生命投資顧問 橋本 花岡 宏行 大槻 奈那 メリルリンチ日本証券 JP モルカ `ン・アセット・マネシ メント 國分 宏二 希 SMBC 日興証券 柊 QBR 斎藤 佳奈 シティク゛ルーフ。証券 摩嶋 竜生 東海東京調査センター 佐々木 太 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券 松野 真央樹 大和証券 佐藤 雅彦 野村證券 水野 年章 農林中金全共連アセットマネジメント 鮫島 豊喜 BNPパリバ証券 峯嶋 利隆 ニッセイ アセット マネシ・メント 瀬戸 浩 りそな銀行 宮本 太郎 みずほ投信投資顧問 相馬 正欣 三井住友信託銀行 八掛 達格 三井住友アセットマネジメント 高井 晃 大和証券 籔谷 和子 シュロータ゛ー・インヘ゛ストメント・マネシ゛メント 野村證券 山田 能伸 高宮 健 ドイツ証券 バークレイズ証券 アムンディ・ジャパン 田村 晋一 渡辺 和夫

コンピューターソフト

新日鉄住金ソリューションズ、IT ホールディングス、野村総合研究所、オービック、トレンドマイクロ、日本オラクル、オービックビジネスコンサルタント、伊藤忠テクノソリューションズ、大塚商会、ネットワンシステムズ、日本ユニシス、エヌ・ティ・ティ・データ、SCSK (計 13 社・コード順)

1. 評価方法等

当業種は、昨年度は優良企業選定の評価を一時休止していたが、本年度は再開し、13社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	 下記本文中の略称 	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基 本スタンス	 経営陣の IR 姿勢等 	7	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	8	32
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	6	16
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報 の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	10
計		26	100

⁽注) 具体的な評価項目および配点は 105 頁参照

(2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは17社の18名である。

2. 評価結果

(1) 総招

本年度の評価結果の概要は次のとおりである(評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は **104** 頁参照)。

本年度は、前回の具体的評価項目のうち、1 項目を新設したほか、併せて一部の項目の配点も見直して評価を実施した。このため、前回と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、63.7点(ちなみに前回は 66.9点)であった。なお、総合評価点の標準偏差は 12.1点(前回 11.0点)となった。

評価項目の5分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、**経営陣のIR 姿勢等**が56%(前回60%)、説明会等が71%(同73%)、フェアー·ディスクロージャーが75%(同77%)、コーポレート·ガバナンス関連が50%(同53%)、自主的情報開示が63%(同73%)となり、全ての分野がダウンした。

具体的評価項目について見ると、全 26 項目のうち、5 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に次の項目は、 多くの企業において満点あるいは 90%台の高い得点率(評価点/配点〈以下省略〉)の評価となった。

- ① 経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている(平均得 点率 95%、〔満点:3 社、90%台:9 社〕)
- ② ホーム・ページに過去の長期財務データ等、当該企業の分析に必要な基本的情報を十分に掲載し、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしている(同90%、[満点:1社、90%台:8社])
- ③ 説明会資料等の付属資料が短信と同日に閲覧できる(同83%、〔満点:11社〕)
- ④ 決算説明会の状況が、終了後同日中に電話やウェブキャストで視聴等ができる(同80%、〔満点:10社〕)
- 一方、次の5項目はいずれもほぼ全社の得点率が低水準であり、また新設の⑤以外は、前回よりも悪化している状況にあり、今後の改善が強く望まれる。

- ① 有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等の開催 (平均得点率 23% 《前回 30%》、〔得点率 20%以下: 11 社〕)
- ② IR 部門以外のセクションへのインタビュー等への積極的な対応 (同 38% 《同 53%)》、[40%以下: 9 社])
- ③ 目標とする経営指標等、それを採用する理由、目標達成のための取組み等の十分な説明(同 **50**% 《同 **52**%》、 [**50**% 台以下: **12** 社])
- ④ 資本政策、株主還元策の十分な説明(同50%(同53%)、[50%台以下:11社])
- ⑤ CSR 報告書・環境報告書の内容の充実性【新設項目】(同 40%、〔40%台以下:11 社〕)

(2) 上位個別企業の評価概要

SCSK (ディスクロージャー優良企業〔2回目〕、総合評価点:79.0点、第1位←3位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率〈以下省略〉71%)が第 2 位、**説明会等**(85%)、フェアー・ディスクロージャー(98%)、コーポレート・ガバナンス関連(61%) および自主的情報開示(75%) が第 1 位となった。

各分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営幹部が取材で直接対応し、そのミーティングが有益であること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に情報が集積されており、同部門の担当者と有益なディスカッションができる点も高く評価された。さらに、主要事業および主要取引先に関しその収益性・将来性について開示する姿勢が見られる等、IR の基本スタンスについて高い評価を受けた。

説明会等においては、利益増減要因を明確に説明していることに加え、説明資料に、顧客業種別売上高構成等や変動要因について十分記載している点等、説明資料における開示が充実している点も高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、目標とする経営指標、目標達成のための取組姿勢等についての説明が相対的に高い評価となった。

自主的情報開示では、受注や売上等の期中の状況説明を十分に行っていることが高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

野村総合研究所(総合評価点:78.4点、第2位←2位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等** (74%) が第 1 位、**説明会等** (84%) が 2 社同得点第 2 位、フェアー・ディスクロージャー (96%) が第 2 位、コーポレート・ガバナンス関連 (57%) および自主的情報開示 (69%) が第 4 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、決算説明会に経営トップが自ら出席して、業界動向や経営戦略等を説明している点が高い評価を受けた。さらに、IR 部門に情報が集積されており、同部門の担当者と有益なディスカッションができる点も評価された。また、全 26 項目中で平均得点率が最も低かった、主要事業に関する説明会・技術説明会等の開催に関し、その時々のテーマ性の高いトピックでの事業説明会の開催が有益であったことで、各社と大きい格差のあるトップの評価を受けた。

説明会等においては、利益増減要因を明確に説明している点に加え、説明資料に、費用の主要項目を記載していること等、説明資料における開示が充実している点も高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

伊藤忠テクノソリューションズ (総合評価点:72.1点、第3位←1位)

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢**等(60%)および説明会等(81%)が第 4 位、フェアー・ディスクロージャー(88%)が第 6 位、コーポレート・ガバナンス関連(59%)および自主的情報開示(71%)が第 3 位となった。

同社は、経営トップが決算説明会において自らしっかりと経営戦略等を説明している点が高い評価を受けた。また、IR 部門に情報が集積されており、同部門の担当者と有益なディスカッションができることが評価された。さらに、主要事業および主要取引先に関しその収益性・将来性や、低収益事業についても積極的に開示する姿勢が見られる等、IR の基本スタンスについて評価を受けた。

説明会等においては、利益増減要因を明確に説明していること等、説明会、インタビューにおける開示が評価

された。

加えて、**自主的情報開示**では、受注や売上等の期中の状況説明や、事業または財務上のリスク情報の開示を十分に行っている点が評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

新日鉄住金ソリューションズ

(総合評価点:70.2点、第4位←5位、分野別では、説明会等(84%)2社同得点第2位、自主的情報開示(73%) 第2位)

同社は、IR 部門に情報が集積されており、同部門の担当者と有益なディスカッションができることが評価された。また、主要事業および主要取引先に関しその収益性・将来性や、自社の都合の悪い情報・低収益事業についても積極的に開示する姿勢が見られる等、IR の基本スタンスについても高い評価となった。さらに、説明会等においては、利益増減要因を明確に説明している点等、説明会、インタビューにおける開示が高く評価された。

加えて、**自主的情報開示**では、受注や売上等の期中の状況説明や、事業または財務上のリスク情報の開示を十分に行っている点が評価された。

以 上

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (コンピューターソフト)

(単位:点)	;	に 回慮さ	½			က	2	1	5	4	9	6	8	7	10	11	12	13	
(単位)	に即した 開示		評価項目3	配点 10点)	順位	-	4	3	2	111	7	7	9	6	10	13	5	12	
	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		ffile		評価点	7.5	6.9	7.1	7.3	5.7	6.3	6.3	9.9	6.0	5.9	4.8	2.9	5.5	6.3
	・ガバナ る情報		評価項目2	(配点 10点)	順位	1	4	3	11	6	2	5	9	7	7	6	12	13	
	4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示		-	計価点	6.1	5.7	5.9	4.4	4.7	0.9	5.3	5.2	4.8	4.8	4.7	4.0	3.5	2.0	
	ディスク		評価項目6	(配点 16点)	順位	1	2	9	8	. 2	4	3	7	11	6	6	12	13	
	3. フトブー・アー・ファー・グー・グー・グート	* } 	[福]		評価点	15.6	15.4	14.0	12.8	14.8	15.0	15.3	13.3	8.5	10.9	10.9	6.4	2.7	12.0
	ピュー、 おける	I R B7	6個項目8	配点 32点)	順位	1	2	4	2	5	7	6	8	9	111	6	12	13	
	2. 説明会、インタ 説明資料等に 開示		Min .	~	評価点	27.2	26.8	25.8	26.8	25.4	24.0	22.5	23.5	24.1	17.7	22.5	16.0	12.2	22.6
	{		評価項目7	(配点 32点)	順位	2	1	4	5	2	6	8	7	6	3	12	11	13	
	 経営陣の1 R 姿勢、 1 R 部門の機能、〕 の基本スタンス 		_	評価点	22.6	23.6	19.3	18.9	18.9	17.0	17.4	17.8	17.0	19.5	11.7	16.5	11.5	17.8	
		総合評価 (100点)				79.0	78.4	72.1	70.2	69.5	68.3	8.99	66.4	60.4	58.8	54.6	49.6	35.4	63.7
	計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計		郭俑对象企業	K-T-Xervel is		(9719) SCSK	(4307) 野村総合研究所	(4739) 伊藤忠テクノソリューションズ	(2327) 新日鉄住金ソリューションズ	(8056) 日本ユニシス	(4704) トレンドマイクロ	(9613) エヌ・ティ・ティ・データ	(3626) ITホールディングス	(7518) ネットワンシステムズ	(4768) 大塚商会	(4716) 日本オラクル	(4733) オービックビジネスコンサルタント	(4684) オービック	評価対象企業評価平均点
	/	順 位	<u> </u>			1 (6	2 (4	3 (4	4 (2	2 (8	9	5) 2	8 (3	6	10 (4	11 (4	12 (4	13 (4	

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は、12.1点、前回は11.0点であった。

26年度評価項目および配点(コンピューターソフト)

1	経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点
1.	性 5 PO III 女 男、III 印 「O 機 化、I II O 基	(32点)
(1)	経営陣のIR姿勢	.
	① 決算説明会に経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか。	4
	② 経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。	6
(2)	IR部門の機能	
	① IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	6
	② IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。	4
	③ 有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。[過去1年間を目安に評価]	4
(3)	IRの基本スタンス	
	① 主要事業および主要取引先に関し、その収益性や将来性について積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
	② 自社の都合の悪い情報や低収益事業についても積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
2.	説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (32点)
(1)	説明会、インタビューにおける開示 〔連結中心(連結会社がない場合は「単独」と読み替える)〕	
	① 利益増減要因は明確かつ十分に説明されていますか。	4
	② 重要な連結会社あるいは関連会社の経営動向が十分に説明されていますか。 [重要な連結会社あるいは関連会社がない場合は満点評価とする]	4
(2)	説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示 [連結中心(連結会社がない場合は「単独」と読み替える)]	L
	① 説明会資料等の付属資料が短信と同日に閲覧できますか。 [閲覧できる:3点 閲覧できない:0点]	3
	② セグメントの分類は的確であり、かつ売上高および売上利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について 十分に説明されていますか。	4
	③ セグメント変更があった場合(合併等を含む)、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか。 ③ [セグメント変更(合併等を含む)がない場合は満点評価とする]	2
	④ 費用の主要項目(労務費、外注費、機器販売原価等)および従業員数等の実績および計画は十分に記載されていますか。	5
	⑤ 顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、また変動要因について十分に 説明されていますか。	4
	⑥ 四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議を含む)を開催していますか。 [全て開催:6点 その他:0点]	6
3	フェアー・ディスクロージャー	配点
		(16点)
(1)	フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
	① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	2
	② 決算説明会の状況が、終了後同日中に電話やウェブキャストで視聴等ができますか。 [終了後同日中にできる:4点 後日できる:2点 できない:0点]	4
	③ 決算説明会の質疑応答の状況が、電話、ウェブキャストあるいはホーム・ページで十分に分かるようになっていますか。	4
(2)	ホーム・ページにおける情報提供	
	・ホーム・ページに過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断 を行うライブラリーとしての機能を果たしていますか。	2
(3)	外国人投資家向け情報提供	
	① 外国人投資家にも配慮した情報提供(ホーム・ページ、説明会資料、アニュアルレポート等)に努めていますか。 [十分である:2点 不十分:0点]	2
	② 外国人投資家向けのIR活動(海外IR)に努めていますか。 [海外IRあり:2点 なし:0点]	2
4.	コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10点)
(1)	資本政策、株主還元策の開示	•
	・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(2)	目標とする経営指標等	L.,
	・ 目標とする経営指標等、それを採用する理由、目標達成のための取り組み等について、十分説明されていますか。	5
	各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (10点)
Ь.		L /IUボ/
э. —	① 受注や売上等の期中データの開示・状況説明は十分ですか。	4
5. ——	① 受注や売上等の期中データの開示・状況説明は十分ですか。 ② 事業または財務上のリスク情報(不採算案件の発生・リスク資産・関連会社の動向等)の開示が十分になされていますか。	4

コンピューターソフト専門部会委員

部 会 長 上野 真 大和証券

部会長代理 宮地 正治 モルカ・ン・スタンレー MUFG 証券

 菊池
 E
 SMBC 日興証券

 黒木
 文明
 ニッセイ アセットマネシ・メント

田中 秀明三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券寺島正大和証券投資信託委託

評価実施アナリスト(18名)

市川	雅敏	三井住友信託銀行	田中	秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
岩渕	啓介	岡三証券	寺島	正	大和証券投資信託委託
上野	真	大和証券	土門	泰	りそな銀行
大谷	章夫	東京海上アセットマネジメント	滑川	晃	シュロータ゛ー・インヘ゛ストメント・マネシ゛メント
大場	剛平	野村アセットマネジメント	引地	真二	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
菊池	悟	SMBC 日興証券	堀	雄介	みずほ証券
黒木	文明	ニッセイ アセット マネシ゛メント	前田	俊明	QBR
小山	洋美	国際投信投資顧問	前田	吉弘	アムンテ゛ィ・シ゛ャハ゜ン
山藤	秀明	QBR	宮地	正治	モルカ゛ン・スタンレー MUFG 証券

新興市場銘柄

ウエストホールディングス、ミクシィ、クルーズ、UT ホールディングス、コシダカホールディングス、 夢真ホールディングス、メッセージ、アドウェイズ、ユナイテッド、日本マクドナルドホールディングス、 フィールズ、セリア、ユーグレナ、オイシックス、エニグモ、ガンホー・オンライン・エンターテイメント、 ドリコム、デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム、セプテーニ・ホールディングス、 プロトコーポレーション、サイバーエージェント、エン・ジャパン、竹内製作所、サン電子、オーデリック、 イリソ電子工業、ワイヤレスゲート、沖縄セルラー電話、エムティーアイ (計 29 社・コード順)

1. 評価対象企業の選定

本新興市場銘柄の個別企業の評価対象は、ジャスダック、マザーズ、セントレックス、Q·Board およびアンビシャスの五つの市場に上場している企業(注1)の中で、時価総額上位(注2)であって、かつその企業を調査対象としているアナリストの数(注3)が一定以上の29社とした。なお、29社中、15社は昨年度からの継続評価対象企業、4社は再対象企業(24年度以来:2社、20年度以来:2社)、10社は新たな評価対象企業である。

なお、本年9月5日に東京証券取引所マザーズ市場から市場第一部へ市場変更となった、**サイバーエージェント**は、マザーズ市場上場時の評価である。

- (注1) アナリストに評価スコアシートを発送する本年5月下旬時点で上場後1年未満の企業は対象から除いている。
- (注 2) 本年度の対象企業の選定にあたって基準とした時価総額は、本優良企業選定のための準備作業開始直前の、 昨年 12 月下旬時点のものである。
- (注3) 本年1月に当協会で実施した、新興市場銘柄をカバーしているアナリストについての調査結果を参考とした。

2. 評価方法等

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		
評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	30
③フェアー・ディスクロージャー	フェアー・ディスクロージャー	2	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報 の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	20
計		10	100

- (注) 具体的な評価項目および配点は 111 頁参照
- (2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは32社の67名である。

3. 評価結果

(1) 総括

評価結果の概要は次のとおりである(ディスクロージャー評価比較総括表は 110 頁参照)。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、4項目の内容の一部と2項目の配点を変更して評価を実施したことに加え、新たな対象企業も複数ある。このため、昨年度と同列には比較はできないが、本年度の総合評価平均点は63.4点(ちなみに昨年度〔評価対象企業28社〕の平均点は、63.6点)となった。また、本年度の総合評価点の標準偏差は6.3点(昨年度6.9点)であった。

総合評価点が 70 点台の水準となった企業は 6 社 (昨年度 5 社)、60 点台が 15 社 (同 14 社) で、60 点台以上の評価となった企業は昨年度より 2 社増加した。他方、50 点台の企業は 7 社 (昨年度 8 社)、40 点台の企業は 1 社 (同 1 社) で 50 点台以下の企業は 1 社少なかった。

評価項目の 4 分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点(以下省略))を見ると、経営陣の IR

姿勢等が 67%、説明会等が 61%、フェアー・ディスクロージャーが 67%、コーポレート・ガバナンス関連が 59% となり全分野共昨年度と同水準であった。

また、アナリストの意見を見ると、経営陣自ら IR を行っていること等その取組姿勢や、IR 部門の対応等その機能について総じて評価できるとの声があった。

一方、全具体的評価項目 (10) の平均得点率について見ると、3 項目が 50%台の水準にとどまり、特に、経営機構(社外取締役の導入等)、経営資源および内部統制についての十分な説明の項目は、多数 (20 社) の企業の得点率が 50%台以下となっており今後の改善が強く望まれる。

(2) 優良企業の評価概要

セリア(ディスクロージャー優良企業〔新規〕、総合評価点:74.3点、第1位←5位)

全社の中で同社の得点率が上位にある分野は、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率〈以下省略〉77%)が 2 社同得点 第 1 位、説明会等(76%)が第 1 位、フェアー・ディスクロージャー(75%)が 2 社同得点第 5 位、コーポレート・ガバナンス関連(67%)が第 3 位であった。

経営陣のIR姿勢等においては、経営陣が自らの言葉で経営戦略を十分に説明していること等、経営陣のIR姿勢が高い評価を受けた。また、改善が必要な点等の開示が詳細であり、適切な情報開示を行っていること等、IRの基本スタンスについても評価された。

説明会等においては、今期業績計画について根拠を示し、整合性のある説明をしている点や、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていることのほか、中長期の戦略に重きを置いた説明がされている点等、説明会、インタビューにおける開示がトップの評価となった。さらに、説明資料に収益および財務分析に必要なデータが記載されていることも評価された。

フェアー·ディスクロージャーに関しては、投資家にとって重要と判断される業績変動やリスク情報等の事項の 開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っている点が評価された。

コーポレート・ガバナンス関連では、経営機構、経営資源および内部統制やリスク管理等について説明していることも評価された。

メッセージ (ディスクロージャー優良企業 [3 回目]、総合評価点: 72.5 点 [昨年度比+6.8 点《上昇幅第 1 位》]、 第 2 位←13 位)

全社の中で同社の得点率が上位にある分野は、**経営陣の IR 姿勢等**(76%)が2社同得点第4位、**説明会等**(73%)が第3位、コーポレート・ガバナンス関連(68%)が第2位であった。

経営陣のIR姿勢等においては、社長がIRの重要性を認識し、自分の言葉で説明するスタンスが高い評価を受けた。また、IR部門がしっかり数値を把握しており、経営陣との情報の乖離がなく、担当者が会社の状況を十分に説明していること等、同部門の機能が評価された。

説明会等においては、会社計画の前提が詳細に開示され、中期的な業績見通しについて数字をもって説明しているため、見通しの透明度が高いこと等、説明会、インタビューにおける開示が評価された。さらに、説明資料に収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていることも評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、経営トップが数字に明るく、資本政策やキャッシュの使途、財務戦略などを十分に説明している点がトップの評価となった。また、経営機構(社外取締役の導入等)、経営資源および内部統制について説明していることも評価された。

また、同社は、昨年度に引き続き対象企業となった 15 社中唯一、5 分野全ての得点率が昨年度を上回り、10 の具体的項目でも 8 項目に同様の改善が見られ、上記のように昨年度比、総合評価点は単独で 1 位、順位は他の 1 社と共に最大アップにつながった。

イリソ電子工業(ディスクロージャー優良企業〔2回連続2回目〕総合評価点:71.4点、第3位←3位)

全社の中で同社の得点率が上位にある分野は、**経営陣の IR 姿勢等** (76%) が 2 社同得点第 4 位、説明会等 (74%) が第 2 位、フェアー・ディスクロージャー (75%) が 3 社同得点第 2 位であった。

経営陣のIR姿勢等においては、社長が四半期ごとの決算説明会において、自ら短期・中長期の経営戦略を説明していることのほか、積極的な投資家訪問を行っている点等、経営陣のIRへの取組姿勢が高い評価となった。また、経営上のリスクや不採算事業についても明確な言及がある等、IRの基本スタンスについても評価された。説明会等においては、今期業績計画について根拠を示し、整合性のある説明をしている点や、四半期の情報開

示が経営実態に即して十分に行われていることのほか、市場環境や自社の立ち位置を分析し、将来展望を示している点等、説明会、インタビューにおける開示が評価された。加えて、説明会資料等において、収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されている点も評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、投資家にとって重要と判断される業績変動やリスク情報の事項の開示が適宜適切に行われ、かつ不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていることが評価された。さらに、ホーム・ページにおいて、同社の分析に必要な基本的情報が多く掲載されている点も評価を受けた。

上記のセリア、メッセージおよびイリソ電子工業の3社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら3社を本年度の新興市場銘柄における優良企業として推薦する。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

エムティーアイ (総合評価点:70.8点、第4位[新規])

全社の中で同社の得点率が上位にある分野は、フェアー・ディスクロージャー (81%) が第 1 位、コーポレート・ガバナンス関連 (66%) が第 4 位であった。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページにおいて、同社の分析に必要な基本的情報が多く掲載されていることや、英文による情報提供を行っていることが高い評価を受けた。また、投資家にとって重要と判断される業績変動やリスク情報等の事項の開示が行われ、かつ不公平や混乱が生じないように注意を払っていることが評価された。

コーポレート・ガバナンス関連では、資本政策、株主還元策、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について説明している点が評価を受けた。また、経営機構(社外取締役の導入等)、経営資源および内部統制について説明していることも評価された。

以上のほか、IR 担当者が経営陣と情報を共有している点や不採算事業の開示が詳細であることが評価された。 また、説明会資料等において、収益および財務分析に必要なデータが記載されている点が評価された。

UT ホールディングス (総合評価点:70.4点、第5位[新規])

同社は、社長自ら IR の場において経営戦略を十分説明していることや、積極的な投資家訪問を行っている点等、経営陣の IR への取組姿勢がトップの高い評価となった。また、中期計画の前提となる数字についてきちんと開示し、計画の説明も十分であることや、情報量が豊富で、業績予想をする上で必要かつ詳細な情報を開示している点が評価された。

以 上

平成26年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (新興市場銘柄)

1.								:			(単位:点)
	臺	評価項目	<□		_		だュー、おける	· X H L L L L L L L L L L L L L L L L L L	Κ		ト・ガバナ する情報
2000 カンナーン	拉	郭価対象企業	(100点)	[編]	価項目3 点 35点)		価項目3 点30点)	雄	·価項目2 点 15点)	11/10 RED	平価項目2 1点 20点)
(2000 シャナーン学 7.4.5 26.9 1.1 2.2.6 1 11.2 5 13.4 1.2.0		ACCUPATION OF			順位	評価点	順位	評価点	順位	1	順位
(4800) カンキェース (4800) カンキェース (4800) カンキェースキングス (4800) エンタブストングストングストングストングストングストングストングストングストングストング	H	(2782) セリア	74.3	26.9	1	22.8	1	11.2	5	13.4	60
144 145 14	2	(2400) メッセージ	72.5	26.6	4	22.0	က	10.4	10	13.5	2
(4548) エルディーティイ 708 55.2 9 20.4 6 121 1 131 131 131 131 131 131 131 131 1	က	(6908) イリン電子工業	71.4	26.6	4	22.1	2	11.3	2	11.4	17
(216) UTウキールディングス	4		70.8	25.2	6	20.4	9	12.1	1	13.1	4
(4751) サイバーエージェント	2		70.4	25.7	∞	21.8	4	10.8	7	12.1	7
(453) サイイーエージェント 68.7 26.0 7 20.3 7 11.3 2 12.1 (2015) サイイーエージェント 68.4 26.3 6 18.5 15 11.3 2 12.3 (2015) プロトニーボーージョント 68.4 26.3 6 18.5 15 11.3 2 12.3 (2015) プロトニーボーーボールディングスト 68.2 26.8 12.0 19.2 11.0 10.4 10.0 11.8 10.0 10.0 11.8 10.0 10.0 11.8 10.0 10.0	9		70.2	25.2	6	20.1	8	11.2	5	13.7	1
(4588) プロトニーポトーション	7		7.69	26.0	7	20.3	7	11.3	2	12.1	7
(4898) セグテーニ・ホールティングス 68.2 26.8 3 19.2 11 10.4 10.4 11.8 11.8 14.9 14.4 14.9 12.2 2.7 14.8 14.9 14.9 14.9 14.9 14.9 14.9 14.9 14.9	∞	1	68.4	26.3	9	18.5	15	11.3	2	12.3	9
(4849) エン・ジャケン (880) 24.9 12 20.7 5 10.6 8 11.8 18.1 (2449) エン・ジャケン (4849) エン・ジャケン (4849) エン・ジャケン (4849) エン・ジャケン (4849) エク・フィーン・グート (48.3 25.0 11 19.5 9 10.1 14 11.7 11.4 (24.3 24.3 18.3 18.3 18.3 18.3 18.3 18.3 18.3 18	6		68.2	26.8	3	19.2	11	10.4	10	11.8	10
(9439) 沖縄セレラー電話 66.3 25.0 11 19.5 9 10.1 14 11.7 (11.4 で	10	(4849) エン・ジャパン	68.0	24.9	12	20.7	2	10.6	8	11.8	10
(368) 沖縄センラー電話 65.1 24.3 13 19.5 9.9 9.9 15 11.4 11.4 (2080) かはをレラー電話 64.4 26.9 1 16.3 22 9.8 17 11.4 11.4 (2080) かに 2080)が表述トレティングス 62.4 2.5 13.7 14 17.4 20 9.7 17.9 11.4 11.4 (2080) を基本トレティングス 62.4 2.2 12.0 19.0 14 9.9 15 11.5 11.5 11.5 (4281) デンタル・アイングス・コンケーティングト 61.8 23.7 14 16.0 23 10.3 12.5 11.5 12.5 11.5 (4281) ガンオー・ブライン・エンテーティグト 60.8 1 21.7 14.9 12.0 12.3 12.0 12.5 12.0 12.5 12.0 12.5 12.0 12.5 12.0 12.5 12.0 12.5 12.0 12.0 12.0 12.0 12.0 12.0 12.0 12.0	11	(9419) ワイヤレスゲート	66.3	25.0	11	19.5	6	10.1	14	11.7	13
(2082) F/リコム (4.4 28.9 1 1 6.3 22 9.8 17 14.4 11.4 11.4 11.4 11.4 11.4 11.4 1	12	(9436) 沖縄セルラー電話	65.1	24.3	13	19.5	6	6.6	15	11.4	17
(3.56) 23.7 14 17.4 20 9.7 20 11.8 (2.56.2) 夢葉ホールディッグス 62.4 22.0 19 19.0 14 9.9 15 11.5 11.5 (3.56.2) 夢葉ホールディッグス 61.8 21.4 21.0 19.0 14 9.9 15 11.5	13	(3793) ドリコム	64.4	26.9	1	16.3	22	9.8	17	11.4	17
(3765) 夢真ホールディングス 62.4 22.0 19 19.0 14 9.9 15 11.5 11.5 (4281) デジカル・アドバタイジング・コンソー・ブスム 61.8 21.4 21.4 16.0 23 10.3 17 12.5 11.5 (4281) デジカル・アドバタイジング・コンソー・ブスム 61.8 21.4 21.4 16.0 23 10.3 12 11.5 11.5 11.5 (4889) オーデリング 61.4 20.7 26. 19.1 12 20 9.0 27 11.6 11.5 11.5 (4889) オーデリング 60.8 21.1 20.7 22.2 17 17.4 20 10.3 22 11.4 17.4 20.7 17.4 20 10.3 12.0 11.4 20.1 20.3 17.4 20.3 17.5 20.3	14	(2497) ユナイテッド	62.6	23.7	14	17.4	20	9.7	20	11.8	10
(4281) デジタル・アドメタイジンゲーニンプム 61.8 21.4 21 18.1 16.0 9.8 17 12.5 12.5 12.5 12.5 12.5 12.5 12.5 11.5 12.5 11.5 11.5 12.5 11.	15		62.4	22.0	19	19.0	14	6.6	15	11.5	15
(3688) オンネル・オンライン・エンターティメント 61.5 23.7 14 16.0 23 10.3 12 11.5 11.5 11.5 11.5 11.5 11.5 11.5 11.5 11.5 11.5 11.5 11.5 11.5 11.5 12.0 1	16		61.8	21.4	21	18.1	16	9.8	17	12.5	æ
(6482) 竹内製作所 (6143) 付内製作所 (6144) 20.7 26 19.1 12 9.6 21 12.0 (6889) オーテリック 60.8 21.1 23 19.1 12 9.0 27 11.6 (3665) エニグキ 60.7 22.2 17 17.4 20 10.3 12 10.8 (1407) ウエストホールディングス 60.2 21.6 20 17.7 18 9.5 22 11.4 (5182) オイシッグス 59.6 21.4 21 17.5 18 9.5 22 11.4 (511) ミクンイ 58.7 22.2 17 15.8 24 9.8 17 10.9 (2707) フィールズ 56.7 22.2 17 15.8 24 9.8 17 10.9 (248) アドカイ 56.7 22.6 16 14.7 27 25 10.2 (248) アナウェイ 56.3 20.9 25 14.9 26 10.5 10.8 (2702) 日本マケナナ 56.3 22.3	17		61.5	23.7	14	16.0	23	10.3	12	11.5	15
(8689) オーデリック 60.8 21.1 23 19.1 12 9.0 27 11.6 9.0 27 11.6 9.0 10.3 12 11.6 9.0 10.3 12 10.8 11.8 10.8 10.8 11.4 10.8 11.4 10.8 11.4 10.8 11.4 10.8 11.4 10.8 11.4 10.8 11.4 10.8 11.4 10.8 11.4 10.8 11.4 10.8 11.4 10.8 11.4 10.8 11.4 10.8 11.1 10.8 11.1 10.8 11.1 10.8 11.1 10.8 11.1 10.8 11.1 10.9 10.8 11.1 10.9 10.8 11.1 10.8 10.9 10.1 10.8	18		61.4	20.7	56	19.1	12	9.6	21	12.0	6
(365) エニグモ 60.7 22.2 17 17.4 20 10.3 12 10.8 (1407) クエストホールブイングス 60.2 21.6 20 17.7 18 9.5 22 11.4 (3182) オイシックス 59.6 21.4 21 17.5 19 9.5 22 11.4 (6736) サン電子 58.7 22.2 17 18.0 17 9.4 24 11.1 (2121) ミシッイ 58.7 22.2 17 16.8 24 9.8 17 10.9 (2767) フィールズ 56.7 22.6 16 14.7 27 9.2 25 10.2 (2489) アドケエイズ 56.3 20.9 25 14.9 26 10.7 26 10.7 (2931) ユーグトナイ 54.6 21.1 23 14.9 26 7.8 29 10.8 (2103) カーズ カーズ 49.3 16.3 29 14.7 27 10.5 9 10.8 (2108) カーズ	19		60.8	21.1	23	19.1	12	9.0	27	11.6	14
(1407) ウエストホールディングス 60.2 21.6 20 17.7 18 9.5 22 11.4 7 (3182) オイシックス 59.6 21.4 21 7.7 19 9.5 22 11.2 11.2 (6736) サン電子 59.1 20.6 27 18.0 17 9.4 24 11.1 10.9 (2121) ミシッイ 56.7 22.2 17 15.8 24 9.2 25 11.1 10.9 (2121) ミシッイ 56.7 22.6 16 14.7 27 9.2 25 10.2 10.9 (2489) アナウェイズ 56.3 20.9 25 14.7 27 9.1 26 10.2 10.8 (2931) コーグレナ 55.3 16.3 29 14.7 27 10.5 9 10.8 10.8 (2102) 日本マグドナルボナルボナルボナルボナルボナルボナルボナルボナルボナルボナルボナルボナルボナ	20	1	60.7	22.2	17	17.4	20	10.3	12	10.8	24
(3182) オイシックス 59.6 21.4 21 17.5 19 9.5 22 11.2 (6736) サン電子 59.1 20.6 27 18.0 17 9.4 24 11.1 11.1 (2121) ミクナイ 58.7 22.2 17 15.8 24 9.8 17 10.9 11.1 10.9 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.1 11.2 11.1 11.2 1	21	(1407) ウエストホールディングス	60.2	21.6	20	17.7	18	9.5	22	11.4	17
(678) サン電子 59.1 20.6 27 18.0 17 9.4 24 11.1 11.1 (2121) ミグンイ 58.7 22.2 17 15.8 24 9.8 17 10.9 17 (2767) フィールズ 56.7 22.6 16 14.7 27 9.2 25 10.2 10.2 (2489) アドウェイズ 56.3 20.9 25 15.6 25 9.1 26 10.7 10.8 10.3 10.3 10.3 10.3 10.3 10.3 10.3 10.3 10.3 10.3 10.7 10.7 10.7 10.7 10.7 10.7 10.7 10.7 10.3 10.3 10.3 10.3 10.3 10.3 10.3 10.3 10.3 10.3 10.3 10.7 10.7 10.7 10.7 10.7 10.7 10.7 10.7	22	(3182) オイシックス	59.6	21.4	21	17.5	19	9.5	22	11.2	21
(2121) ミシシイ 58.7 22.2 17 15.8 24 9.8 17 10.9 (2767) フィールズ 56.7 22.6 16 14.7 27 9.2 25 10.2 (2489) アドケェイズ 56.3 20.9 25 15.6 25 9.1 26 10.7 (2931) ユーグレナ 54.6 21.1 23 14.9 26 7.8 29 10.8 (2702) 日本マグドナルドホールディンズス 52.3 17.2 28 13.0 29 8.8 28 10.3 (2138) クルーズ 74.9 23.3 18.3 10.1 10.1 11.7	23	(6736) サン電子	59.1	20.6	27	18.0	17	9.4	24	11.1	22
(2767) フィールズ 56.7 56.7 22.6 16 14.7 27 9.2 25 10.2 (2489) アドウェイズ 56.3 20.9 25 15.6 25 9.1 26 10.7 10.7 (2931) ユーグレナ 54.6 21.1 23 14.9 26 7.8 29 10.8 10.8 (2702) 日本マクドナルドホールデイングス 52.3 17.2 28 13.0 29 8.8 29 10.8 10.3 (2138) クルーズ 神師対象企業評価対象企業評価対点 63.4 23.3 18.3 10.1 10.1 11.7 11.7	24	(2121) ミクシィ	58.7	22.2	17	15.8	24	9.8	17	10.9	23
(2489) アドウェイズ 56.3 20.9 25 15.6 25 9.1 26 10.7 (2931) ユーブレナ 54.6 21.1 23 14.9 26 7.8 29 10.8 10.8 (2702) 日本マグドナルドホールディングス 52.3 16.3 29 14.7 27 10.5 9 10.8 10.8 (2138) クルーズ 49.3 17.2 28 13.0 29 8.8 28 10.3 10.3 新価対象企業評価対象企業評価対点 63.4 23.3 18.3 10.1 10.1 11.7 11.7	25	(2767) フィールズ	56.7	22.6	16	14.7	27	9.5	25	10.2	29
(2931) ユーグレナ 54.6 21.1 23 14.9 26 7.8 29 10.8 (2702) 日本マクドナルドホールディングス 52.3 16.3 29 14.7 27 10.5 9 10.8 (2138) クルーズ 49.3 17.2 28 13.0 29 8.8 28 10.3 (2138) クルーズ 特別 23.3 18.3 10.1 10.1 11.7 11.7	26	(2489) アドウェイズ	56.3	20.9	22	15.6	25	9.1	26	10.7	27
(2702) 日本マクドナルドホールディングス 52.3 16.3 29 14.7 27 10.5 9 10.8 (2138) クルーズ 49.3 17.2 28 13.0 29 8.8 28 10.3 評価対象企業評価対象企業評価対点 63.4 23.3 18.3 18.3 10.1 11.7 11.7	27		54.6	21.1	23	14.9	26	7.8	29	10.8	24
(2138) クルーズ 49.3 17.2 28 13.0 29 8.8 28 10.3 新価対象企業評価平均点 63.4 23.3 18.3 10.1 10.1 11.7 11.7	28		52.3	16.3	29	14.7	27	10.5	6	10.8	24
63.4 23.3 18.3 10.1	29		49.3	17.2	28	13.0	29	8.8	28	10.3	28
		評価対象企業評価平均点	63.4	23.3		18.3		10.1		11.7	

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.3点、昨年度は6.9点であった。

26年度評価項目および配点(新興市場銘柄)

	配点
	(35点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していますか。 ・ [1点~15点の整数で評価]	15
(2) IR部門の機能	
IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していますか。 [1点~10点の整数で評価]	10
(3) IRの基本スタンス	
会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていますか。 [1点~10点の整数で評価]	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (30点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。また、四半期の情報開示は経営実態に即して① 十分に行われていますか。 [1点~10点の整数で評価]	10
中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていますか。 ② [1点~10点の整数で評価]	10
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
収益および財務分析に必要なデータは十分に記載されていますか。 [1点~10点の整数で評価]	10
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (15点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等)の開示は ・ 迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。 [1点~10点の整数で評価]	10
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
ホーム・ページ(ウエッブ・サイト)に、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載されていますか。 - また、英文による情報提供を行っていますか。 [1点~5点の整数で評価]	5
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (20点)
(1) 資本政策、株主還元策等の開示	
資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に ・ 説明されていますか。 [1点~10点の整数で評価]	10
(2) 経営機構、経営資源および内部統制について	
経営機構(社外取締役の導入等)、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか。 [1点~10点の整数で評価]	10

新興市場銘柄専門部会委員

部 会 長 納博司 いちよし経済研究所 部会長代理 得能 修 インベ、スコ・アセット・マネシ、メント 繁村 京一郎 野村證券 中川 雅嗣 国際投信投資顧問 中野 次朗 日興アセットマネジ・メント 東田 曉 野村アセットマネジメント 南 利昭 三井住友信託銀行 山口 威一郎 大和証券投資信託委託

渡辺 真理子 UBS 証券

評価実施アナリスト (67名)

		·			
安藤	義夫	大和証券	田中	聡	大和証券
石塚	浩一	DIAM アセットマネシ゛メント	田中	俊	SMBC フレンド調査センター
石飛	益徳	エース経済研究所	田村	真一	極東証券経済研究所
石橋	剛	三井住友アセットマネジメント	寺島	正	大和証券投資信託委託
市川	雅敏	三井住友信託銀行	得能	修	インヘ゛スコ・アセット・マネシ゛メント
伊藤	琢	ニッセイ アセット マネシ゛メント	富田	展昭	極東証券経済研究所
井上	直之	第一生命保険	中川	雅嗣	国際投信投資顧問
入沢	健	立花証券	永田	和子	QBR
岩渕	啓介	岡三証券	中野	次朗	日興アセットマネシ゛メント
岩本	誠一郎	みずほ投信投資顧問	並木	浩二	JP モルカ゛ン・アセット・マネシ゛メント
大石	益美	いちよし経済研究所	納	博司	いちよし経済研究所
大谷	章夫	東京海上アセットマネジメント	成清	康介	野村證券
大原	一真	野村證券	花井	由紀子	日興アセットマネシ゛メント
忍足	大介	JP モルカ゛ン・アセット・マネシ゛メント	張谷	幸一	いちよし経済研究所
織田	浩史	SMBC 日興証券	東田	曉	野村アセットマネジメント
乙川	真一	丸三証券	樋口	夏子	三井住友信託銀行
片山	智宏	三井住友信託銀行	平林	大	第一生命保険
金森	都	SMBC 日興証券	平松	謙一	東京海上アセットマネジメント
城戸	謙治	みずほ信託銀行	広住	勝朗	大和証券
栗島	理恵	水戸証券	福永	敬輔	三井住友信託銀行
近藤	将人	三井住友信託銀行	藤井	真由美	インヘ゛スコ・アセット・マネシ゛メント
酒井	洋	SMBC フレンド調査センター	増野	大作	野村證券
坂井	ゆかり	三菱 UFJ 信託銀行	松嶋	俊介	三井住友アセットマネジメント
坂田	喜彦	立花証券	松村	茂	SMBC フレンド調査センター
桜井	雄太	野村アセットマネジメント	南	利昭	三井住友信託銀行
佐藤	俊郎	極東証券経済研究所	安田	秀樹	エース経済研究所
佐渡	拓実	大和証券	山口	威一郎	大和証券投資信託委託
繁村	京一郎	野村證券	吉田	純平	野村證券
髙世	智明	東京海上アセットマネジメント	吉田	理美	野村證券
高橋	圭	みずほ証券	米島	慶一	バークレイズ証券
高橋	豊	極東証券経済研究所	若林	惠太	水戸証券
宝田	めぐみ	東洋証券	渡辺	真理子	UBS 証券
竹内	織絵	インヘ゛スコ・アセット・マネシ゛メント	渡辺	洋一郎	水戸証券
多功	英貴	シティク゛ルーフ゜証券			

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

個人投資家向け情報提供

大東建託、日本ハム、アサヒグループホールディングス、旭化成、昭和電工、野村総合研究所、アステラス製薬、JXホールディングス、小松製作所、日本電産、オムロン、シスメックス、日産自動車、富士重工業、ニコン、三井物産、三菱UFJフィナンシャル・グループ、みずほフィナンシャルグループ、ヤマトホールディングス、日本郵船、KDDI、東京瓦斯、大阪瓦斯(計 23 社・コード順)

1. 評価対象企業の選定

本優良企業選定の評価対象企業は、本年度のディスクロージャー優良企業選定対象である各業種(16業種)および新興市場銘柄についての選定結果における上位1割の企業(小数点切上げ)のうち、平成25年7月から26年6月までの間において、「個人投資家向け会社説明会」を開催している23社とした。

本年度の評価対象企業の内訳は、継続対象が 18 社、再対象が 2 社、新規が 3 社である。また、新規対象以外では、本選定を開始した 17 年度以降 10 回連続対象は 2 社、9 回目 3 社 (9 回連続 2 社、8 回連続 1 社)、8 回目 2 社 (3 回連続 1 社)、7 回目 1 社 (3 回連続 1 社)、6 回目 1 社 (3 回連続 1 社)、5 回目 7 社 (5 回連続 4 社、3 回連続 1 社、2 回連続 2 社)、4 回目 1 社 (2 回連続 1 社)、3 回目 3 社 (3 回連続 1 社、2 回連続 1 社)となっている。

2. 評価方法等

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	本文中の略称	評価 項目数	配点
①個人投資家向け会社説明会の開催等	個人投資家向け会社説明会	4	21
②ホーム・ページにおける開示等	ホーム・ページ	9	61
③事業報告書等の内容 (注)	事業報告書等	3	18
計		16	100

(注) 直近事業年度の事業報告書(または報告書)、株主通信(または株主の皆様へ)など株主や個人投資家が容易に取得可能な、事業・業績の概況について、分かりやすい解説を行っている IR 関連資料(アニュアルレポートは除く)として作成しているもので、会社側から提供のあったいずれか一種類を評価対象とした。

(2) 具体的評価項目と配点および評価方法

具体的な評価項目および配点は 117 頁に記載したとおりであるが、このうち、個人投資家向け会社説明会の開催の有無等 5 項目についての評価は、各評価対象企業にアンケート調査を実施し、その回答結果を基に評点を付した。残りの 11 項目の評価は、ディスクロージャー研究会「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員(15 名)が行い、最終評価は両者の評点を合算して行った。

3. 評価結果

(1) 総括

評価結果の概要は次のとおりである(個人投資家向け情報提供における評価比較総括表は 116 頁参照)。 総合評価平均点は 73.1 点で、上位 6 社の評価点は 80 点台(昨年度は 7 社が 80 点台)の高い評価となり、続く上位 17 位までの 11 社が 70 点台(同 7 社)の好評価となった。評価項目の 3 分野について平均得点率(評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉)を見ると、個人投資家向け会社説明会が 61%(昨年度 67%)、ホーム・ページが 78%(同 78%)、事業報告書等が 71%(同 71%)となり、個人投資家向け会社説明会は昨年度を下回った。

評価対象企業へのアンケート結果を基に評価した 5 項目について見ると、個人投資家向け会社説明会の開催に関しては、昨年 7 月から本年 6 月までの 1 年間の平均開催回数は、9.9 回(昨年度:対象企業 20 社で 9.5 回)であり、説明会に社長が参加して説明を行っている企業は、対象企業 23 社中 8 社:35%(昨年度:20 社中 8 社 40%)で、その割合は昨年度をやや下回った。

さらに、個人投資家向け会社説明会の内容をホーム・ページに掲載している企業は、23 社中 17 社:74%(昨年度 20 社中 17 社 85%)であり、説明会の内容を掲載している企業の比率は減少している。

この 17 社について見ると、配布資料に加え動画または音声配信で視聴等ができる企業は、11 社: 65%(昨年度: 17 社中 11 社 65%)、資料のみは 6 社: 35%であり、動画または音声配信の企業の割合は同じであった。

次に、ホーム・ページに関しては、独立した個人投資家向けサイトを設けている企業は、23 社中 22 社:96% (昨年度:19 社:95%) であり、その割合は昨年度とほぼ同程度であった。

また、「各種説明会(個人投資家向け説明会を除く)の内容をホーム・ページに掲載しているか」については、昨年度と同様に全社が対応できている。その内容について見ると、動画掲載が 10 社(43.5% [昨年度 60%])、資料のみ掲載が 3 社となっており、その割合を昨年度と比べると、動画掲載が大きく減少している。

なお、「良くある質問と回答(FAQ、説明会時の質疑応答を除く)」は全社が掲載している(昨年度も同様)。 また、専門部会委員による評価は 11 項目について行った。その評価は、開示内容が、一般投資家に理解できるように具体的に分かりやすく説明・記載されているか、また、利用しやすいように工夫がされているかといった観点から行った。

これらの項目についての評価結果は次のとおりである。いずれの項目共昨年度の水準と大きな変化はなかったが、11項目中7項目が昨年度を上回る評価結果となった(個人投資家向け会社説明会、個人投資家向けサイトの充実度は、ホーム・ページに掲載のある企業についての評価点での比較)。

【個人投資家向け会社説明会】

・ ホーム・ページに掲載された個人投資家向け会社説明会の充実度と分かりやすさ: 平均得点率 [掲載 17 社:76%] (昨年度:掲載 17 社:73%)

【ホーム・ページ】

- ① IR に関するホーム・ページの画面構成、探しやすさ、分かりやすさ等を含めた充実度: 平均得点率(以下省略) 83%(昨年度: 85%)
- ② 個人投資家向けサイトの画面構成、探しやすさ、分かりやすさ等を含めた充実度:[サイト有り:22 社:80%](同:19 社:82%)
- ③ 事業内容(主力商品、主力サービス等)の説明の分かりやすさ:79%(同80%)
- ④ 各種説明会資料(個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載資料を含む)について
 - A. 業績動向の説明の具体性と分かりやすさ:78%(同76%)
 - B. 業界動向の説明の分かりやすさ:69% (同 66%)
 - C. 経営目標、経営戦略の説明の具体性と分かりやすさ:78%(同76%)
- ⑤ 良くある質問と回答(FAQ)の充実度と分かりやすさ:70%(同:68%)

【事業報告書等】

- ① 全体として、図表を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が理解しやすいような工夫度:平均得点率〈以下省略〉75%(昨年度:73%)
- ② 経営方針、中・長期経営ビジョンの説明の簡潔度と分かりやすさ:65%(同68%)
- ③ 業績の動きの説明の分かりやすさ:72%(同70%)

(2) 優良企業の評価概要

J X ホールディングス (総合評価点: 86.3 点、第1位、[2回連続2回目の優良企業・評価対象: 2回連続4回目〕) 同社は、分野別では、個人投資家向け会社説明会 (得点率〔評価点/配点〕 (以下省略)90%)が第5位、ホーム・ページ (85%)が第3位、事業報告書等 (同社は株主通信(第4期ご報告))(87%)が第2位となった。 具体的評価項目の評価概要は次のとおりである。

個人投資家向け会社説明会(この項目の評点は、開催回数に応じ、2回以上:2点、1回:1点の2段階とした。) は、15回開催され、社長が参加して説明を行っている。説明会の内容は、ホーム・ページで動画配信され、グループ全体の体制、事業の概略、シェアー等について、見やすい図表と的確な説明で、同社がどのような会社か、個人投資家の理解を深める工夫が見られることが評価された。

ホーム・ページにおいては、IR に関し、株主・投資家情報のトップページの「IR 担当者が答える!よくわかる JX グループ」の画面を通じて、会社の事業内容等の情報を探しやすくする画面構成に工夫が見られることが高い 評価となった。また、掲載されている各種資料での業績動向に関し、業績の推移について、経常利益の過去 5 期 の実績と当期見通しおよび来期予想をグラフにより分かりやすく示している点や、各事業の利益を前期と比較し 増減要因を分析しており、具体的に理解できること等が高く評価された。

事業報告書等については、経営方針等に関し、現在推進中の第2次中期経営計画の取組みについて、見開きの紙面を使い写真や図表等を多用して、事業毎の戦略と施策を分かりやすく丁寧に説明している点が高く評価された。また、業績動向に関し、連結業績や各事業別経常利益の3期の動きを大きいグラフと数字で見やすく示していることや、主な増減要因、決算のポイントを簡潔に記載してあり、分かりやすさへの工夫が見られる点が高い評価を受けた。

シスメックス (総合評価点:83.4点、第2位←2位、[3回連続3回目の優良企業・評価対象:同])

同社は、分野別では、個人投資家向け会社説明会(92%)が第 1 位、ホーム・ページ(82%)が 3 社同得点第 4 位、事業報告書等〈同社は期末株主通信(第 47 期)〉(76%)が第 6 位となった。

具体的評価項目の評価概要は次のとおりである。

個人投資家向け会社説明会は、5 回開催され、社長等が参加して説明を行っている。説明会の内容はホーム・ページで動画配信され、写真、図表、アニメーション等を用いた見やすい資料作りに加え、独自のビジネスモデルや収益構造など強みが良く分かる内容になっていること、ポイントの部分に注目をうながす工夫がされていることが高く評価された。

ホーム・ページにおいては、IR に関し、IR のトップページの冒頭部分に大きく個人投資家の入り口を設けていることに加え、事業内容や強み等がどこからでもすぐに探しやすい構成になっているほか、「シスメックスバーチャルツアー」、「血液のおはなし」、「5分でわかる Sysmex の技術」等、分かりやすく説明するコンテンツを配置していることが高い評価を受けた。また、FAQ に関し、事業内容等の7つの項目に分類し、それぞれに幅広い内容の質問と丁寧な回答を多岐にわたり用意している点が高い評価となった。

事業報告書等については、大き目の冊子で見出しのフォントを大きくするほか、文字も大き目にかつ充実した 図表や写真等を多く使用し、全体のバランスも良く、見やすさと分かりやすさを両立させていることや、内容も 充実している点が高く評価された。

日本電産 (総合評価点:83.0点、第3位←1位、[2回連続8回目の優良企業・評価対象8回連続9回目])

同社は、分野別では、**個人投資家向け会社説明会**(71%)が第 12 位、ホーム・ページ(85%)が第 2 位、事業報告書等〈同社は株主通信(第 41 期事業のご報告)〉(88%)が第 1 位となった。

具体的評価項目の評価概要は次のとおりである。

個人投資家向け会社説明会は、評価対象期間中に **13** 回開催され、社長が参加して説明を行っており、説明会の資料がホーム・ページに掲載されている。

ホーム・ページにおいては、掲載されている各種資料での業績動向に関し、売上高および営業利益率について、直近5期の実績、当期予想および次期目標が、グラフ化されていて分かりやすく、また、決算説明会の補足資料において、四半期ごとの売上高等の業績推移および製品グループ別状況も示されている点が高い評価となった。また、掲載されている各種資料での経営目標等に関し、中期成長戦略において、図表、グラフを多用し、その戦略目標と同社の目指す方向性を理解しやすく示していることも評価された。

事業報告書等については、業績動向に関し、決算ハイライトで主要項目の4期の実績推移と当期の予想をグラフで示し、簡潔なコメントにより分かりやすく説明している点や、製品グループ別業績も写真、数値等のほか、コメントを加えて理解しやすく作成していることが極めて高い評価を受けた。また、経営方針に関し、トップインタビューで、中期戦略目標値を明記し簡潔に説明しているほか、事業ポートフォリオや売上構成比率の変遷についてグラフ等を用いて分かりやすく示している点が高く評価される等、この分野でトップの得点率となった。

上記の**JXホールディングス、シスメックス**および**日本電産**の3社の努力と姿勢は、ディスクロージャーの さらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら3社を本年度の個人投資家向け情報提供に おける優良企業として推薦する。

以 上

平成26年度 個人投資家向け情報提供における評価比較総括表

評価項目		1.個人投資家向け会社説明会の開催等		2. ホーム・ページにおける 開示等	अपृठ	3. 事業報告書等の内容	-{Kts
	然 合 評 值(100F)	開催回数、社長等代表役員 の説明の有無等4項目	代表役員	個人投資家向けサイトの有無や、事業内容、各種説明会資料の分かりやすさ等9項目	トの有無 説明会資 9項目	経営方針、中・長期経営ビジョンや業績動向の説明の分かりやす と等3項目	営ビジョン 分かりやす
		MELL MELL MELL MELL MELL MELL MELL MELL	(配点 21点)	HKII)	(配点 61点)		(配点 18点)
 評価対象企業		評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
 (5020) JXホールディングス	86.3	19.0	5	51.7	3	15.6	3
(6869) シスメックス	83.4	19.4	-	50.3	4	13.7	9
(6594) 日本電産	83.0	15.0	12	52.1	2	15.9	1
 評価対象企業 (23社) 評価平均点	73.1	12.9		47.5		12.7	

26年度評価項目および配点(個人投資家向け情報提供)

(過去1年間に「個人投資家向け会社説明会」を開催した企業について評価:網掛けの項目は対象企業へのアンケート結果を基に評点)

1. 個人投資家向け会社説明会の開催等	配点 (21点)
(1) 過去1年間(前年7月か6本年6月までの間)に個人投資家向け会社説明会を何回開催していますか。 [A.2回以上:2点、B.1回:1点]	2
(2) 個人投資家向け会社説明会は、社長が説明を行いましたか。 [A.社長が行った:3点、B.社長以外が行った:1点]	3
(3) 個人投資家向け会社説明会の内容は、ホーム・ページに掲載されて誰でも閲覧できますか。 [A.配布資料に加え動画または音声で視聴できる:6点、B.配布資料の掲載のみ:3点、C.掲載なし:0点]	6
ホーム・ページに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、分かりやすく(一般投資家に理解) かつ充実していますか。 [1点~10点の整数で評価。掲載なし:0点]	解できるように)、 10
	配点 (61点)
(1) IRに関するホーム・ページは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して利用しやすく、かつ分かりやすく工夫 [1点~4点の整数で評価]	
(2) 個人投資家向けサイト(個人投資家の皆様へ等の独立したサイト)が設けられていますか。 [A.あり:2点、B.なし:0点]	2
(3) 個人投資家向けサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して、充実した内容であり、かつ分かりやすく [1点~5点の整数で評価。個人投資家向けサイトがない場合:0点]	工夫されていますか。 5
事業内容(主力商品、主力サービス等)が分かりやすく(一般投資家に理解できるように)説明されていま[1点~10点の整数で評価]	すか。 10
(5) ホーム・ページに掲載されている各種説明会資料(個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載	資料を含む)について
業績の動きが、具体的に分かりやすく(一般投資家に理解できるように)説明されていますか。 $[1$ 点~ 10 点の整数で評価]	10
B 業界動向が分かりやすく(一般投資家に理解できるように)説明されていますか。 $[1$ 点〜 10 点の整数で評価]	10
経営目標・経営戦略が、会社の強み(業界シェアや他社との差別化等を含む)や課題等を踏まえて、 C やすく(一般投資家に理解できるように)説明されていますか。 $[1$ 点 \sim 1 0 点の整数で評価]	具体的にかつ分かり 10
(6) 各種説明会(個人投資家向け会社説明会を除く)の内容はホーム・ページに掲載されて誰でも閲覧でき [A.動画または音声で視聴できる:5点、B.資料のみ掲載:2点、C.掲載なし:0点]	集 才 か。
ホーム・ページに掲載のよくある質問と回答(FAQ)[説明会時の質疑応答は除く]は、会社の事業内容や(7) 有益な質問項目が設定されている等全体的に充実し、分かりやすいですか。 [1点~5点の整数で評価。FAQの掲載がない場合:0点]	業績を理解するうえで、 5
3. 事業報告書等の内容【注】	配点 (18点)
全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ理解しやすい(1) 工夫がなされて作成されていますか。 [1点~6点の整数で評価]	
(2) 経営方針、中・長期経営ビジョンが分かりやすく、かつ簡潔に説明されていますか。 [1点~6点の整数で評価]	6
(3) 業績の動きが分かりやすく(読み手が理解しやすいよう に)説明されていますか。 [1点~6点の整数で評価]	6

【注】直近事業年度の事業報告書(または報告書)、株主通信(または株主の皆様へ)など株主や個人投資家が容易に取得可能な、事業・業績の概況 について、分かりやすい解説を行っているIR関連資料(アニュアルレポートは除く)として作成しているもので、会社側から提供のあったいずれか 一種類を評価対象とする。

個人投資家向け情報提供専門部会委員

部 会 長 竜沢 俊彦 野村證券

 部会長代理
 牛尾
 貴
 丸三証券

 井上
 政則
 野村證券

井場 浩之 SMBC 日興証券

岩崎 利昭 水戸証券

鵜崎 和彦 岡三証券

宇田川 克己いちよし証券内生蔵 淳みずほ証券大塚 俊一いちよし証券

河合信夫みずほ証券高橋卓也大和証券

船山 省治 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券

 堀内 敏一
 岩井コスモ証券

 守田 誠
 大和証券

吉越 昭二 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券

本著作物の著作権は、公益社団法人 日本証券アナリスト協会®に属します。本著作物の全部または一部を、許可なく印刷、複写、転載、磁気もしくは光記録媒体への入力等、その方法の如何を問わず、これを複製することを禁じます。

証券アナリストによる ディスクロージャー優良企業選定 (平成 26 年度)

平成 26 年 10 月発行

編集兼発行所 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 2-1 東京証券取引所ビル 5 階 電話 03(3666)1515 http://www.saa.or.jp

印刷所 株式会社 太平社